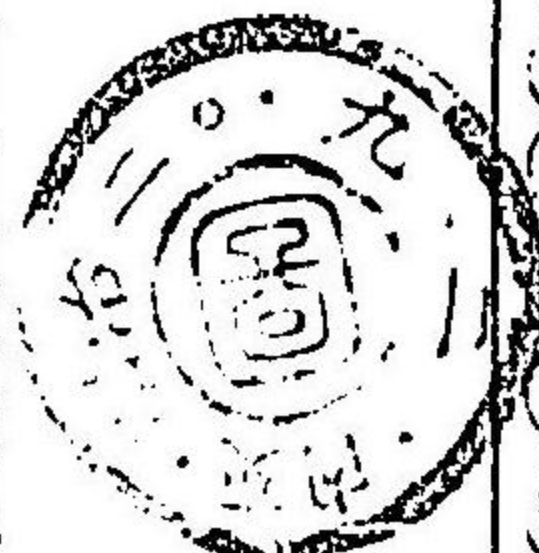


舊法講義

第壹册

舊太政官商法編纂局御反譯
檢取巴里法律學博士ボウステール先生著
外務省參事官法律學士杉村虎一先生 合譯
檢取法學士木頼三先生



No 5793

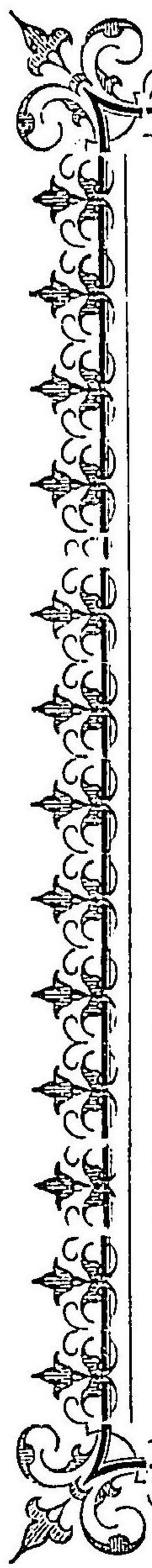
內閣法制局參事官商法編纂委員

長森敬斐君

校閱

內閣法制局參事官法律學士商法編纂委員

岸本辰雄君





商法講義目次

緒言

商法ヲ講スルノ利益第一乃至第二

第一款 社會上及ヒ經濟上商業ノ職分○商法一般ノ性質(第三乃至第五)

第二款 商法典ノ淵源及ヒ其制定 (第六乃至第十八)ナレロ
|| 議決書(第八)海上例規集(第九)アマールフ_井表(第十七)
ウ_井ス_ビー海上法(第十一)聯合都會言合規則(第十二)
海上心得(第十三)一千五百六十三年十一月ノ布告(第十五)
一千六百七十三年ノ王令(第十六)一千六百八十一年ノ王令、
一千六百八十一年ノ王令注解書(第十七)
○商法典編纂ノ事(第十八)

第三款 商法ノ他ノ元素(第十九乃至第二十七)

第一 商法典頒布ノ後之ヲ變更増補シタル諸法(第十九)

第一 一部分ノミチ改正シタル法律

第二 重要ナル改正法律

第三 法典ニ掲ケサル商業事件ニ關スル近來ノ法律

第二 法典以前ノ法令(第二十)

第三 慣例第二十一乃至第二十三)

第四 普通法即民法(第二十四乃至第二十五)

第五 正理(第二十六)

第一篇 一般商業(第二十八)

第一部 商法ニ關スル人

第一卷 商人

第一章 商業(第二十九乃至第五十三)

第一節 性質ニ因リ商業タル事件(第三十三乃至第四十八)

第一款 商品ニ付テ利ヲ射ル事(第三十四乃至第三十八)

第一 日用品及ヒ商品ヲ賣拂フ爲メ買入ル、事(第三十四乃至第三十七)

第二 物品供給ノ業(第三十八)

第二款 勞役賃貸ノ事(第三十九乃至第四十五)

第一 製造ノ企業(第四十)

第二 仲買人ノ企業及ヒ總テ商業世話ノ業(第四十一)

第三 運送ノ企業(第四十二)

第四 口入レ、取次ノ企業(第四十三)

第五 糶賣場(第四十四)

第六 共同遊戯場(第四十五)

第三款 資本ニ付テ利ヲ射ル事(第四十六乃至第四十七)

第四款 海上運送ニ付テ利ヲ射ル事(第四十八)

第二節 附從ノ理ニ因リテ商賣ノ業トナス可キ事業(第四十九乃至第五十一)

乃至第五十一

第三節 法律ノ權力ニ因リテ商賣ノ業トスル事件(第五十二乃至五十三)

至五十三

第二章 商人ト爲ル方法(第五十四乃至第六十五)

第一節 商人タルニ必須ナル要件(第五十四乃至第五十八)

第二節 商人トナル自由ニ制限アル事○商人タル職業ト兼務

ス可ラサル職業(第五十九乃至第六十五)

第三章 商人ノ助成者ノ事(第六十六乃至第七十五)

第一節 商人ノ助成者トハ如何(第六十六乃至第七十一)

第二節 種々ノ關係者ニ利益配分ノ事(第七十二)

給金ヲ定ムル事、給金取極メノ方法、力役者ト雇主ト給

金ニ關シ相談ヲ爲ス事(第七十三乃至第七十五)

第四章 無能力者商業ヲ爲スニ熟練セサル可ラサル事(第七十六

乃至第七十二)

第一節 後見ヲ免レタル幼者ノ事(第七十七乃至第九十)

第一款 幼者商業ヲ爲スニ熟練セサル可ラサル事(第七十七

乃至第八十五)

第二款 商人タル幼者ノ能力ノ事(第八十六乃至第九十)

第一 商賣ノ業ニ付テ論ス(第八十六乃至第八十八)

第二 民事上ノ契約ニ付テ論ス(第八十九乃至第九十)

附録 治産ノ禁ヲ受ケタル者及ヒ裁判所ヨリ定メタル輔佐人アル者ノ能力ノ事(第九十一乃至第九十二)

第二節 結婚セシ婦ノ事(第九十三乃至第百二)

第一款 結婚セシ婦人商業ヲ爲スニ付テ能力ヲ受ク可キ事(第九十四乃至第九十七)

第二款 商人タル有夫ノ婦ノ能力ノ事(第九十八乃至第百)

第一 商賣ノ業ニ付テノ能力(第九十八)

第二 民事ノ事業ニ付テノ能力(第九十九)

第三 商人タル婦ノ爲シタル契約ニ付テ夫カ負擔ス可キ事件(第百乃至第百共三)

附録 夫商業ヲ爲スキ其婦ノ地位(第百一乃至第百二)

第二卷ノ上 商業帳簿

第一章 商人ノ有ス可キ帳簿ハ如何ナルモノニシテ如何ナル方

法ニ依リテ之レヲ記載スル乎ノ事

第一 日用帳簿ノ事

第二 書狀寫留帳簿ノ事

第三 目錄帳簿ノ事

帳簿ヲ記入スル法式ノ事

第一 内部ノ法式ノ事

第二 外部ノ法式ノ事即チ帳簿一般ノ記載法

帳簿ヲ保存ス可キ年限ノ事

第二章 商業帳簿ノ正確ナル証據力

第一款 帳簿ノ商人ノ利益トナル可キ証據タル事

第一節 對手方ノ商人タラサル場合

第二節 對手方ノ商人タル場合

第二款 帳簿ノ商人ノ不利益トナル証據タルコト

第三款 帳簿ヲ参照スルノ方法

第三章 簿記要論

第一款 單記簿法

○日用帳簿ノ記載方

○大帳ノ各勘定口ノ記載方

○借方及貸方ノ事

○諸勘定ヲ精算スルノ方法

第二款 複記簿法

種々ノ勘定口ニ就キテノ説明

第一 一般商品ノ事

第二 金庫ノ事

第三 支拂ヲ受ク可キ手形ノ事

第四 支拂ヲ爲ス可キ手形ノ事

第五 損益ノ事

第六 資本ノ勘定口及ヒ諸勘定口ノ開始ノ事

平均目録ノ事

諸勘定口ノ閉鎖ノ事

第二卷ノ下 夫婦財産ヲ分ツ事

第一章 婚姻ノ契約書ヲ公告スル事

第一 既ニ商人タリテ婚姻ヲ取結フ事

第二 婚姻セシ後商人トナル事

第二章 夫婦財産ヲ分別シタル旨ヲ公示スル事

- 第一 財産分別ノ主要タル事
- 第二 分居ニ附從スル財産分別ノ事
- 第三 一旦財産ヲ分別セシ後復タ之ヲ共通ト爲ス事



ノ利益

第一 商法ヲ講スルノ必用ナルハ今日之レガ證明ヲ竣タザルナリ蓋
 商事ノ日々ノ事業ニ連絡スルヤ何人ト雖モ些少ノ時間モ其範圍外
 ニ在テ満足シ得可キニ非ズ上商事範圍ノ中央ニ立テ殆ンド之ノミニ
 付テ營生スル大小ノ買人ヨリ下自己ノ生存ニ必須ナル物品ヲ之ニ求
 ムル微々タル消費者ニ至リ上信用ノ結構及ヒ會所ノ資本ヲ廣用スル
 大財主ヨリ下僅々タル貯金ヲ損耗セサランコトヲ之務メ由テ以テ利益
 ナ得ルニ齟齬タル金主ニ至ル迄商業上ノ約束ヲ規定スル法律ヲ識得
 スルノ必要ナラサルハ莫シ又同一ノ理由ニ因リ法學士モ亦必ズヤ之

ヲ研究セザルヲ得ズ蓋シ法學士ニシテ苟モ深ク商法ヲ窮ムルヲ無ク
 ノハ總テノ法ノ堂奥ヲ窺フニ由無カルベキナリ

(第二) 且商法ノ學ハザル可ラザル所以ハ學問上ノ利益ト實際上ノ有
 用ナルト互ニ相維繫スルニ在リトス蓋シ商法ナル者ハ我法制中最モ
 民法ニ近接シ固有ノ養液及ヒ特別ノ育成法ヲ有スル民法ノ根幹ニ附
 着スル枝葉ト謂フ可キ者ナリ義務ノ總則ハ諸般ノ契約ヲ支配スルモ
 ノニシテ而シテ商業ノ要ハ諸般ノ契約ニ在リ會社ハ民法ニ在テハ幾
 ノド初步ノ有様ニシテ商法ニ由ルニ非ザレハ完然具定スル所無シ名
 代、保證、連帶ノ事ハ商法中毎ニ遭遇スル所ニシテ權利者義務者ノ訴權
 ナ行フノ權或ハ已レノ權ヲ害スルニ出デタル詐偽ヲ以テ爲シタル所
 爲ヲ不認スルノ權ノ如キ之ヲ適用シタル有益ノ事ヲ商法ニ散見スル
 「實ニ數フ可ラズ又家資分散ノ如キ結婚婦ノ權ノ如キ特權并ニ舊入

質ノ權ノ如キハ商人分散ノ規則ヲ深究スルニ非ザルヨリハ之ヲ詳解
 スル能ハザル可シ

商法ヲ講ズルノ益又一アリ重大ナラザルモノニ非ズ即チ法式ノ簡易
 ナル是レナリ蓋シ法式ノ簡易ナルハ民法ニ關スル立法者ヲシテ意ヲ
 傾カシムル所ニシテ漸ク以テ其摸範トナルニ至ルヤ必セリ商法ニ於
 テ法式ノ簡易ナルハ著大ノ契約ニシテ最モ錯雜セル者モ數線ヲ畫シ
 タル一書ヲ以テ法律上十分證明シ得可キ如キトアリ又時トシテハ公
 吏ノ手帳ニ僅カニ二語ヲ記入シアルニ因リ以テ之ヲ證明シ得可キ如
 キトアリ又數多ノ義務及ヒ甚ダ雜駁セル數多ノ關係モ一小片紙ニ載
 スル數言ヲ以テ爲換狀、命令拂手形、シエーク、ワラン、運送狀之ヲ蔽盡ス
 ルトアリ

此類ノ事件ノ講究ハ商業結構ノ性質タル必ズ活潑ニシテ且開運スル

者タルヲ知悉シテ之ヲ完全スルヲ得可シ今日ニ至テハ缺ク可ラザル
 モノトシテ試ミニ實際商務ノ細狀ヲ窺ヘハ其構成ノ巧妙ニシテ簡易
 中ニ高大ナル者比々皆然ラザル無キヲ驚駭セズンバアラズ夫レ工作
 ニ於テ使用スル所ノ斯ノ驚ク可キ器械ニ留意シ其盤根錯節ノ如キ事
 業モ平凡ナル工丁ノ手ヲ以テ成就シ厘毫ノ失敗無キヲ觀察シテ驚異
 スルトセバ彼ノ一介ノ商賈ヲシテ人ナリ物ナリ信用ナリ資財ナリ之
 ナ世界ノ一隅ヨリ他ノ一隅ニ運轉シ以テ己レガ商務上豫定セル一方
 ニ此運轉ヲ向クルヲ得セシムルノ斯ノ隱匿セル彈力機弁ニ斯ノ有
 力ナル方法ヲ講究スルハ又一層ノ快娛ヲ得ル者タルヲ知ル可シ人智
 ナ以テ物質ヲ使用スルヲ斯クノ如ク其レ周到細密ナルハ固ヨリ當サ
 ニ驚クベキ所ナリト雖モ商務ノ機關ニ熟練セル人時機ニ臨テ毎ニ方
 法ヲ結構シ以テ變更無限ノ狀況ニ應シ且其實行セント欲スル所ノ事

業ノ成果ニ於テ些少ノ失敗ヨリ財産ヲ蕩盡シ名譽ヲ損害ス可キヲ以
 テ決シテ過ツ可ラザルヲ歎彼レノ如キモ亦驚異スベキモノナラズヤ
 商業活法ニハ此ノ如ク其レ變更ス可キ事態アリ又商業世界ニハ人智
 發明ノ進歩シテ止マラザル等ノ事アルヲ以テスルレハ法學士ノ職務
 クル愈々高ク愈々大ナリ當サニ間斷無ク學問ヲ開達シ以テ此進歩ヲ
 追ハザル可ラズ蓋シ法學士ニ於テ爲ス可キノ業ハ新規ナル此關係即
 チ創定シ或ハ變易シテ止ム無キノ此契約ノ法理ヲ考定スルニ在リ此
 業タル原則ノ區域ヲ擴張シ觀察ノ點ヲ高フシ其包含スル所ヲ擴メ形
 勢ノ變更無限ノ中ニ於テ道學上千古不朽ノ大真理ヲ發明シ深ク意ヲ
 注ヒテ事物本然ノ性ヲ剖判シ以テ災害ヲ排斥シ活動力ノ伸張ヲ煩ハ
 サズ以テ之ヲ光燭シ又活動力ノ要理ハ決シテ正義上ノ純然タル規則
 ト相背馳スルモノニ非ザレバ或ハ其力ノ正路ヲ誤マルヲアルモ以テ

其要理ヲ認メザルコトアル無ク一ニ之ヲ矯ムル等ナリ以上列記シタル諸件ヲ簡約シ以テ有力ナル一法則ヲ設定スルハ亦學者ノ業ニシテ即チ學問ノ名タルニ背カザル所ノ者ナリ

見識狹少ナル者ノ如キハ事態ノ變遷常無キヲ觀テ復タ原則ナル者ハ存スルコト無シト信ズルニ傾向シ只多少得ル所アル心思ノ茫然タル薄光ヲ以テ法理ヲ了會スルヲ得可シト以謂ヘリ然レド眞理ニ通曉セル者ハ乃チ眞理ハ一轍ナリ道德ハ一義ナリ學問ハ一道ナルコトヲ深く信シテ疑フコト無ク以テ此一轍一義一道ヲ發明セント欲スルナリ夫レ其之ヲ發明センコトヲ欲ス乃チ天ノ助力ト己レガ強勉トニ頼リテ以テ其志ヲ達スルヲ得可シ

此緒言ニハ左ノ三件ヲ講ズル爲メ三款ヲ設ク可シ

第一 社會上及ヒ經濟上商業ノ職分商法一般ノ性質

第二 商法典ノ淵源及ヒ其制定

第三 商法ノ他ノ元素

第一款 社會上及ヒ經濟上商業ノ職分商法一般ノ性質

(第三號) 道德及ヒ社會上商業ノ職分 當今佛國ニ於テ教授セル學科

ニ於テハ稍々商業ヲ貴重スルコトナリ其社會上ノ職分ヲ能ク判別スルニ到リシト雖モ往時ニ溯リテ學風ヲ追思スルニ精神若クハ農業上ノ勞働ヲ除クノ外ハ總ベテ之ヲ輕視シ奴隸自由ヲ得タル者其他至賤ノ人民及ヒ外國人一手ニ放委シタリ問々又民衆ノ中或ハ之ヲ尊重セシ者アリト雖モ其民衆タル吾人ニ文學ヲ遺サベリシモノナリ古風ノ追念ニ基キタル迷謬ハ近世ニ及テ實ニ甚シキ弊害ヲ生シ就中自由職業者(代言師、教師等)ノ業ヲ謂フ政府ノ官吏、新聞記者ノ如キハ愈々饒多ニシテ官職ニ弊害ヲ生シ爲メニ其方向ヲ失フテ無用ノ人タル

者算ヲ可ラサルニ至レリ（ハスチア小冊數篇就中學士及ヒ社會黨黨參
看一千八百六十三年グネーマンマス巴里
全集第四篇四）夫レ商業ナル者ハ決シテ卑賤ナル業務ニ非ズ實ニ高大
百四十二丁（夫レ商業ナル者ハ決シテ卑賤ナル業務ニ非ズ實ニ高大
ニシテ且貴重ナル職務トス彼ノ一身道德ノ義ニ於テ汝ガ額ニ汗シテ
以テ汝ガ麵包ヲ得可シト云フ即チ是レ勞働ノ一大法ニシテ而テ此大
法タル經濟ノ分業法ニ由ルモノナリ蓋シ人々自己ノ需要品ヲ悉皆作
出スルヲ無ク一種ノ物ノミヲ多ク作出シ其需要品ハ貿易ニ因リテ之
ヲ得ルヲトセバ則チ其收入高タル巨大ニシテ而ノ一身ニテ諸物ヲ作
出スルヨリモ得ル所甚タ大ナリトス是ヲ以テ公道、仁慈、愛國ノ點ニ於
テ人各々其業ヲ專ラニシ以テ全社會ノ爲メニ巨大ノ富ヲ生ズルヲア
ラハ則チ各人モ亦以テ數多ノ幸福ヲ獲テ而シテ一人モ其有テ奪ハル
、ヲ無キナリ（ハスチア經濟要理第一章自然結）往昔ニ在テハ致富ノ法
唯一アリシノミ是レハスチアノ嘗テ能ク証明シタル所ニシテ其法タ

ル財物ノ在ル所ニ就ヒテ之ヲ奪取スルニ在リテ即チ各人或ハ一國ノ
富有ハ他人或ハ他國ノ零落スルニ非ザルヨリハ之ヲ得ル能ハザリキ
實ニ致富法ノ初步ト謂フ可キノミ然レモ幸ヒニシテ近世ノ開化ニ因
リ其趣チ一變スルニ至レリ即チ各人及ヒ各國ノ間ニ於テ分業法ノ行
ハル、ニ因リ各人各國ニ於テ己レガ需要ノ高ヨリモ多量ニ產出シ以
テ其快樂ノ度ヲ増加シ得ルノミナラス又同時ニ人間有形上ノ昌盛ヲ
保証スル財產ノ高チ増殖スルニ至レリ
ノ卷參看全集第四篇三百九十四丁（ハスチア小冊數篇中所有及ヒ奪掠）之ニ由テ是ヲ觀レバ凡ソ商人タル
者唯收益ノミヲ目的トナサズ其職ノ輕カラザルヲ了解シ能ク篤實ニ
シテ計慮ニ乏シカラズンハ則チ其地位及ヒ其業ノ品位ハ高大ナル者
タルヲ知ル可シ

又商業ハ萬國ノ間ニ在リテモ平和ヲ保タシムル者ニシテ自由貿易ノ

如キハ此事ニ付テ最モ以テ有用ノモノタリ

(第四号) 社會ノ經濟及ヒ法律ニ於テ商業ノ占有スル地位 經濟學ニ於テハ(マツセー第十一丁) 作出即チ工作ヲ分チ三種トス農業ト云ヒ(二

比較)

三ノ輩ノ別業ニ列スル搾取工作モ亦此中ニ入ル工業ト云ヒ商業ト云

フ農業ハ原品ヲ作出シ製造工業ハ原品ヲ種々ノ需要ニ充テシメンガ爲メ之ヲ變製シ商業ハ製造者ヨリ之ヲ消費者ニ運送スル業ナリ

農業工作ニ付テハ民法ヲ以テ大概足レリトス可シ何トナレバ則チ農業工作タル土地所有主若クハ小作人ト土地トノ一定ノ關係ト簡易ナル僅少ノ契約トニ關スルニ過ギザレバナリ且其業タルヤ徐々處理ス可キモノナルガ故ニ諸人ノ權利保護ノ爲メニ民法典ニ設ケタル總法式ヲ充タスハ容易ノ事タル可シ

之ニ反シテ他ノ二種ノ事業ニ至テハ其約定ノ繁多ナル又其迅速ノ必

要ナル最モ簡便ナル制度ナガル可ラス蓋シ此二種ノ營業タル元ト貨物ノ運轉ニ基クモノナリ而シテ其運轉ハ商業ノ直接ナル目的ニシテ工業ニ付テハ此運轉ハ直接ナル目的ニ非サルモ亦之ヲ行フニ欲ク可ラザルノ要件ナリトス何トナレハ則チ工業ハ斷ヘズ原品ヲ要シ且製造物ヲ散布スルモノタレバナリ

商法ノ目的ハ乃チ右ノ如キ迅速取引ノ方便ヲ構成スルニ在リテ而シテ其方便ハ實際ノ要用慣行ニ因リ昔年ヨリ規定シ近年又變換シタルモノアルナリ

(第五號) 商法一般ノ性質 上文ニ説キ來リタル如ク商業上ノ事件ニ付テハ立法者ニ於テ特別ノ規則ヲ設定セザルヲ得サル所以ハ其最モ非常ナル迅速ヲ要スルニ在ルナリ然リト雖モ商業ハ其他尙ホ民法ニ於ケルヨリ最モ善ク確立スル信用ナル者ヲ要ス蓋シ信用ハ迅速ヲ補

助スルモノナルモ屢々之ト相須テ離ル可ラザルコトアリ又最モ確保ス可キ安寧ナル者モ亦商業上必要ノ者ナリ則チ商法ニ於テ満足セシメザル可ラザル所ノ者ハ該三種ノ必要是レナリ故ニ之ヲ満足セシムル爲メニ用ヰタル方法ハ即チ商法ナル者ニ缺ク可ラザル性質ヲ與フル者ナリ(ブラウソール商法論第壹篇第二十六丁及ヒ其以下參看)迅速ナル事ハ僅々一日間ニ於テ許多ノ有益ナル事業ヲ總括スルヲ得セシムル者ニシテ契約ヲ結成シ之ヲ証明シ又其契約ニ因リテ生ズ可キ爭論ヲ決定スルニ付テ特別ナル規則ノ設ケ無キ能ハザル所ノ者ナリ彼ノ契約ヲ取結ブノ容易ナル二箇ノ書面中ニテ交換スル數行ノ文字ヲ以テ遠隔ノ者ト之ヲ取結ビ時トシテハ慣例ニ因リ一層簡易ナル文休ヲ以テシ又己レガ名前ヲ出スニ及ハズシテ彼我ノ遭遇ヲ保ス可キ地(商人集會場)ニ於テ至短ノ時間數語ヲ交ヘタル後僅ニ二語ノ口頭

ヲ以テシ又書面ヲ以テ委任スル如キ冗長ナル手數ヲナスコト無クシテ紹介人(仲買人、商業世話人、手形賣買世話人)ヲ使用スルノ容易ナル事又證人或ハ民法ノ法式ニ遵フニ及ハザル書面ヲ以テ契約ヲ證明スルノ容易ナル事又證券ニ些少ノ記入ヲナシテ(命令證券債主權ヲ讓渡シ或ハ唯證券ヲ引渡スノミニテ無記名證券)之ヲ讓渡スノ容易ナル事又簡略ニシテ入費少ナキ訴訟手續ニテ足レリトスル事等ハ即チ是レ商法ナル律令ノ利益アル概要ナリ信用ハ商人ニ必要ナルモノナリ即チ必ス高ニ限リアル所ノ一己ノ資本ヲ以テ毎ニ差支ヲ生スルナク其業務ヲ増加スルヲ得可ケレハナリ又商人タル者迅速ニ事務ヲ處弁スル爲メ其取引先ニ証券ヲ供與セザルヲ得大ニシテ其証券タル法律所定ノ保証ニ因リ取引先ノ者之ニ信ヲ置クコトヲ得可シ是レ爲換手形、命令拂手形、受取証、ウツランシエ

一ノ等ノ如キ流通即チ信用証券ノ起ル所以ニシテ其近世ニ至リ實際大ヒニ開達シタル所以ナリ又商業上ノ抵當チ容易ナラシメ且總ベテ右等ノ方法ヲシテ融通取組計算 保險會社、銀行、商人集會場、共同倉庫、等千百ノ方法ニ由リテ同一ノ目的ニ向ハシムル者ハ職トシテ信用ニ基カサルハ莫シ

又安寧ハ商法立法者ノ供與シタル前二種ノ利益ヲ補助スルモノニシテ、缺ク可ラザルモノナリ蓋シ事務處辨ノ確保ス可キヲ無クシハ何ノ信用アリテカ而シテ迅速ニ事ヲ爲ス乎夫レ債主ノ信用コシテ毎ニ忽チ危險ニ會フコアラハ幾何ゾ能ク其信用ヲ繼續シ得ル乎是レ商人チシテ精密ニ簿冊ヲ整頓スルノ義務ヲ命シタル所以ナリ而シテ其簿冊タル取引先ノ利益ノ爲メニ商人自己ニ對セル證據トナル可キ者ヲ載セタル者ニシテ場合ニ因リテハ其事務上稱譽ス可キ者ト否トチ問ハ

ズ總ベテ密事ヲ發顯シ得ヘキモノトス又商人ニ其婚姻ノ契約書ヲ公ケコスルノ義務ヲ命シタル事商業上ノ契約ニ於テ連帶責任チ非常ニ増加シタル事并ニ保護ノ主意ニ出テタル商人破産ノ細密ナル規則ノ如キ皆此ノ安寧ヲ保維スル爲メニ設ケタルモノナリ又破産規則ニ於テハ立法者ハ負債辨償ニ差支エル者ノ諸債主ノ利益チ計リ其事情チ早ク曉知シタル者、督促ニ嚴ナル者又寛ナル者チシテ他人チ害シ己レ先ツ辨償チ受クル如キ弊無カラフコトニ注意セリ輓近ニ至ル迄ハ商人タル負債主ニ對シテ禁錮ヲ命ズルコトアリシガ此レ亦商人チシテ其義務ヲ執行セシムルニ付テハ一層強大ナル制裁ナリキ之ニ由リテ是ヲ觀レバ凡ソ商業ノ開進セシ諸國ニ於テ商業上ノ約束ニ付テハ法律中特別ナル規則ヲ設ケタル所以并ニ斯ノ一世記ノ初メニ在テ此特別ナル規則ハ甚々重大ノモノトナリテ佛國ノ立法者チシ

テ之ガ爲メニ商法典ト云ヘル一箇ノ法典ヲ設ケシムルニ至リタル所
以チ容易ニ了會スルヲ得可シ而シテ此法典タル亦爾來不備不悉ナル
モノトナリタレバ乃チ其編纂以來數多ノ新法ヲ頒布シ以テ其缺典ヲ
補充シタリ蓋シ此新法ノ規定スル所漸ク増進シテ遂ヒニ幾ノド商法
典ニ相亞クニ至レリ

第二款 商法典ノ淵源及ヒ其制定

(第六號) 昔東方ノ諸國ニ在リテハ商業甚タ隆盛ナリシガ故ニ慣例ニ
アレ記載法ニアレ必ス其法律ナル者アリシト雖モ今其事跡ノ以テ遺
存スル者アルヲ見ズ特ニ基督紀元ノ前第十二世紀或ハ第十三世紀ノ
頃印度ニ於テ船荷抵當貸借ノ事アリシヲ知ルノミ何トナレバ「マナー」
法律ニ於テ此事ヲ記載シタレバナリ(シヨ一チ印度法律集第八卷第
百五十六條及ヒ第五百五十七條)彼
ノフユニシ一國タル其チール府トカルターシユ府ノ間商業繁盛ナリ

シニ拘ハラズ又其商法ノ如何ヲ求ムルコ由ナシ希臘ニ於テモ其屬地
小亞細亞「エジユ」海諸島コラント府就中アテイヤ府ノ如キハ商業ノ
大ヒニ行レタル處ナリシト雖モ法律ニ至テハアテイヤ法ニ付テ纔カ
ニ其二三ノ事情ヲ窺ヒ得ルニ過キス而メ此法タル一モ編纂セラレズ
一條款ノ傳フル者無キヲ以テ之ヲ探求スルニ於テ甚タ難カラザルヲ
得ス是ヲ以テ辯士史家詩人等ノ言ニ就テ右ノ規則ヲ僅ニ散見スルノ
ミナレハ大ニ紛雜ニシテ往々混淆ヲ免レザル者アリ(パルドツシコ一、
海上法律纂集第
一卷第一章及
ヒ第二章參看)○(グルノ一フル府法學大學校博士カイユノ一ル氏ハア
テイヤ法ノ特別ナル事項ニ付キ數多ノ書ヲ著シ其書
ハ有名ナルモノナルガ其商法中デモステイヤ時代アテイヤ商業制ノ
如キ一千八百六十五年ノ刊行ニシテ外國人海關商人集會場商事裁判
所爲換手形保險契約等ニ關スル)歷山王征略ノ後ハアレキサンドル府
法律ヲ記載シ甚タ有益ノ書トス(於テ商業大ヒニ振ヒシト雖モ法律ノ如キ者ハ後世ニ傳ハラザルナ

リロート府ノ如キモ亦商業ノ一大中心トモス可キ地ナリシモ所謂ロ
 ード法ナル者ハ稍々疑ハシク且此法ハ後帝國（後帝國トハ西羅馬帝國
 滅亡後ヨリコンスタン
 チノブルノ陥落ニ至ル迄ノ頃（第七或ハ第八世紀）ニ編纂シタル航海慣
 ノ羅馬帝國ノ別稱ナリ
 習ヲ集メタル者ナリ（ハルツドシュエー海上法律第一卷第二十一丁ヨリ第
 三十一丁迄又第二百九丁ヨリ第二百二十三丁迄
 參看〇シユフール海上法（シシエスト法ニ於テモ
 第一卷第二十九丁參看）
 シテ法學士ノ諸説ヲ聚（シシエスト法ト云ヘル一篇アリト雖此レ唯特別
 録セシメタル者ナリ）ロード法ト云ヘル一篇アリト雖此レ唯特別
 ナル他ノ事ニ關スル者タルノミ（羅馬人ハ元來武人ニシテ農業ニ從事
 スルモノナレハ商業ヲ以テ卑野ノ業トシ自由ノ民ニ不適當ナル事ト
 看做シ舉ケテ以テ奴隸自由ヲ得タル者及ヒ外國人ノ手ニ放委シ海上
 貿易ノ如キハ其征服シタル人民ノミノ營々所ナリキ）
 參看）（ブラウワール第
 一卷第二第三丁
 看）ドニース、メリカルナッス云ク二百八十年ノ人口調査ノ時ハ奴隸商人、

歸住シタル外國人ヲ除クノ外十一万六千人ニシテ之ニ其商人等ヲ加
 ヘザル者ハ商業ハ羅馬人ニ許ササル所タルガ故ナリトシセロンノ言
 ニ商店ニ智能アル者無シト云ヒ又方役者ハ賤業ヲ營ムモノナレハ同
 一ノ國民ニシテ主治者モアリ又運搬者モアルハ余ノ欲セサル所ナリ
 ト云ヘリ羅馬帝國トナリシ以來ハ戰亂漸ク止ミタルヲ以テ商業ノ振
 興ヲ致シ且羅馬ニ於テ諸物品ノ必要ナル因リ遂ニ立法者モ商業ニ幾
 分ノ保護ヲ與フルトナレリ商船ノ軍裝スルニハ租賦ヲ免除シタル
 如キハ即チ是レナリ（シシエト法ニハ上文ノロード法一篇ノ外商法ニ關
 スル二篇アリ職業篇第十四篇及ヒ商業篇（第十四篇）是レナリ然レ此
 篇タル商業ハ奴隸ノ從事ス可キ所ナルチ明ニスル者タルニ過ギズ
 哥爾ニ於テ摩爾塞府ノ商業昌ナリシ者ハ實ニ太古ヨリノ專ナレトモ
 其法律ノ之ヲ徵ス可キ者無ケレバ所謂海上例規（下文第九ヲ見ル可シ）

ナル者ノ基礎ヲ立テシハ羅馬時代ニ既ニ定マリタル慣行ナル可シ
 (第七號)中古奴隸ノ制ヲ廢シテヨリ俄然商業ノ發達ヲ促スニ至リシト
 雖厄不幸ニシテ蠻人ノ襲來アリ又之ヲ繼承セシ時代ノ紛乱アリテ此
 發達ヲ妨ゲタリ第一朝ノ諸王殊ニシヤル、マーギニコノ如キハ大ヒニ
 力ヲ盡シテ商業ノ開進ニ熱心セリ彼ノ白耳西ト交際ヲ結ビ以テ佛國
 ノ商業ヲ保護シ亞拉卑亞國主ト條約ヲ締結シ外國ヨリ學士ヲ召聘シ
 丁人ノ侵入ヲ防ヒテ以テ商業ニ安寧ヲ與ヘタルハ即チシヤル、マーギ
 ニニコノ力ニ由レリ

シヤル、マーギニコ治世ノ後ハ内乱相踵ギ貴族橫奪ヲ事トシ民人災厄
 ヲ被ムリ貨物ノ運轉上數多ノ障害ヲ生セシテ以テ僅ニ盛ナルノ商業
 又衰微ヲ表シ市邑ノ自由ヲ得ルニ至ル迄ハ陸地ノ商業ハ幾ント其跡
 ヲ絶テ猶太人獨リ商業ニ從事シタルニ過ギザリキ唯海上貿易ノミハ

地中海及ヒ大洋ニ行ハレタリシガ十字軍ノ擧アリテ大ヒニ刺衝ヲ此
 商業ニ與ヘ又中古ノ始メニ在リテハ印行ノ業、指方器ノ發明アリ新大
 陸、喜望峯ノ發見アリシガ故ニ商業モ亦一層ノ進歩ヲ加ヘタリト雖モ
 是レ皆佛國外ノ事ニシテ其大ヒニ盛ナリシハ和蘭、西班牙、ビーズ府セ
 ーズ府ウニーズ府ニテアリキ此ノ如ク諸國ニ於テ海上貿易ノ盛昌ヲ
 致セシガ故ニ海上法モ亦俱ニ自ラ開進セシハ明ナリト雖モ其純乎タ
 ル慣例ニ止マリシト久シカリキ爾來地中海沿岸ノ數多ノ都會ニ於テ
 漸々設ケタルノ規則中慣習法ヲ掲載シタル者アルヲ見ルナリ(以太利
トラコーノ規則一千六百十三年)ピース(一千六百十年)ウニーズ(一千二百
五十五年)ジュース(第十四世紀)於テハ數多ノ規則ヲ設ケタリノ規則
是レナリ西班牙ニ於テハウワランスノ慣習法(一千二百五十年)パルス
ロータノ王令(一千二百十八年)又佛蘭西ニ於テハアル、(一千二百五十年)
モンペリユール(一千二百二十三年)マルセイユ(一千二百五十三年)ノ
規則是レナリ)○パルドツシユール、海上法律第四篇及ヒ第五篇參看)是ヲ

以テ今余輩が先ツ開述セントスル所ノ最モ廣汎ナル性質ヲ有スル法
則ハ則チ亦純然タル慣習法ニ外ナラザル海上法ナリトス

(第八号) ナレロン議決書 此書編纂ノ時代得テ而シテ知ル可ラズ蓋

シ少クモ第十一世紀ノ頃ナラン世上一般ノ説ニテハエレチノールド

ギユイエンヌ聖地(即チシユルガザ)ヨリ歸リシ後之ヲ公布シ(一千六百七

慣例ノ題ヲ以テウサスミノ海上法及ヒ聯合都會言分規)ナレロンノ

則ト共ニ之ヲ刊行シタルクレイラツクノ説ニ基クナリ

公証人又ハ書記其寫本ニ就テ確認ヲ爲シタルガ故ニ斯クハ稱スト云

ヘリ然レモ此説タルバルトツシユールノ痛ク排斥スル所トナレリ(バル

シユール海上法律第一篇第三百六丁及第三百七丁)此書五十六條アリ

其中二十五條ハ近代ノ者ニ似タリ是レ大洋沿岸諸港ノ慣例ヲ簡明コ

セシ者ナリ、

ナレロン議決書ハ爾後變改増補ヲ加ヘ模寫シテ法則トナシタル者少

カラズカスチーユノ「バルシダース」(法則) フランドルニ於テダナムノ

議決書セランドニ於テウユストカペールノ法律、和蘭ニ於テ「ナルシナ

ンシー」(法則)及ヒ下文ニ説明ス可キウサスビー法ノ如キ即チ是レナ

リ○(バルドツシユール海上法律第一第四第六篇) (シユール海上第一

篇第三十三丁參看)

(第九號) 海上例規集 海上例規集ハ何ノ時代ノ編纂ニ係ルカ又其何

ノ地ニ於テ編纂セラレタルカ又其文章ハ何ノ國語ヲ用ヒタルカ今日ニ

判然タラズ但一千三百四十三年ヨリ一千四百三十五年迄ニハハルフロ

ーヌ府ニ於テカタローギニユ語ヲ用ヒテ編述シタルノ説ハ最モ信ス

可キニ似タリ(カタローギニユ語ハ一千四百九十四年ニ刊行シタル此

例規集中ニテ最モ古キ者ニ用サタル國語トス) (バルドツシユール海上法

ユール海上法律第一篇第三百六丁) 海上例規集ハ二百九十七章アリ(冊數ニ隨ヘハ二百

五十二章ト云フモ可ナリ) シシエスト「法ノ類ニシテ當時地中海ニ行ハ

レタル法則ヲ載録シタルモノナリ其次第節自ハ甚々整頓セザルモ稍々完備セルモノニテ羅馬法ビザンス法ロード法其他東方ト通商セシ都府市邑就中馬耳塞法ヲ混合記載ス蓋シ此例規タル南方ノ諸國及ヒ地中海ニ在リテハ大ヒニ權力アルモノニシテ北方ノ諸國ニ於テモ亦之ヲ模寫シテ遵守セシト云フ

(第十號) アマルフキ一表 ○アマルフキ一ハサレルタ(以太利ニ在リ

ノ一都會ニノ歐洲各國ノ爲メニ上等海務裁判廳ノ設ケアリテコンブクンチノフルノ人民ト雖モ亦來テ令チ仰ギシ所ナリ一千五百七十年マルクンフレシアナル者「アマルフキ一」表ヲ以テ大權力アリシ者トシ以テ論シタル「ア」アリ世久シク之ヲ知ラサリシガ一千八百四十四年ウ^キエンワ府ノ宮内書庫ニ於テ發見シ翌一千八百四十五年ニ至リナール府ニ於テ之ヲ刊行セリ此表ハ六十六條アリテ其文章ハ或ハ羅甸

語或ハ以太利舊語又或ハ以太利改正語ヲ用ヒタリ

(第十一號) ウキスビー海上法 ウキスビーハゴトラン嶋瑞典ニ在リ

ノ一都會ニシテ昔時北歐羅巴ニ於テ最モ繁盛ナリシ市場ナリ此法ハ日耳曼語ニテ記載セラレ總計六十六條アリ大抵海上例規集及ヒチレロン議決書ヨリ謄寫シタル者ニテ歐羅巴北方就中瑞典人丁抹人ノ法律^キタリ(第四百二十五丁及ヒ其以下)

(第十二號) 聯合都會言合規則 聯合都會トハ北日耳曼ノ商業繁盛ナル都會ニ於テ協議同盟シタル者ヲ謂フ初メコロギニユ、リコベックグンチーノ諸府ニテ此聯合ヲナセシニ爾來其仲間ニ入ル者漸次ニ増加シ幾ンド六十都會ノ多キニ及ヘリバイヨンヌボルドーラロシ、ール府モ又此中ニ在リ此同盟ノ諸都會ニ通シ用ユ可キ法律ヲ「ルセー」ト云フ(言合書ノ義)蓋シ「ルセー」ナル語ハ「ルセ、ユース」(國會ニテ議決セシ事)ヲハ其散會前ニ

記録スルナル語ヨリ來ルモノニテ其故ハリユベツク府ニ會集セシ代
 書ヲ謂フ）此規則ヲ決定公布シタレハナリ一千三百六十
 九年ヨリ一千五百七十二年迄ニ設定シタル言合規則ノ中商法就中海
 上法ニ關セル者少カラズ然レモ其最モ重要ニシテ且完全ナル者ハ一
 千五百九十一年ノ規則トス此規則ハ一千六百十四年リユベツク府ニ
 於テ更ラニ編纂セラレタリト雖モ僅ニ其次第節目ヲ改良スルニ過ギ
 ザリキ（パルドツシユール海上法律第二篇）
（第四百四十八丁及ヒ其以下參看）

（第十三号）海上心得 此書ハ第十六世紀中佛國ルアン府ニ於テ一商
 賈ノ編述セシモノタルハ明カナレモ其編者ノ姓名ハ審ナラス此書保
 險契約ノ事ニ付テハ最モ明細ナルモノニシテ一千六百八十一年ノ海
 上法ニ係レル王命ハ大抵之ニ準據シタリト云フ（パルドツシユール海上
法律第二篇第三百七
十三丁及ヒ
其以下參看）

（第十四号）總ベテ此等ノ法則ハ皆海上法ニ屬スルモノナリ若シ夫レ
 特ニ陸地商法ニ關セル稍々緊要ノ法則ヲ佛蘭西ニ索メント欲セバ第
 十六世紀ニ非ザレバ能ハズ而シテ其法タル又慣習ヲ編纂シクル者ニ
 ハ非ズシテ尋常ノ法律ナリトス
 倒産者ニ對シテ下セル數多ノ王令ノ外（一千五百三十六年十月十日ノ
王令第一世フランソワール）二千
 五百六十年ノ王命（第九世シャルル）等是レナリ又其後同事ニ付キ下セ
 シ王令アリ（一千五百七十九年ノ王令第三世アンリ）一千六百九年五
 月王令（第四世ア）最モ緊要ナル法令ニアリ
（第十五号）一千五百六十三年十一月ノ布告（此布告ハ第九世シャルル、
及ヒロスビタールノ發意ニ出ツ）ハピ里府ニ商事裁判所及ヒ商人集會
 所ヲ創立シタルモノニシテ而メ其缺典ハ一千五百六十五年四月二十
 八日ノ公告ヲ以テ補填シタリ此布告以前既ニリヤン府ニ於テリヤン
 商業保持法ノ設ケアリ又其他ノ數府ニモ亦之ト同様ナル制度アリシ

ト雖モ右布告ハ佛國ニ在リテ一改革ト云フ可キモノニシテ以後諸王ノ漸々改良セシ所ナリ

然レモ佛國ノ爲メニ極メテ緊要ナル法ハ即チコルベルノ意見ニ據テ

制定セラレタル第十四世路易ノ大王令ナリトス(當時工作及ヒ理學ヲ

政府ノ盡力セシ處ハ外國人ヲ招聘シタル事是レナリ故ニ羅紗製造術

ニハウワン、ロベイ帽子製造術ニハインドレイト數學ニハウイゼン解

剖學ニハウエンスロー、天文學ニハカシ

ニ、物理ニハレメル、チ雇入レタリ

(第十六號) 一千六百七十三年ノ王令 此王令ハ陸地商業ニ關スルモ

ノコシテ往時ハ之ヲ商人法典ト稱スルノ慣習アリキ買人サウッリー

ハ此王令編纂委員トナリテ大ヒニ勢力ヲ有セシモノナリシガ抵子其

起稿ニ據テ之ヲ制定セリ此王令十二編アリ大概商法典ノ諸編ト吻合

ス可キモノニシテ只箇條甚タ少キノミ即チ總ベテ一百四條アリ而ノ

其破産倒産ノ事ニ付テハ實ニ痛慨ス可キ闕典アリテ僅ニ十三條ニ過

キズ但シ從前ノ王令ニシテ既ニ此事ヲ規定シタル者固ヨリ少ナシト

セズ(上文第十四參看)今日ノ商法典中此王令ニ準據セシ處甚タ多シト云フ

一千六百七十三年ノ王令註解 此駐解書ハ一大緊要ノモノトス如何

トナレハ商法典ノ草按ニ於テ王令ノ舊規ヲ掲出シタル片ハ其理由ヲ

論ズル丁無クシテ往時ノ著述者ガ説明ヲ引援シタル丁屢々ナリキ即

チ左ノ書籍著者ノ如キハ屢々引用セラル、モノナリ

○サウワリー 著完全商賣(一千六百七十五年)此書ハ莫大ノ効績ヲ致シ甚タ完備

セルモノニシテ理論ノ書ト云ハノヨリ寧ロ實際ノ書ト謂フ可シ又

サウッリーハ諸議論ヲ採録セル商事論說集ナル者ヲ發行セリ

○ジュウリスナル者ハポチエート同時ノ人ニテ其同僚ナリシガ王令

注解書ト云ヘル一書ヲ著セリ其書タル蘊義ヲ載スル丁少ナキモ簡

易確明ニシテ當時甚タ貴重セラレタリシガ今日ニ至テモ亦往々引

用セラル

用セラル、者ナリ

○ポルニエー註解書モ亦同シ○ボチエーハ(一千六百九十年ニ生レ一
 千七百七十二年ニ死ス)王令中ノ數多ノ事項ヲ註解セシ書ヲ著セリ爲換契約論「會社契約辨」ノ
 如キ是レナリ其著書ノ中此書ニ比ブ者無シト云フ「シユビエイドラセ
 ラハ爲換手形論」ヲ著セシガ(一千六百九十三年ノ刊行ニ係ル)ボチエー
 甚タ之ヲ貴重シ數々引援シタルヲアリサウリーガ完全商賈論ノ後
 ハ此書數回ノ刊行ヲ經タリ

(第十七号) 一千六百八十一年ノ王令 此王令ハ海上貿易ノミニ關ス
 ルニ非ズシテ海上ノ諸事ニ係ルモノナリ(海上ノ事件ニ關セル王令ハ
 ト雖凡皆唯公法ノ事件ノミヲ規定シタル者ニシテ私法ナル商法ニ關
 スル者ニ非ズ)一千五百七十三年ノ王令參看(佛國ニ於テ水兵徵
 募法ヲ創定シタルハ即チ此最終ノ法ナル)一千六百七十三年ノ王令ト
 ス○シユフール海上法(簡條甚タ多シ總テ五篇アリ每篇分テ數多ノ卷
 第一篇第四十二丁參看)

トナス每卷抵チ一千六百七十三年ノ王令ヨリ長シ其第一篇ニハ海務
 裁判廳ノ事(十四卷アリ)第二篇ニハ海員及ヒ船舶ノ事(十卷アリ)第三篇
 ニハ海上契約ノ事(十一卷アリ)第四篇ハ港灣警察ノ事(十卷アリ)第五篇
 ニハ海上漁獵ノ事(八卷アリ)ヲ記載セリ其第二第三篇ノミハ海上商法
 典ノ準據スル所トナリ第四第五篇ハ概テ尙ホ今日ニ行ハル
 一千六百八十一年ノ王令 此王令ハ歐羅巴諸國ノ大抵遵依スル所ニ
 シテ世以テ路易第十四世ノ法律上ノ美事トセリ
 一千六百八十一年ノ王令註解書 (一千六百七十三年ノ王令註解書ニ
 付キ余ガ論シタル所ヲ參考ス可シ)

ウッレンハ初メラ、ロシエール府ノ代言師ニテ後檢事トナリシ者ナ
 ルガ(一千七百六十)四十年間盤雪ノ苦ヲ積ミ一千七百六十年ニ至リ
 一註解書ヲ著セシニ其書タル大ヒニ價格アリシヲ以テ商法編纂者

ノ甚タ貴重スル所タリキ

エノリゴントナル者ハ(一千七百八十五年ニ生レ)初メアロウソンスニ在テ上等裁判所ノ代言師ニシテ後マルセイユノ商事裁判所ノ判事トナリ亦世ノ尊敬ヲ受ケタル者ニテ(世之ヲ稱シテ南方ノ光輝ト云ヘリ)一書ヲ著シ保險ノ事ヲ解説セリ

ボナエーハ王令ノ種々ノ事件ニ付キ書ヲ著述セリ海上貸貸契約論

〔船荷抵當貸借論〕保險要論ノ如キ是レナリ(佛國外ニ於テ商法ヲ記述シタル者ノ中ニテ世人ノ屢々引援スル者ハ以太利人トス蓋シ以太利人ハ其國ノ商業地ナル大都會ノ慣習ノ遺傳セシ者ナレバナリ其最モ名アル者ハストラツカ(著書一千六百六十九年刊行)サカクシア(同一千七百三十八年)カザレジョース(同一千六百七十年ヨリ一千七百三十七年マテ)等其人ナリ)

商法典編纂ノ事

(第十八號) 動産ノ漸ク増益シ商業ノ愈々開進繁盛スルニ隨ヒ諸王令屢々改正補足セラレタルニ拘ラス(海上法ニ付テハ職工船舶ニ特權ヲ有スル事ニ關セル一千七百四十七

年ノ公布保險ニ關セル一千七百七十九年ノ公布外國駐留ノ領事ニ關セル一千七百七十六年ノ布告及ヒ一千七百八十六年ノ王令航海警察ニ關セル一千七百八十四年及ヒ一千七百八十六年ノ王令船舶奪取ニ關セル一千七百七十八年及ヒ一千七百七十九年ノ王令〇バルドツシコ一商法第一篇(緒)尙ホ不十分トハナリニケリ論第四十一丁(參看)尙ホ不十分トハナリニケリ去レハ一千七百八十七年ニ於テ委員ヲ設ケ任スルニ王令并ニ商業ニ關スル法令ノ檢閲ヲ以テシタリシモ會々革命ノ大事起リテ爲メニ之ヲ中止スルニ至レリ

共和第十二年第七月十三日(即チ一千八百一一年四月三日)コソシユウル官ノ決定書ニ基キ再ヒ其業ヲ起シ翌年十二月四日ニ至リ遂ニ草按ヲ呈スルニ至レリ其草按タルヤ大市場ノ經驗ト冀望トニ因リ變換セシ外ハ概テ從來ノ王令ヲ記載スルニ過ギザリキ同五日又決定ヲ以テ之ヲ商務議會、商事裁判所、控訴院、大審院ニ下附シ以テ其意見ヲ諮詢シ而シ其意見書ヲ聚録シ三卷トナシ之ヲ印刷ニ附シタリ編纂委員モ亦再

ヒ其草按ヲ檢シ説明書ヲ作り一千八百三年ニ於テ之ヲ刊行セリ之ヲ
 商法典草按檢閱書ト云フ是ノ如ク草按ヲ修正シ以テ參議院ニ送呈シ
 マルモ多年ノ間ハ忘失ノ形ナリキ
 然レモ不良ノ徒詐偽姦猾ヲ逞シ數々破産ヲナシタルニ因リ漸ク一千
 八百六年ニ至リ草按ノ業ヲ繼行スルコトハナレリ同年十一月四日參
 議院ニテ始メテ討論ヲ開キ延ヒテ一年ノ久シキニ及ヒ六十回ノ會議
 ヲ經而シテ此草按ノ各部モ亦民法ノ各卷ト同様ナル手續ニ由リタリ故
 ニ先ツ制法院(參議院中ノ内務部法制部)ヘノ送附アリ而シテ參議院ニテ
 ハ部會(内務部法制部)ノ決議ヲナシ後其總會議ヲ以テ之ヲ決定シ民選
 議院ニ附シ參議院議員一名ヲシテ其理由ヲ説明セシム其後又制法院
 ニ附シ其可否決ヲ取ル制法院ハ議員二名ヲ民選議院ニ出シ其決スル
 所ヲ主張セシム而シテ民選議院ハ之ガ確定議ヲナセリト云フ抑モ此草

按總体ハ分テ五個ノ草按トセラレ各草按ニハ數卷若クハ全一篇ヲ包
 括シ一千八百七年九月中各別ニ確定公布セラレタリ(第一篇第一卷ヨ
 日ニ議決シ二十日ニ頒布セラレ第八卷ハ十一月ニ議決シ二十一日ニ
 頒布セラレ第三篇ハ十二月ニ議決シ二十二日ニ頒布セラレ第四篇ハ
 十四日ニ議決シ二十四日ニ頒布セラレ第二篇ハ十一月十五日
 五日ニ議決シ二十五日ニ頒布セラレタリト云フ)然レモ同月十五日
 ノ法律第一條ヲ以テ右公布ノ効ヲ翌一千八百八年一月一日迄ニ遲延
 シ其日ヨリシテ商法全部ヲ一時ニ施行スルコトシ而シテ其法律第二條
 ナリテ共和第十二年第六月三十日ノ法律第七條ノ如ク商法典ニ定メ
 タル諸事ニ關スル舊法令ヲ廢止セリ此第二條ノ義意ノ如キハ下文ニ
 説明スル所アル可シ
 商法典ハ六百四十八條アリ之ヲ分テ四篇トナシ又每篇ヲ卷章節款ノ
 四種ニ分テリ
 佛國商法典ハ近世各國ニ於テ模範トスル所トナリ白耳義希臘ノ如キ

ハ全ク之ニ模倣シタリ然レモ白耳義ハ又更ニ之ヲ校閲セント企テ既
 ニ第一卷ノ如キハ一千八百六十七年十二月三十日、一千八百七十二
 年五月三日五日二十日及ヒ十二月十五日、一千八百七十三年五月三十
 日八月六日三十日ノ法律ヲ以テ全ク之ヲ改正セリ（外國法律年報一千八百七十三年刊行第三百八十四丁及ヒ一千八百七十四年第三百三十丁并ニ保以太利商法典
 ノ如キ一千八百六十五年ノ新刊法律ニ於テモ亦全ク佛國法律ニ準據
 シ區分ノ如キ一ニ之ニ倣ヒ唯細事ニ至テ聊カ變更シタルノミ即チ賣
 買質入ノ如キ又佛國ニテハ別法ニ屬スル會社法ノ如キハ大ニ其條款
 ナ増加セリ日耳曼ガ一千八百六十九年六月五日頒布ノ法典ハ佛國法
 ニ準據シタル處數多アリト雖モ又大ニ之ヲ變改シタル處モアリ英國
 及ヒ合衆國ハ法典ナル者ナク商法ハ唯從來ノ慣例ト二三ノ條例ヲ以
 テ定メラレ殊ニ英國ノ如キ會社及ヒ分散ノ法モ亦唯慣例ト數個ノ條

例アルノミ

第三款 商法ノ他ノ元素

此元素ニ五種アリ

第一 商法典頒布ノ後之ヲ變更増補シタル諸法

(第十九號) 今茲ニハ其至要ノ者ノミヲ擧グ可シ又小分シテ三種トナ

ス

(第一) 一部分ノミヲ改正シタル法律家資分散並ニ倒産ニ係ル一千

八百三十八年五月二十八日六月二十八日ノ法ハ商法典第三篇ノ全

部ヲ變更セリ

商業上ノ質物並ニ仲買人ノ特權ニ係ル一千八百六十三年五月二十

三日ノ法ハ第一篇第六卷ヲ改正シ以テ之ニ三箇條ヲ増加シタリ

(第二) 緊要ナル改正法律

財産拋棄ノ寛假契約(善意ニテ分散セシ者へ債主其財産ヲ拋棄ニ係
シ之ヲシテ能力ヲ得セシムルヲ謂フ)ニ係
レ、一千八百五十六年七月十七日ノ法律ハ法典第五百四十一條ヲ
改正シ此事ニ關セル四項ヲ挿入シタリ
株式差金會社ニ係レ、一千八百五十六年七月十七日ノ法律(此法ハ
前ノ法トハ異ナルモノナリ)及ヒ有限責任會社ニ係ル、一千八百六十
三年七月十八日ノ法律

此二法ハ會社ニ關スル法典ノ條款ヲ變更セザルモ其數多ノ規則ヲ
修正シタルモノナリシガ一千八百六十七年七月二十四日ノ法律ヲ
以テ廢セラレタリ此六十七年ノ法ハ商業會社ニ關シ會社一般ノ事
ヲ包括シ商法典第一篇第三卷ノ諸事項ヲ改正セルモノトス但シ其
文面ハ變改セザリシナリ(商品賣買世話人ニ關スル一千八百六十六
年七月十八日ノ法ハ其專有權ヲ廢却セリ)

(第三) 法典ニ掲ゲザル商業事件ニ關スル近來ノ法律

公同倉庫ニ附托セル商品取引ノ事ニ關スル、一千八百五十八年五月
二十八日ノ法律

商品卸賣糶賣ニ關スル、一千八百五十八年五月二十八日ノ法(前ノ法
トハ異ナリ)並ニ一千八百六十一年七月三日ノ法律(此法律ハ一千八
百六十三年三個ノ勅令ヲ以テ補充セラレタルモノナリ)

「シエーカ」(此事ハ下文)ニ關スル、一千八百六十五年五月二十三日ノ
法律

海關法ヲ改正シタル商事航海業ニ關スル、一千八百六十六年五月十
九日ノ法律

商業慣例ニ關スル、一千八百六十六年六月十三日ノ法律
民事上ノ禁錮ニ關スル、一千八百六十七年七月二十二日ノ法律(此法

律ハ往時商事ニ於テ禁錮ヲ以テ義務ヲ執行セシムル通法トシタル
トテ廢セシモノナリ
船舶書入質ニ關スル、一千八百七十四年十二月十日ノ法律

第二 法典以前ノ法令

(第二十号) 凡ソ商法典ニ掲ケタル事件ニ關セル其以前ノ法令ハ一千
八百七年九月十五日ノ法律第二條ヲ以テ既ニ盡ク之ヲ廢シタリ然レ
モ此第二條タル又常ニ適用ス可カラザルモノアリ蓋シ法典ニ載スル
所ノ事件ノ中其規定スル所僅ニ二三ノ條ニ止マリ未タ全ク備ハラザ
ルモノアルヲ以テ或ハ舊時ノ法令ヲ引用セサル可ラザルコトアリ例ヘ
ハ商人集會場ノ事、手形賣買世話人ノ事、商品世話人ノ事ニ關スル法律
ノ如キ即チ是レナリ(ロクレ商法典精理小引第七丁及ヒアローセ第九)
事件ヲ除ク外ハ舊法ヲ諸事件ニ適用セザル可ラズト迄ニ言ヘリ

第三 慣例

(第二十一号) 一般ノ論コテハ慣例ナル者ハ全國人民ノ普通ノ承諾ヲ
表スル者タルガ故ニ慣例ハ以テ法ノ規則ト爲スコトヲ得可キ者トセリ
抑モ慣例ナル者ノ法ニ於テ權力ヲ有スルニハ三個ノ性質ヲ具有セサ
ル可ラス(ドラマール及ヒルボワトウワン)
第一版第一編第六百五十一丁

(第一) 慣例ハ一般ナルヲ要ス一般トハ慣例ヲ存在スト云フ地ニ於
テ總テ類似ノ場合ニハ等シク適用ス可キモノタラサルヲ得ス慣例
ノ法ト齊シキ權力ヲ得ルニハ如此一般ナラサルヲ得スト雖モ慣例
擴張ノ點ニ於テハ全佛國ニ適用ス可キ一般ノ慣例ト制限アル一地
方即チ一州一市場ノ如キ地ニ於テ特ニ存スル所ノ地方慣例トテ區
分スルモ妨ケ無シトス

(第二) 慣例ハ又數々實施シタル者タラサル可ラス蓋シ慣例ハ適用

スル所ニ於テ毫モ區別ナシト云フノミニテハ以テ法トナス可ラス
之ヲ適用シタル場合多クアリテ其規則ニ付テハ一般ノ承諾ヲ受ク
ルノ疑ヒ無キモノヌラサルヲ得ス

(第三) 慣例ハ又舊來ノモノヌラサル可ラス故ニ其若干ノ歲月ヲ經

一般ノ承諾ヲ受ケタルモノナルヲ要ス

(第二十二號) 然レハ慣例ニシテ正サシク法律ノ力アルモノハ如何ト

云ハ、此問題ハ數多アルヲ以テ須ラク右權力ヲ適用ス可キ範圍ヲ分

タサル可ラス (ドラマール及ヒルポウトウワン第一版第

一編第六百四十六丁〇マツセ第八十三丁)

ヤ

契約若シ明瞭ナラズ又人定法ニ明文無キハ慣例ナル者確乎タル權
力アリトス(何トナレハ明實ノ志向ニ悖リテ契約ヲ解釋ス可ラザレバ

ナリ)此レ民法典第一千一百五十九條及ヒ第一千一百六十條ニ定ムル
所ニシテ而シテ此規則タル前述ノ理由ニ因リ商事ニ於テモ亦固ヨリ適
用セザル可ラザル者ナリ蓋シ又結約者双方ノ意ナラン

第二 法律ヲ補フガ爲メ又ハ之ヲ解釋スルニ付テハ如何

慣例ニ從フハ裁判官ノ義務ニシテ裁判官ハ如何ナル事ニ付テモ裁判
スルヲ拒ムコトヲ得ザル(民法典第四條)ガ故ニ若シ法律ニ明文無キカ或
ハ其曖昧ナルハ慣例ヲ棄テ、他ニ良法ノ由ル可キモノ無キナリボ
ルタリトス氏ハ民法緒言ニ於テ慣例ノ權力アルヲ論シテ曰ク「各事件
ニ付テ法律ニ明文無キハ確定不變ナル舊來ノ慣例ニシテ絶ヘス同
一ナル場合ニ適用シ一規則トナリ格言トナリシ者ハ法律ノ代リトナ
ル可シ」(ロレ一民商法論第一篇)ト况ンヤ商法ノ如キ初メ全ク慣例ニシ
テ久シク續キタルモノニ就テハ之ヲ適用スルハ固ヨリ至當ノ事ナリ

トス(フ)レムリー第十二丁及ヒ其以下○ドラマール及ヒルボ(蓋シ)商法
 典ナル者ハ最モ慣例ヲ確定スルノ目的アリテ而シテ編纂者ニ在テハ
 其頒布後ハ總場合ニ付キ以テ具足ス可シトハ信シタル可ケレト之ニ
 掲出セサル事ヲハ廢除スルノ意ハ無カリシナリ又一千八百七年九月
 十五日ノ法律第二條ハ商法典ニ定メタル諸事件ニ係レル舊來ノ法令
 ヲ廢除シタルモ其中ニ慣例ノ事ヲ含蓄セズ而ノ共和第十二年第六月
 三十日ノ法律第七條ニハ民法ニ關シテ一々之ヲ掲出セリ又民法典第
 一千八百七十三條ニ於テハ會社ノ事ニ付キ商業上ノ慣例ヲ適用ス可
 キノ明文アリテ此慣習ニ付テノ佛國諸法典ノ細則ヲ證明スルモノ、
 如シ又一千八百十一年十二月十三日ノ參議院ノ意見書ハ(同月二十二
 日認可セシカ)其文ニ載スル言アリ曰ク特別ナル問題ノ生スルトアル
 キハ裁判所ニテ法典ノ明文ト精神トニ從ヒ又其明文無キキハ通法及

ヒ商業上ノ慣例ニ從ヒ自己ノ心証ニ據リテ之ヲ裁判セサル可ラスト」
 右ノ規則ハ商法典編纂ノ時未タ發達セザリシカ或ハ始マラザリシ新
 規ノ事件ニ付テハ殊ニ之ヲ適用ス可キモノトス故ニ融通取組計算ノ
 如キ又シエーグノ事ヲ規定セシ一千八百六十五年ノ法律頒布以前ニ
 在リテハ(シエーグ)ノ如キ總テ慣習ニ由リタリ

(論)以上論スルノ事決定セシ後尙ホ茲ニ觀查ス可キノ一問題アリ裁判
 若シ確定ノ慣習ヲ犯ストアリシキハ其裁判ヲ破毀ス可キ乎是レナリ
 先ツ事實裁判官ナル者ハ此慣習ヲ認信ス可キ全權アル者ナリト思ハ
 ザル可ラズ如何トナレハ是ノ如キ者ハ即チ事實ノ一點ニシテ証人ニ
 テモ亦証明シ得可キモノナレバナリ(ドラマール及ヒルボワトウワ)
 然レモ裁判官之ヲ認信シテ而シテ却テ之ニ背違シタルトアルキハ則
 チ法理上如何ス可キカ是レ即チ問題ノ起ル所ナリ

第一説ニ據レハ商法ニ於テハ慣習ナル者法律ト同一ナル權力ヲ有スルガ故ニ其裁判ヲ破毀ス可シト云ヒ(ドラマール及ヒルボワトウワン第一版第一篇第六百五十二丁)第二説ニテハ然ル可ラスト云ヘリ(可)其然ル可ラスト云フ者ハ曰ク大審院トハ法律ノ應用ヲ確固ニシ其一樣ナルヲ維持スルガ爲メニ設ケラレタル者ナリ而シテ立法者ハ此官衙ニ由テ成文法ノミヲ保護セント欲シタルナリ以テ其明文ニ掲グルヲ要セズト信シタル性質上一定ス可ラザルノ慣例チノ不變一樣ナラシメントノ意ハ無カリシナリト(一千八百十七年八月十四日ノ破毀判決ダローズ)蓋シ第二ノ説(ト)判決集破毀ノ部第一千四百三〇マツセ第八十三(マツセ)ル原則トシテ取ラザル可ラザルモノナリト雖モ若シ法律ヲ以テ慣例ニ從フ可シトシタル明文アル場合ハ之ヲ例外トセザル可ラズ此場合ニ於テ慣例ニ準據セザルコアルキハ是レ法律ヲ犯スモノナリ(マツセ第八十三)

第三 法律ニ反對ナルキ即チ之ニ抵觸スルキハ如何

余輩ガ觀ル所ヲ以テスレバ茲ニ疑フ容ラザル三點アル者ノ如シ慣習ナル者ハ一般ノ法理ニ對シテ毫モ力ヲ有ス可ラス又共同ノ秩序ニ關スル法律ニ反シテモ毫モ力ヲ有ス可ラズ又慣習トナリシ實際上ノ事ヲ明文ヲ以テ禁止セル法律ニ反シテモ亦毫モ力ヲ有ス可ラザル是レナリ(ドラマール及ヒルボワトウワン第一版第一篇第六百四十八丁及ヒ第六百四十九丁〇マツセ第八十三)此ノ如キ場合ニ於テハ立法者ノ意志明瞭ニシテ國民ノ確乎タル思想ニ非ザル慣習ナル者之ニ勝ツコトヲ得可ラス余輩ハ此説ヲ以テ利息制限法ニ當ツ可シ(一千八百七年九月三日ノ法律)

(論)然レモ此三個ノ場合ノ外即チ法律ノ命令法(マ)若クハ許可法(マ)ニ付シ時ノ如キニ至テ慣習ヲ以テ之ヲ廢除スルヲ得可キ乎余ハ此事ニ付キ羅馬法或ハ佛國古法ニ基クノ議論ハ一切之ヲ取ラザルナリ願フニ

當世紀ノ初年ニ於テ佛國ニテ法律ヲ編纂シタルノ事ハ問題ノ旨趣ヲ一變シ其區域ヲ精密ニスルガ故ニ此事ニ付テハ只近世ノ立法者ノ意如何ヲ問ハザル可ラズ

第一說 慣例ハ目今ハ法律ヲ抵排スルヲ得可ラズ抑モ佛國法典編纂者ハ衆庶ノ爲メニ法律ヲ一定シ之ヲシテ十分明瞭精確緻密ナラシメント欲シタルガ故ニ法律ノ他ノ根源ハ舉ゲテ之ヲ抵排セリボルタリ

リス氏ハ民法典緒言ニ於テ慣習ニ由ルモ可ナリトセシモ特ニ立法者ガ規定スルヲ得可ラサル細事ヲ規定スルニ付テノミ之ヲ許セリ

商法第一篇第二(其言ニ云ク)明文ナキハ舊來ノ慣習ヲ以テ法律トナス可シ

二百五十九丁第十一(ト反對說ニ於テハ立法者ニ在テ共同ノ秩序ニ關ストナシタル者ト然ラザル者トヲ別ツト雖此區別タル決メ爲シ得可ラザルノ事ナリ蓋シ立法者ガ命令スルコトアルハ則チ是レ

重大ノ理由アルニ因ルナリ重大ノ理由アルニ非ザレハ以テ自由ヲ妨テ得サルナリ又其許可スルコトアルヲ以テ吾人ノ犯ス可ラザル自由ヲ附與スルノミ

第二說 慣例ハ以テ法律ヲ抵排スルヲ得可シ(可若シ余輩ニ於テ立法者ガ意中ニ就テ解釋ヲ探求セザル可ラザルコトセバ請フ佛國諸法典ノ序タルボルタリス氏ガ民法緒言ニ載スル所ヲ見ヨ曰ク法律ハ他ノ法律ニ因リテ廢止セラレザルカ或ハ頽壞ニ歸セサル以上ハ其効ヲ保有ス可シ而シテ余輩ノ以テ其頽壞或ハ不慣行ニ因テ廢止スルノ方法ヲ明揭シテ許サザリシモノハ是レ危險ナル所アルヲ以テナリ然リト雖モ人民ノ協議ニ出デザルモ不知不識同意シ以テ惡法ヲ改良シタルコトハ實ニ無形ノ權力アル者ニテ固ヨリ社會ヲ保護シ又立法者ノ宜シク保護ス可キ所ナルガ故ニ其有用ト勢力アルコトハ亦思ハズンバア

ル可ラザルナリ（ロクレ、同上第一篇第二）百六十九丁第二十七丁ト此言タル人ノ未ダ嘗テ注目セザリシ所ナリト雖モ余輩ハ以テ極言トス〇夫レ公衆ノ秩序ニ關スル者ト然ラザル者トナリ別ツニ困難アリト云フモ契約ニ付テ民法典第六條ヲ適用スルカ爲メ右ノ區別ヲ平生ニナスヲ以テ此場合ニ在リテモ亦毫モ困難ナルヲ無シト謂フ可シ（ドラマール及ヒルポワトウワン）或ハ一千八百七年九月十五日ノ法律第二條ハ共和第十二年第六月二十五日ノ法律第七條ト異ナリテ慣習ヲ廢止スルノ明文ヲ掲ゲザルヲ數々引援シテ論ズル者アリト雖（マッセ、第八十三丁）余輩之ヲ須ヒザル可シ此議論タル茲ニ舉グル所ノ問題ニ在リテハ毫モ用ヲナサズ何トナレハ則チ其既ニ存在スル慣習ノミチ廢止スルヲ止マルモノナレバ以テ法典頒布後ノ慣習ニハ適用ス可ラザルモノタレバナリ且此二類ノ慣習ヲ同視スルモ法典ニ反セル舊來ノ慣習ハ假令明文ヲ以テ廢止セラレ

ザルモ其反對ナル故ヲ以テ自ラ廢止セラレタリト知ル可ク而ノ今茲ニ論ズル所ノ者ハ只新慣習ノ法典ニ反對ナル者ノミニ關スレバナリ然ラハ則チ如何ナル點ヨリ論下スルモ右ノ議論ハ到底取ル可ラザルモノナリ

一事件ニ付テ慣習ヲ證明スルハ証人或ハ商人ノ證書ヲ以テ之ヲ爲ス可ク就中商務會議所ノ具申書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ商務會議所ノ具申書トハ爭訟ノ事ニ付キ慣行規則ヲ證明スル申述書ナリ

（第二十三號）一千八百三十六年六月十三日ノ法律ハ法律上ニテ一類ノ慣習ヲ調査證明スルノ主意ニシテ殊ニ條件秤量等ヲ以テ取結ブ商業上ノ賣買契約ニ付テ之ヲ明示シ又他ノ商業上ノ事ニ付テモ此業ヲ繼續ス可キ旨ヲ載セタリトロ、ン氏ハ凡ソ此ノ如キ事ヲ試ムルハ決メ完全ナルヲ能ハサルヲ以テ非ナリト云ヘ凡亦有用ノ業ト謂ハザル

ヲ得ズ一千八百六十六年ノ法律ニ在リテハ法典ニ反セル諸契約モ亦
認重ス可シトシタルモ其一地方ノ慣習ニシテ法典ニ反セルモノハ不
可ナリトセリ此レ法律討議ノ際ニ發セシ所ノ議論ニシテ立法者モ亦
全ク一般ノ慣習ノミヲ法律ニ載スルヲニ注意シタリキ此法律ニ付テ
ハ下文商業上ノ賣買ヲ論スルノ際又述ル所アル可シ

第四 通法即チ民法典

(第二十四號論) 商法典ニ明文ヲ缺クハ必用法トシテ民法ヲ適用ス
可キ乎必用法トシテ之ヲ適用スルトハ若シ之ヲ適用セザルハ大審
院ニテ其裁判ヲ破毀ス可キヲ謂フ

第一說 否之ヲ適用ス可ラズ商法ハ慣例ト正理トニテ十分事足りヌ
可シ民法典第一千一百七條ノ末項ニ曰ク商業ノ事ニ關スル規則ハ商
業上ノ法律ニ之ヲ記スト然ラハ則チ民法編纂者ト雖モ之ヲ商業ノ事

ニ適用ス可ラズトシタルヲ知ル可シトロンシエー氏ハ民法典第一千
六百一條討議ノ際民法典ニ記スル所ノ規則ハ商業ニ適用ス可ラズト
云ヒ(四篇第五十四丁) 商法典緒言ニ於テモ亦然ク云フ者アリ(四篇
第五十二第五十三丁) 故ニ民法典ニ定ムル所商業上ノ利益ニ陷合ス
ルニ非ザレハ之ヲ適用ス可ラズ蓋シ民法典ハ商法典ニ對シ性法ノ價
格ヲ有スルノミ其包含スル所性法ノ規則アルヲ以テ價格ヲ有スルナ
リ但シ商法典ニ於テ明ラカニ民法典ニ照準ス可キ者ヲ載セタルカ(第
十八條及ヒ舊第九十二第九十五條參看)或ハ民法典ニ公同秩序ノ元則
ヲ載セタルハ格別ナリトス(二篇第五十一丁及ヒ其以下第三篇第
二十六丁及ヒ其以下) 第二版(四篇第九十四丁及ヒ其以下) 第二說
然リ之ヲ適用ス可シ(可)民法典編纂ノ時ハ商業ニ付テハ民法
典中特別ノ規則アルヲアル可シト云フニ定メタルノミ是レ即チ民法

典第一千一百七條末項ノ總義意ニシテ亦民法典及ヒ商法典ヲ制定スル際ニ發セシ言ノ極意ナリトス蓋シ第一千一百七條ノ末項ニ於テハ特別ナル契約ニ付テハ民法典ニ記スル所ノ現則ニ循フ可シト云ヒ商業ノ事ニ付テハ商法ノ規則ニ循フ可シト云ヘリ而シテ若シ民法典ノ特別ナル篇ニ於テ明文ヲ缺クハ契約篇ニ記スル所ノ一般ノ規則ヲ適用スルモ右ノ條款ニテ妨グズトナス以上ハ商法典ニ明文無キが故ニ此一般ノ規則ヲ適用スルモ亦妨グル所無カル可キナリ又民法典ノ數箇所ニ載スル所ニ據ルニ何レノ場合ニ於テモ其規則ハ商業ノ事ニ適用ス可シト云フニハ非ズト云ヘリ是レ其大概之ニ適用ス可キ者タルヲ知ル可シ(第一千一百五十三條第一千三百四十三條第一千八百七十三條參看)商法典ニ於テモ又數々民法ノ規則ニ循フ可シト云ヘリ(第八條第九十一條新第四項第九十二條新第九十四條第二項)又商法典ナ

ル者ハ民法典ノ不足ヲ補充シタルニ過ギザルコトハ法典討議ノ際議者ノ屢々言ヒシ所ナリ(百三十五條百四十五條百四十六條)又上文(第二十二)ニ載セタル一千八百十一年九月十三日二十二日ノ參議院意見書ニ於テモ商法典ニ明文無キハ民法ニ循フ可キ旨ヲ元則トセリ蓋シ此意見書ニ言フ者ノ如キハ特別ノ法律ニ付テモ明言セラレタル所ニシテ即チ一千八百六十年五月二十三日ノ法律説明書ニ於テ之ヲ開示セリ但其説明書中確明ニシテ且廣汎ノ義意アル語ヲ用ヰタルノミ(レ)判決(到底第一說ノ如キハ全ク隨意ノ處分ヲナスニ陥ル可キナリ)類聚(到)法典小引第四丁〇マツセ第一千四百四十ヨリ第一千四百四十二迄〇ベダリード賣買第十一〇マローセ第七第八第九〇シユフール海上法第一篇六十八丁及ヒ其以下〇ドマンビヤールラウール評論第二篇第四百二丁)然リト雖且第二說モ亦唯之ヲ安信シ常ニ適用シテ可ナル者ニハ非ス

蓋シ商法ナル者ハ管ニ明文アルニ因リ民法ト相離ル可キノミナラス
種々ノ理由ニ依リ自然之ヲ廢除セザルヲ得サル者アルナリ商業ノ事
ニ關シテハ商法典第一百九條ニ記スル賣買ノ外ノ事ニ付テ百五十一
ヲ以上ト雖モ証人ヲ以テ証ヲ立ツルヲ許スモ之ガ爲ナリ(民法典
第一千三百四十一條見合)又物件ヲ引渡ス可キ者之ヲササハル時ハ証
書ノ有無ヲ問ハズ其定期ヲ過キテ延滞トナス事、双務ノ契約ニ於テ二
通ノ証書ヲ要セザル事(民法典第一千三百四十一條比較)民法典第一千
三百二十五條ニ記シタル要件ノ外ハ確實ナル日附ヲ得可キ事(一千八
百年二月十九日ドウエー控訴院判決ダローズ)他人ノ物件ヲ賣却セ
シコノ確固ナル事等モ亦皆理由アラザルハ莫シ其理由ハ其事件ヲ論
スルニ際シ之ヲ述ブ可シ(ドラマール及ヒルポワトウワ第一版第
一編第六百四十七丁第編二第七十六丁)
之ニ反シテ一千八百六十三年ノ法律以前ニ在リテハ余輩ガ可トシタ

リシ説ハ民法ノ法式ハ商業上ノ質物ニ付テ必要ナル可キノ結果ヲ惹
キ起シタリキ(一千八百六十年六月十九日破毀判決ダローズ)
(第二十五號) (論) 慣習ト民法トハ如何ナル順序ヲ以テ循ハザル可ラザ
ル乎余ハ先ツ慣習ニ問ヒ然ル後民法ニ循フ可シト思考ス蓋シ茲ニ慣
習ト云フ者ハ特ニ商業上ノ事ノミニ關スル慣習ニシテ特別ナル事件
ハ一般ノ事件ヲ廢スト云フ格言アレバナリ上文ニ擧ゲタル參議院意
見書ニ於テハ此二個ノ法ノ根源ヲ載スルニ反對ナル順序ヲ以テスト
雖モ其故ヲ然ルヤ否ヤヲ証ス可キモノ無シ(トロ、ン法律雜論第七
十一丁) (ドラマール及ヒルポワトウ) 大審院ハ嘗テ一千八百六十八
年五月廿六日ノ判決(ダローズ) 雖モ其第一版第一篇第六百五十一丁
ノ判決類聚第六十八卷第一丁(民法ヲ先ニシタルヲアリト雖モ其第一地方
ノ慣習ニ係ル者ニテ且訴訟人ノ一方ハ其地方ノ者ニハ非ザリキ但シ
余カ説タル慣習能ク法律ヲ壓スル場合ニ非ザレハ之ヲ適用ス可ラズ

前ニ掲ゲタル場合ノ如キ(第二十二第三例ニ)ニ至テハ法律ニ對シテ權
力ヲ有セザルモノトス(シユフール(海上)法第三十一(同說))

第五 正理

(第二十六号) 世人往々商事裁判所ハ常ニ等一ニシテ且善良ニ裁判セ
ザル可ラズ裁判官ハ法ヲ識ルヲ要セズト云ヒ商事裁判所ニハ檢事局
ナキヲ根據トシテ以テ之ヲ論弁スルモノアリ且カンパロレイスノ言
ヲ引ヒテ云ク「商業ノ真正ナル規則ハ善意ト正理トノ規則是レナリ」ト

(ドラマール及ヒルボワトウワ
ン第一版第二篇第十、第十一丁)

此説タル契約ノ解釋ニ付テハ固ヨリ可ナリ如何トナレハ商業上契約
書ノ文面ハ往々細密ナラザルコアリテ數多ノ事件ハ多少了解シ易ク
シテ自ラ含蓄スル所アレバナリ(マツセ第
八十四)(此事ニ付テハ正理ハ甚々慣
習ト近接スルモノアリ)又裁判官ガ權限ノ極メテ廣キ取引ノ事ヲ証ス

ルニ付テモ亦同様ニシテ殊ニ第一百九條ノ末項ニ於テハ常ニ證人ノ
証ヲ許スガ故ニ人ノ推測ヲ以テ訟事ヲ決定スルコトヲ得可シ(民法典第
一千三百五十三條)

然リト雖正理ナリト云フヲ以テ法律ノ明文ニ定ムル所ノ規則ニ反
ス可ラズ何トナレハ則チ正理ニ據ルト云フモ往々誤謬ヲ免レズシテ
仮令正理ニ據ルモ其事情ニ因リテ觀察ヲ下ダスコトノ不十分ナル者ア
レハナリ而ノ商業上ノ裁判ハ上告スルヲ得可キモノナレバ裁判官ハ
決シテ法律ニ戻ルヲ得ズ若シ之ニ戻ルコトアレバ其判決ハ破毀セラル
可シ論者ハ商事裁判所ニハ檢事局無シト云フト雖トモ其設ケナキ者
ハ此裁判所ニ不便利ナル吏員無カラシメンガ爲メニシテ且法司ハ法
上ノ原則ヲ確守スル者ナレバ稍々商業ノ事情ニ通シタリト雖正理以テ
毫モ貸ス所無キモノタルヲ恐ルレバナリ又論者ノ擧ゲタルカンパセ

トスノ言タル毫モ商事裁判官ノ遵依ス可キ規則ニ關スルモノニ非ズ
蓋シ「コンシユール」(第一世ナボレ)ノ招致セル立法者ヲシテ細事ヲ規定
スルコト無カラシメンガ爲メニ發セシモノナルノミ

(第二十七號) 外國ノ法律モ之ヲ佛法ニ比較シテ有用ナルコトアル可ク
又佛法ニ規定セザル事件ニ付テハ至長ノ參考トナル可シ(シユフール)
海上法三十

二)

今ヤ將サコ商法典ヲ講究セントス之ヲ講ズル當リ其順序ハ務メテ法
典ニ從フ可ク講究方法ニ方テ必要トナシ且解釋ノ却テ容易ナル時ニ
非ザレハ之ニ違フコト無カル可シ而シテ今ヨリ既ニ此ノ如キ移轉ヲナス
コトヲ明言ス可キモノアリ即チ法典中分散ニ關スル第三卷ニシテ海上
貿易ノ事ヲ載セタル第二卷ヲ論ズルノ前ニ之ヲ講究セザルヲ得ザル
是レナリ此移轉ハ講義ニ在リテハ尋常ノ事ニテ全ク海上法ニハ特別

ナル性質アルニ由ル蓋シ海上法ハ一種ノ法ヲ成シテ而シテ分散ノ事ハ
第一卷ニ載セタル事件ト緻密ノ關係アレバナリ彼ノ路易第十四世ノ
王令中ニテ分散ノ事ハ一千六百七十三年ノ王令ニ含蓄シ而シテ海上法
ハ一千六百八十一年ノ王令ヲ以テ定メタルハ亦此理由ニ因リシ者ナ
リ法典編纂者モ亦余ガ可トスル所ノ順序ヲ履ミタリ如何トナレハ第
三卷ハ一千八百七年九月十二日ニ決シタルモ第二卷同月十五日ニ決
シタレバナリ

第一篇 一般商業

(第二十八號) 此第一篇ニ於テ最モ能ク立法者ノ精神ニ邊應スルカ如ク且最モ能ク諸條款ノ順序ニ遵依スルノ區別ハ左ノ如シトス

第一部 商法ニ關スル人此第一部ニハ商人ノ事其職業上ノ義務簿冊ノ整頓方其婚姻方ヲ公ケニスル事并ニ精神上ノ人ト看做シタル會社ノ事ヲ包括ス(第一卷ヨリ第四卷ニ至ル)

第二部 商法ニ於ケル契約(第五篇ヨリ第八篇ニ至ル)商業上ノ所有物ハ特ニ之ヲ別異ニス可キ程緊要ナル者ニ非サルヲ以テ第二部ノ始メニ於テ聊カ述ブル所アル可シ

第一部 商法ニ關スル人事

第一卷 商人

此卷ヲ別テ四章ト爲ス第一章ニハ商賣ノ業第二章ニハ商人タル可キ

者第三章ニハ商人ノ助成者第四章ニハ無能力者商業ヲ營ムニ慣熟スルヲ要スヲ論ス可シ

第一章 商賣ノ業

(第二十九號) 此事タル元來至要ナルヲ以テ別ニ一章ヲ供ス可ク而シテ附從トシテ論ス可ラサルカ故ニ今此卷ニ於テ之ヲ説述ス殊ニ此事ハ他ノ諸事ヲ論スルニ付キ有益ナルモノニシテ且上ニ論定セシ商業ノ概意畧言ヲ直チニ擴充深究スルヲ得可シ

抑モ經濟家ヨリ之ヲ觀レハ商賣ノ業タル財產ヲ融通シ產物(天造若クハ人造)ヲ最終ノ消費ヲナシ或ハ新規ノ製産ニ使用スル消費者ニ運輸スルニ在リトス

又法律上ヨリ之ヲ觀レハ商人ノ所行タル唯財產ヲ運輸スルノミニシテ以テ之ガ確定ノ權ヲ得ントスルニ非ス其財產ヲ暫時所有スルノ權

ヲ得ントスルニ在ルナリ而シテ其權タル其事務ニ付テハ即チ附屬物タルニ過キズ蓋シ其主眼トスル所ノ者ハ右ノ財産ヲ運轉スル際ニ利ヲ射ルニ在リ是レ其財産ヲ所有センカ爲メニ之ヲ得ルニ非ス之ヲ移轉スルニ付キ利ヲ計ラシカ爲メニ之ヲ得ルモノナリ（ベスレー「商人論」第十比較）

是レ商法典ニ於テハ民法典第二卷ニ載スル所即チ物件上得可キ所ノ權ニ啗合ス可キ部分ノ設ケ無キ所以ナリ蓋シ民法典ニ載スル所ノ諸權ハ商事及ヒ其他ノ事件ニ付テ十分ナル可シ但シ民法典財產ノ部ニ於テ商法上特別ナル者ヲ載セタリ商店ノ名號符圖製造標ノ所有權ノ如キ是レナリ此事ニ付テハ第二部ニ至リ又聊カ論スル所アラントスル以上論述スル所ニ因リ凡ソ物貨運轉ニ付キ利分ヲ得テ而シテ其事務ハ自己ノ爲メニスルニ非スシテ諸人ノ爲メニスル者ハ商人ト看做サザル可ラサルヲ知ル可シ

（第三十號）故ニ商賣ノ業ナル者ヲ義解シテ曰ク「結約者アリテ事ヲ處セシニ其一方ノ者契約ノ目的タル物貨移轉ニ付キ射利媒介者ヲラント欲スルトキハ其事其一方ノ者ニ在リテハ商賣ノ業トナス」（同上）

○第四〇カローセ 蓋シ其事ノ他ノ諸事ト異ナル處ハ一方ノ者射利媒介者ノ地位ヲ有スルニアリトス是レ即チ先ツ心意ヲ探求スルノ必要ナル所以ニシテ其心意ヲ探求スルハ裁判所ニテ如何ニ之ヲ證知ス可キヤ請フ之ヲ論セン

論者往々商賣ノ業トハ賣拂フ爲メニ買入ル、事ナリト云ヘリ（マツセ）

十第九百 然レモ是レ唯其業ノ具有スヘキ一事ニシテ其全体ヲ含蓄ス（四十七）

ルモノニハ非ス蓋シ法典第六百三十二條第一項ニ於テハ是ノ如キ語句ヲ用ユルト雖モ以下諸項ニ於テハ又別ニ商賣ノ業ナル者ノ四種ヲ列載セリ此事ニ付テハ復々述ブル所アル可シ（論者中如何ナル義解ヲモ皆之ヲ排斥シ法典ニ）

列記シタル者ヲ釋解スルニ止マルモノアリヌーギエ(商事裁判所論第一
 一篇第三百六十八)ボン(法律辭典商業ノ部)ウエルニエー(一千八百六十
 三年五月四日民選議院ノ
 會議ニ於テ)等是レナリ
 (第三十一號) 商賣ノ業ト然テサル事トナ別異ニスルノ利益先ツ平生
 此業ヲ常業トスルキハ其人ノ身分ハ商人タル可シ(下文第二章參看)其
 外諸人ニ在テハ第一商事裁判所ニ其訴訟ヲ爲ス可シ(第六百三十一條)
 第二商法上ノ方法ヲ以テ證據ヲ立ツルコトヲ得可シ(第一百九條第七卷
 第一章參看)第三其事業ハ商業上ノ慣習ニテ一定セル規則ニ從フ可シ
 (第七卷第二章參看)第四登記稅ハ著シク減ゼラル可シ(一千八百五十九年
 六月十一日ノ法律第二十二條第二十三條第五商事ニ在テハ書類ノ偽造
 變造ハ他ノ事ニ於ケルヨリ重刑ニ處セラル可シ)刑法典第一百四十七條
 (第三十二號) 法律ニ準據シ商賣ノ業タル者ヲ目擧ス(第六百三十一條
 ヨリ第六百三十三條ニ至ル第六百三十八條) 初メ法典草按第二條ニ

於テ之ヲ目擧シタリト雖モ終ニ商事裁判所ノ管轄ノ事件中ニ入レタ
 リ是レ一千六百七十三年ノ王令ニ準據シタルモノニテ其王令ニ在リ
 テハ商人ノ事ニ付テ商賣ノ業ナル者ヲ載ス可ラザリシナリ如何トナ
 レハ佛國古法ニ於テ商人トナルニ缺ク可ラザル條件ニハ非ザレモ通
 常ノ條件トスル所ノ者ハ 數多ノ論者ハ此條件ヲ缺ク可ラザルモノト
 セリナリヤール(商事裁判所管轄論第三百十
 八)ベダリード(商事裁判所論第十八)モリニエー(第一百十丁)ノ如キ是レナ
 リ然レモ以テ右ノ條件ヲ缺ク可ラザル者トス 特權組合即チ頭取仲間
 ルハ全ク穩當ナラスト言ヘリ(下文第六十參看)特權組合即チ頭取仲間
 ニ從屬スルニ在リタレハナリ故ニ右王令第一卷ニ於テハ特權組合ノ
 事ヲ載セタリ此事ハ第三章ニ至リ又論スル所アル可シ

第六百三十二條及ヒ其以下ニ列載スル所ノ事ハ有限ノ事ニシテ擴張
 大可ラザルモノトス 一千八百十五年五月十五日破毀判決○一千八百
 十六年一月十三日巴里○ロシレ第四篇第八十四
 丁トロロン會社篇第三百十七、ドラシグル會社篇第二十六、第三百十三、
 マルペール及ヒシヨールマン會社篇第三及ヒ第四、ナリヤール商事裁判

所管轄論第二百四十三、ブラウウール第六篇第七百二十九丁〇反説
ロイズ商事管轄第四十六チーキエー商事裁判所第一篇第三百四十七
但シ法律ニ豫定セザル事件ニシテ之ト同一ナルヲ明白ナル者ニハ此
規則ヲ適用スルモ妨ケ無シ

商賣ノ業ニ三種アリ各種ニ付キ一節ヲ設ケ以テ論ス故ニ第一節ニハ
性質ニ因リテ商賣ノ業タル事第二節ニハ附從ノ業其主眼タル業ニ從
屬スルト云フ附從ノ理ニ因リテ商賣ノ業トナル事第三節ニハ法律ノ
權力ヲ以テ商賣ノ業ト看做ス可キ事ヲ列載ス可シ此區別ハ不動産ノ
性質用方若クハ目的及ヒ法律ノ所定ニ因リテ之ニ設ケタル區別ニ類
似セリ

第一節 性質ニ因リテ商賣ノ業タル事

(第三十三號) 性質ニ因リテ商賣ノ業タル事ハ上ニ載セタル義解ヲ直
チニ適用ス可キモノナリ但シ此一節中ニ公同利益ノ爲メニ前ニ論定

セシ要件ノ外ニ在テ法律上商賣ノ業トセラレタル或ル事件ヲ載セタ
ルヲ看ル可シ願フニ法律上商賣ノ業タル事ハ寧ロ第三節ニ論ズルヲ
當然ナリトスト雖ヒ之ト同様ナル事ヲハ分斷ス可カラザルヲ以テ今
之ヲ別タサルナリ又此一節中第二節ニ盡ク載セタル附從ノ理ノ適用
二三ヲ看ル可シ

第六百三十二條 左ノ諸件ハ法律上ニテ之ヲ商賣ノ業ナリトス

商品ヲ其儘賣拂ヒ又ハ手ヲ入レ及ヒ仕業ニ懸ケ之ヲ賣拂フ爲メ又
ハ之ヲ貸貸スル爲メ買入ル、事

製造仲買水陸運送ノ業

物品ノ供給口入取次所糶賣見セ物ノ業

金銀爲替銀行商品世話人ノ業

公ケノ銀行ノ業

御賣商小賣商銀行主ノ間ニ互ニ負フスル義務
如何ナル人ノ間ニ爲スチ問ハス總テ爲替手形及ヒ此地ヨリ彼地ニ
金高ヲ移送スル業

法律ニ記載セル性質ニ因リテ商賣ノ業タル者ハ左ノ如ク別テ四種ト
爲スチ得可シ

第一商品ニ付テ利ヲ射ル事

第二勞力貸貸ノ事

第三資本ニ付テ利ヲ射ル事

第四海上運送ニ關シテ利ヲ射ル事

第一款 商品ニ付テ利ヲ射ル事

第一 日用品及ヒ商品ヲ賣拂フ爲メ買入ル、事

(第六百三十二條第一項)

(第三十四號) 賣拂フ爲メ買入ル、事トハ即チ賣拂フノ意思ヲ以テ
買入ル、トニテ其賣拂フハ買入ル、主要ノ目的ト爲シタルヲ必要
トス蓋シ爰ニ欲ク可ラサルモノハ意思ニシテ是レ上文ノ義解ニ因テ
然ラサルヲ得サル所ナリ故ニ時機ヲ得タルガ故ニ又ハ厭嫌シタルカ
故ニ他日之ヲ賣拂フアルモ貯蓄シ又ハ消費スルカ爲メ物品ヲ買入
ル、トハ商賣ノ業トナス可ラス ハルドツシユ一第十二ドラマール及
ヒルボワトウワ 第一版第一篇第四
十一、ブラウッレ第六篇第二百二十六篇第二
百二十六丁、ドマンシャ一第六篇三百六十六丁
尙ホ其外ニ射利ノ意思アルヲ要ス蓋シ射利ノコタル從來商業ノ本性
ト看做シタルモノナリシガ法典ニ於テモ此要件ヲ廢除シタルニ非ザ
ルハ明カナリ パルドツシユ一第十二、アラツワール第一篇第四十
八第六篇第二百二十六、ベスレー 商人論第四十六
左ノ事件ハ商賣ノ業ニ非ザルモノトス
葡萄酒ト共ニ桶樽ヲ賣拂フトモ自己ノ酒ヲ賣ランカ爲ノニ葡萄耕作

人其桶樽ヲ買入ル、事是レ其桶樽ニ付テハ利益ヲ得サレハナリ
 シユ一第十三、モルニエ一第十六第十九、チリヤール第二百七十、ヌーギ
 エ一商事裁判所論第一篇第三百六十一丁、アローセ第二千九百六十六
 及ヒ第三千二十六、フラウツール第一篇第五十丁及
 ヒ第五十一丁、ドマンシャ一第六篇第三百三十二丁
 自己ノ製造ノ葡萄酒ヲ能ク賣捌カントシテ之ニ混和スルガ爲メ葡萄
 酒ヲ買入ル、事 一千八百四十八年七月十二日ホルト一控訴院判
 決ダロース判決類聚第四十九卷第二部第百八丁
 畫師ノ彩色物ヲ買入ル、事 一千八百五十五年五月五日巴里控訴院判
 決ダロース判決類聚第五十六卷第二部第
 十九丁ロツレ第四篇第一百十一丁ドマンシャ
 一ブラウツール評論第六篇第三百三十二丁 是レ前ト同一ナル理山
 ニ基ケリ
 彫刻人土塊ヲ買入ル、事 一千八百六十二年五月五日ノツス控訴院判
 決ダロース判決類聚第六十三卷第五部第七
 丁ロツレ同上、ドマンシャ一同上、
 パルトツシユ一第一篇第十七丁

利ヲ得テ賣拂フ意中ハ如何シテ証明ス可キ乎商人商品ヲ買入ル、ト
 キ其商品ハ自家營業ノモノタル以上ハ推測ヲ以テ之ニ利ヲ得テ賣拂
 フノ意ナリトス可シ若シ其商品ハ全ク自用ニ充ツル爲メニ買入ル、
 ナレハ斯ク測定ス可ラザルナリ(第六百三十八條)又之ヲ買入ル、者若
 シ商人ナラザルトキハ其相手方ニテ其意中ヲ証ス可キモノトス 一千
 五十二年四月廿一日破毀判決グロース判決類聚第五十四卷第五部第
 四百四十七丁、モリニエ一第十七及ヒ第十八、マツセ第九百六十五、ヌー
 ギエ商事裁判所論第一篇第三百六十一丁及ヒ其以下、ベタリード商事
 裁判所第二百三、ブラウツール第六篇第二百二十六丁ドマンシャ一第
 六篇第三百
 三十六丁
 (論)買入レタル後直チニ賣拂フハ如何彩色物ヲ賣ル者彩色物ヲ數多
 買入レタリ時ハ即チ商賣ノ業ヲナスモノナレト之ヲ小賣スルトキモ
 亦以テ商賣ノ業ヲナスト謂フ可キ乎

第一説ニ云ク然ラス此レ商賣ノ業ニ非ス第六百三十二條第二項ニ於テハ買入ル、事ノミチ記載セリ而シテ賣拂フ事ニ付テ立法者カ明文ヲ掲ケザル者ハ決シテ遺漏ニ非ズトス何トナレハ第六百三十二條第四項、第六百三十三條第六百三十八條ニ於テ載スル所ヲ觀ルニ之ニ注意シタルコトアレバナリト

ロツレ第四篇第九十八丁、ドラマール及ヒルボワトウソ第一版第五篇第十五及ヒ其以下第二版第一篇第四十丁、コワ

ンデリール禁錮論第七十六丁

第二説ニ云ク然リ商賣ノ業トナス可シ(可)何人ト雖用荷モ一方ニ偏セザル者ハ皆須ラシ新ク思考スベシ何トナレハ則チ此業タル買入ル、事ノ反對ノ業ニシテ射利ヲ助クルモノタレバナリ且第六百三十八條第一項ニ於テ土地所有主若クハ小作人ノ自家ノ收穫物ヲ賣拂フ事ヲハ以テ商賣ノ業ニ非ズトセリ是レ賣拂フ事ハ即チ買入ル、事ノ如ク

亦商賣ノ業タルコトアルニ基クモノナリト

キユ一商事裁判所第一篇第三百五十六丁ナリヤール裁判所管轄論第三百ウエンサン第一篇第二百二十三丁ベダリド第二百二ブラウツール第六篇第二百二十六丁ドマンシヤ一第六篇第三百三十七丁、アローセ第二千九百六十五

第七丁、アローセ第二千九百六十五

第六百三十二條第一項ノ規則ハ宜シク之ヲ擴張シ以テ交換貸貸ノ事ニ適用スヘシ故ニ貸貸ニセンカ爲メニ買入レ(同項)復貸貸ニセンカ爲メニ賃借スル等ノ如キハ即チ以テ商賣ノ業ト爲ス可シ

モリニユ一第十二マツセ第十二及ヒ第二千六百六十六ブラウツール第六篇第二百二十六丁ドマンシヤ一第六篇第三百三十七丁、アローセ第二千九百六十五

故ニ此一項ニ載スル所ハブラウツール氏ノ言ノ如ク商賣ノ業トハ凡ソ射利ノ目的ヲ以テ相當ノ價ヲ拂フテ物件ヲ得ル事ヲ謂フモノナリト知ル可シ

ブラウツール第一篇第四十七丁ヨリ第四十八丁至ル第六篇第三百廿五丁ドマンシヤ一第六篇第三百廿三丁

然レ其物件ヲ得ル事ハ必ス相當ノ價ヲ拂フテ之ヲ爲スヲ要ス夫ノ贈

遺ヲ受クル者ノ如キ其受クル所ノ物件ニ付テ射利ノ意ヲ懷クコアリ
ト雖モ以テ商賣ノ業ヲナストハ謂フ可ラサルナリ ブラウッル第六
篇第二百五丁
(第三十五號) 第六百三十二條第一項ノ義意ヲ推及シテ物件ヲ保持シ
又ハ消費スルカ爲メニ之ヲ買入ル、如キ賣拂フ事ヲ目的トセザル買
入ノ事ヲ商賣ノ業トナス可ラス又全ク已レカ勞動或ハ耕作ニ因リ自
ラ製出シタル物品ノ如キ買入レザリシ物品ヲ賣拂フ事モ亦商賣ノ業
トナス可ラス即チ第六百三十八條第一項ハ注意ニ因リテ左ノ明文ヲ
載セタリ

第六百三十八條第一項 土地ノ所有者土地ヲ耕作スル者又ハ葡萄ヲ
作ル者ノ土地ヨリ生シタル物品ヲ賣拂フニ付キ此等ノ者ニ對シ
テ爲ス所ノ訴訟及ヒ商人自用ノ爲メ買入レタル物品ノ代金拂方ニ
付キ其商人ニ對シテ爲ス所ノ訴訟ハ商事裁判所ニテ之ヲ裁判ス可
載セタリ

ラス

是故ニ土地ノ所有主或ハ小作人產物ヲ賣拂フ爲メ土地ヲ買入或ハ賃
借シタル時ト雖モ其収獲物ヲ賣拂フ事ハ商賣ノ業ニ非ザルモノトス
蓋シ此等ノ者射利ノ意思アリシトモ其買入レタル物件ヲ賣拂ハ
ザルハ固ヨリ明カナリ 一〇八〇六十七年六月二十六日破毀判決
「ス」判決類集第六十七卷第一部第二百二十四

丁マツセ第二十一、ベスレ一商
人論第十三ヨリ第十六ニ至ル

又仮令製出者其產物ヲ賣拂フ爲メニ肆舗ヲ有スルト雖モ其賣拂ノ事
モ亦同シ ベスレ一 第二百二十三ヨリ第二百二十
四ニ至ル ○反說マツセ第二十二

又製出者其收獲物ヲ稍々改造シタル時ト雖モ其改造附從ノ業タル以
上ハ其賣拂ノ事ヲ商賣ノ業トナス可ラス例へハ葡萄ヲ以テ酒ヲ製造
シ又ハ葡萄ヲ蒸溜セシメタル如キ是レナリ 一千八百十二年十二月十
一日ブリュクセル民事裁

判所判決ダロイズ判決類聚第五十四卷第五部第二百二十二丁○パルド
 シユイ第十一、ブラウッール第六篇第二百三十二丁、ドマンシヤイ第六
 篇第三百四十五丁、○マツセハ(第二十一及ヒ第二十二)酒ニ付
 テハ此説ヲ可シタレモ蒸溜物ニ付テハ之ヲ不可ナリトセリ
 又蒸菜根ヲ以テ砂糖ヲ製シタル如キ是ナリ
 一千八百七十五年五月十
 二日願訴局判決ダロイズ
 判決類聚第七十六卷第一部第三百二十丁○パルド
 ベタリード商事裁判所論第三百五十二アロイセ第三千二十四、ナリマ
 ール商事裁判所管轄論第三百四、ベスレー商人論第五十一及ヒ其以下
 ○反説マツセ第二十二、ブラウッール第六篇第二百三十二、ドマンシヤ
 百四十五丁 但シ蒸菜根ヲ以テ砂糖ヲ製造スルキハ實際ニ就ヒテ其
 製造ノ業ハ兼業ナルヤ主務ノ業ナルヤ否ヤヲ検査ス可シ
 土地ノ利用ニ使役ス可キ獸類賣買モ亦同様ナリ 一千八百六十九年四
 月七日破毀判決ダロ
 イズ判決類聚第六十九卷第一部第 但シ實際其賣買ノ眼目タリシ確証
 四百五十五丁○反説マツセ第二十二 但シ實際其賣買ノ眼目タリシ確証
 アルキハ此限ニ在ラス 一千八百六十一年四月九日、ルアン控訴院判決
 ダロイズ判決類聚第六十一卷第五部第九丁類

似或ハ同一ノ説、パルドツシユイ第十四、ロクレ第四篇第百六丁、ナリヤ
 ール管轄論第二百七十二、ベスレー商人論第五十四、ア
 ロイセ第三

千二十六
 炭鑛採掘ノ業(一千八百十年四月二十一日ノ法律第二十二條參考)一千
 六十五年一月卅一日破毀判決ダロイズ判決類聚第六 石坑採掘ノ業 一
 十五卷第一部第三百九十丁、ベスレー商人論第五十二 千
 八百五十四年十一月二十三日、ホルド控訴院判 鹽坑採掘ノ業ハ 一
 決ダロイズ判決類聚第五十五卷第五部第七丁 八百
 五十八年六月七日エツキス控訴院判決ダロ 其採掘者賃借人ナル時ト
 イズ判決類聚第五十八卷第五部第十二丁
 雖モ亦然リ 類聚第五十四卷第五部第十一丁○反説一千八百四十七年
 十二月十七日カソ控訴院判決ダロイ
 ズ判決類聚第四十八卷第五節第四丁
 之ニ由リテ是ヲ觀レハ一事件ニシテ一方ノ者ニ在テハ商賣ノ業タル
 モ他ノ一方ニ在テハ然ラザルモノアリ即チ葡萄酒商人葡萄耕作人ヨ

リ酒ヲ買入ル、如キ其商人ハ商賣ノ業ヲナスモ耕作人ノ爲ス所ハ商賣ノ業ニ非ザルナリ
 賣ノ業ニ非ザルナリ
 十五チーギエー商專裁判所論第一篇第三百五十四
 丁、ブウワール第一篇第五十一丁、
 マンシヤール第六篇第三百二十二丁、
 (第三十六號) 第六百三十二條第一項ニ日、用品及ヒ商品ト云ヘリ抑モ日用品及ヒ商品トハ有形動産ノ諸類ヲ謂フモノニシテ動物ノ如キ暫時土地ニ備付タル時ト雖トモ亦此内ニ入ル可シ
 月九日ルアン控訴院判決ダロイズ判決類聚第六十一卷第五部第九丁 又培樹場ニテ栽培スルトキト雖モ尙ホ動産タル樹木ノ如キモ之ニ算入ス可シ
 一千八百四十五年五月二十三日ト決類聚第四十五卷第二部第五百七十七丁一千八百五十九年四月七日
 ユツキス控訴院判決ダロイズ判決類聚第五十九卷第五部第九丁
 無形動産ト雖モ亦日用品及ヒ商品ナリトスルヲ得可シ蓋シ是ノ如キ物件ニ付テノミ其業ヲ營ム所ノ銀行主、手形賣買世話人ハ法律ニテ商

入ト認定スル所ノ者ナルカ故ニ固ヨリ然ラザルヲ得ス
 一千八百六十六日破毀判決ダロイズ判決類聚第六十八卷第一部第四百三十九丁一千八百七十四年六月十五日願訴局判決ダロイズ判決類集第七十五卷第一部第五百八十八丁等○ハルドツシユエー第九、モリニエー第二、十マツセ第一千三百八十六及ヒ其以下、アローセ二千九百六十八、故ニ賣拂フ爲メニ商業資ヲ買入ル、專ハ商賣ノ業トナフ可シ
 ドマンシヤール
 評論第六篇三百八十八丁、
 而シテ若シ之ヲ買入ル、ハ之ヲ保有シ且利
 ロ一セ第二千九百六十八
 用センガ爲メタルトキハ其所爲ノ性質ニ付テ議論ヲ生ス可シ其議論
 ハ第二節(第五十)ニ於テ附從ノ理ヲ以テ之ヲ講究ス可シ
 法律ニ記載シタル前顯文面ヲ接スルニ不動産ヲ除クモノ、如シ故ニ
 不動産ニ付テ利ヲ射ルハ大抵商賣ノ業ニ非ストス蓋シ此ノ區別タル
 舊來ノモノニシテ又第六百三十二條ノ日用品及ヒ商品ト云フ語ノ義
 意ヲ推スニ當サニ然ルヘキカ如シ抑モ商業ノ義ニハ常ニ流通運送ノ

義ノ附屬スルアリテ經濟家モ亦斯クハ義解セリ然ルニ不動産ナル者
 ハ所有權移轉ノ手續ヲ以テスレハ精神上ノ流通ヲ爲シ得可シト雖也
 決シテ運送スルヲ得可ラサルモノナリ而シテ其流通モ甚々迅速ニナ
 スヲ得可ラサレハ商業上ノ簡便ナル方法モ必要トナス可ラス又不動
 産ナルモノハ債主ニ對シテ隱匿シ得可ラサルモノナレハ之ニ由テ利
 ヲ射ル者ニ付テハ彼ノ家資分散ニ於ケル特別ナル保証モ甚々必要ナ
 ラサルモノナリ 第五千八百五十年六月四日破毀判決ダロイズ判決類聚
 五日巴里控訴院判決ダロイズ判決類聚第六十八卷第二部第二十八丁
 百八十五及ハ第二部第八十丁及ハ第二部第九十丁及ハ第二部第九十丁
 六十ダロイズ判決類聚第六十八卷第二部第九十丁及ハ第二部第九十丁
 社論第九丁マツセ第三千三百八十二ダロイズ判決類聚第六十八卷第二部
 第六篇第二部第二十五丁アロイゼ第二千九百七十一ラベール判決類
 聚〇反說一千八百六十八年八月五日エツクス控訴院判決ダロイズ判
 決類聚第六十八卷第二部第二十九丁等〇ドマンシヤイブラウワール

評論第六篇第三百二十三丁及ヒ 故ニ土地賣買ノ爲メニ設ケタル會社
 其以下、ベスレ一商人論第七百七 故ニ土地賣買ノ爲メニ設ケタル會社
 ハ以テ商賣ノ業ヲ營ムモノナリトス可ラス不動産會社ノ如キ是レナ

リ 一千八百六十八年二月十五日巴里控訴院判決ダ
 ロイズ判決類聚第六十八卷第二部第二十八丁

粧飾シタル家屋ヲ其所有主ヨリ賃貸スルトモ平生數々之ヲ爲スノ無
 シ且其主務トセザル以上ハ商賣ノ業ニ非ス 一千八百六十二年四月三
 十日却下判決ダロイズ判

決類聚第六十二卷第一丁若シ平生數々之ヲ爲シ且其之ヲ主務トスルハ
 其家具動産ハ主眼物ニシテ家屋ハ主眼物ニ非スト判斷スルヲ得可
 シ

復賃貸ニスル爲メニ不動産ヲ賃借スルヲモ亦商賣ノ業ニ非ズトス
 八百六十一年七月十五日巴里控訴院判決ダロイズ判決類
 聚第六十一卷第五部第九丁アロイゼ第二千九百七十二

然レモ森林ノ樹木ヲ伐採スル爲メニ之ヲ買入ル、事 一千八百五十四
 年十二月七日
 八十三

チン控訴院判決ダロース判決類聚第五十五卷第五部第七十丁〇モリ
 ニエー第十四及ヒ第十五スルギエー商事裁判所論第一篇第三百六十
 一丁、ベタリード商事裁判所論第二百十、第二百十一及ヒ第二百二十一、
 ドマンシヤイブラウソール評論第六篇第三百二十八丁アローセ第二
 千九百一毀壞ス可キ家屋ヲ買入ル、事アローセ、如キハ其實際動産ニ
 係ル者トシテ之ヲ商賣ノ業トナス而シテ漁獵地賃借ノ事ニ至テハ然
 ラストス何トナレハ則チ此事タル人其魚ヲ買入レタルニ非ス魚ハ元
 來空物ニシテ水中ノ魚類ハ多寡有買入ル、丁チ得可キ者ニ非ザレハ
 ナリ一、千八百六十九年五月三十一日巴里控訴院判決ダロース判決類
 聚第七十卷第二部第八十三丁〇反說一千八百六十年七月二十
 七日トウールス控訴院判決ダロース
 判決類聚第六十卷第二部第五十四丁
 (論)建物ヲ築造シテ賣拂ハ、ソカ爲メ土地ヲ買入ル、事ハ如何余輩ヲ以
 テスレハ此事ハ實際ノ論タル可シ蓋シ實際ニ就テ其所爲ノ眼目タル
 者ヲ検査セザル可カラズ若シ土地ノ價格ヲ増殖セント欲シ割合ニテ

ハ餘リ立派ナラザル築造ヲナシタレト之カ爲メニ大ヒニ價格ヲ増シ
 タルトハ(例)ハ園圃ヲ作り小庵ヲ建タル如キヲ謂フ其事業タル商賣
 ノ業ニ非ズトス然レモ其築造ノ業ヲ主眼トシ之ニ付テ利ヲ得ントシ
 タルモハ其事製作ノ業トナリ(下文第四十)不動産ノ賣買ハ附從ニ過キ
 ザルヲ以テ之ヲ商賣ノ業トナス可シ一千八百六十八年二月十五日巴
 里控訴院ニテハ之ヲ商賣ノ業ニ
 非ズトセリダロース判決類聚第六十八卷第二部第二百八丁等ブラウ
 ワール第一篇第七十九丁然レモ一千八百六十九年二月三日ノ二個
 ノ破毀判決并ニ一千八百七十年十二月八日リヤン控訴院判決ハ之ヲ
 商賣ノ業トセリダロース判決類聚第六十九卷第一部第六十丁及ヒ
 第七十一卷第二部
 第四百三十三丁等
 (第三十七號)手ヲ入レ及ヒ仕業ニ懸ケ云々(第六百三十二條第一項)此
 文中ニハ通常ノ工作ヲ包含ス可シ而シテ其業ハ商品流通ヲ以テ主務
 トセザルハ勿論ナレモ絶ヘズ原品ヲ招致シ製造品ヲ運搬スルヲ必要

トスルカ故ニ商品流通ハ亦其事業ノ缺少可ラザル要件ナル可シ蓋シ
 商品ヲ運轉シ又タ貯蓄スルガ爲メニ非ズシテ其運轉スルニ付キ利分
 ヲ得ル爲メ商品ヲ所得スルハ工業人ニ於テモ商人ニ於テモ同様ナル
 事ニシテ又工業人ノ所業ニ迅速ト容易ナルコトヲ必需トスルハ猶ホ
 通常商人ニ於ケルガ如シ ベスレ一商人 且工業ナル者ハ第六百三十二
 條第二項ニ包含スルモノナリ 論第十二比較

第二 物品供給ノ業(第六百三十二條第三項ヲ見合ス可シ)

(第三十八號) 物品供給ノ業トハ一定ノ期ヲ立テ一回或ハ數回或ハ多
 少ノ時間ニ商品ノ若干ヲ供給スルノ約束シクル事ヲ謂フ(例ヘハ學校
 又ハ兵隊ニ麵包肉類等ヲ供給スル如キ是ナリ)其請負人ニアリテハ賣
 拂ヒ又ハ賃貸ニスル爲メニ屢々物件ヲ買入レ又ハ賃借スルコトアルナ
 リ

第二款 勞役賃貸ノ事

(第三十九號) 勞役賃貸ハ元來商賣ノ業ニ非ス如何トナレハ其仕事ヲ
 爲スヲ約束スル者ハ其有スル所ノ者又ハ其固有ノ資本ヲ以テ爲シ得
 可キ所ノ者ヲ供給シ甲ノ需要ト乙ノ供給トノ間ナル媒介者ニ非ラズ
 ベスレ一第十八己レガ手ニ物品ノ經過スルニ付テ利ヲ射ラヌシテ唯
 及ヒ其以下比較 自己ニテ生出シ得可キ者ニ付テノミ報酬ヲ受ケル者ナレハナリ例ヘ
 ハ醫師、外科醫師、齒醫、藝術家、文學者 ベスレ一第十九及著述者 ハルドッ
 一ドマンシヤイプラウ ル 評論 第一篇第三十三 等ノ事業ノ如キ
 一丁、アロー セ 第二千九百六十六 ベスレ一第三十六 等ノ事業ノ如キ
 即チ是レナリ然ルニ使用スル所ノ職人ノ勞働ヲ賃貸シ以テ利分ヲ得
 ルカ或ハ人ノ勞働ヲ賃貸スル事ト賣拂フ爲メニ買入レタル事ト幾分
 カ兼ヌル所アルキハ事休一變 其 其所爲ハ商賣ノ業トナル可シ故ニ職
 人又ハ藝術家他人ヨリ出ダセン物品ノミニ就ヒテ仕事ヲナス片ハ自

ラ器械ヲ供シ又二三ノ附従品ヲ給スルヲアルモ
 一 其所爲ヲ以テ商賣ノ業トナス可ラズ ベスレー第三十七ア
 バルドッシー第三十五アロセ
 リード商事裁判所論 第二千九百九十一〇反説 ベタ
 第三十七及ヒ其以下例ハ仕立職人ノ如キ聊カ雜品ヲ供スルモ其所
 爲ハ商賣ノ業ニ非ズ然レモ若シ其原品ヲ供スルキハ仮令注文ニ隨フ
 テ時々買入ル、モノト雖モ以テ商賣ノ業トナス可シ マツセ第十九ベ
 タリード第三十
 七 ベスレー第三十七〇反説 又職人數名ヲ使用スル時ノ如キモ同様ナ
 アロセ 第二千九百九十一
 リ何トナレハ則チ其職人ヲ使用スルキハ職人ノ仕事ヲ索メ之ヲ供ス
 ルニ付キ其媒介者トナリ以テ其利益ヲ收入スレバナリ蓋シ其利益ヲ
 收入スル所以ハ若シ其職人ヲ使用スル程十分ナル仕事無キニ於テハ
 損失ヲ受ク可キヲアレハナリ 一千八百六十七年八月八日破毀判決ダ
 一丁〇バルドッシー
 第三十五マツセ第二十一 或ル人ハ藝術家一人丈ケノ補助者ヲ使用スル
 キハ之ヲ商人トナス可ラズト云ヘリ是レ其一人ノミチ使用スルハ本

業ニ附従ノ事ニシテ甚ダ緊要ナラザルヲ以テ其主タル業ノ性質ヲ變
 換スルニ足ラザルニ由ルナリ
 今法典ニ就ヒテ前述ノ適例ヲ論ズ可シ

第一製造ノ業第六百三十二條第二項見合
 (第四十號) 第一項ニ於テ工業一般ヲ包含セザリシナラン製造ノ業ナ

ル語中ニ之ヲ包含ス可シ
 又此語タル他人ノ物品ヲ變造スルニ止マル工業者ノ業ヲモ包含ス可
 シ其故ハ此工業者ハ已レガ器械ト其職人ノ仕事トヲ貸與スルニ付テ
 利分ヲ得レハナリ例ハ染料物師、布類印刷人、書籍印刷人ノ如キ是レナ
 リ然レモ學術雜誌或ハ判決類纂、編輯人兼印刷人ニハ之ヲ適用ス可
 ラス 一千八百五十五年五月二十五日巴里控訴院判決ダ
 一丁〇バルドッシー第三十五アロセ
 者ノ如キニハ決シテ之ヲ當ツ可ラズ 一千八百五十七年十二月九日コ
 ルマール控訴院判決ダロイズ判

決類聚第五十八卷 第二部第二十三丁 何トナレハ則チ此等ノ者ハ其勤勞ニ付テノミ利チ 収ムル者ニシテ而シテ其他ニ得タルノ收利ノ方法ハ以テ公衆ノ依頼 ヲ待ツモノニ非ザレハナリ但シ公告等ヲ掲載シ以テ利益ヲ收ムル日 誌發賣ノ業ノ如キハ固ヨリ商賣ノ業タルヘシ 一千八百七十年一月二 裁判所判決マロイズ判決類聚 第十四日マルセリユ商事 第七十卷第三部第七十六丁

又他人ノ地面ニ造營チナスヲ請合ヒ以テ手間賃及ヒ材料ニ付テ利チ 得ル業ノ如キハ商賣ノ業リナス可シ此説タル該業チナス者材料ヲ供 スルニ於テハ異論之レ無シト雖モ ロクレ第四篇第百十二及ヒ第百十 ギエー商事裁判所論第一篇第四百十八丁モリニエー管轄論第三百九メー シヤーブラウール評論第三百十六丁アローセ第二千九百八十〇反説 カレー管轄論第二篇第五百十六、パリーリ第百四十八 其手問ノミチ供 カルドー商法雜論(一千八百六十四年刊行)第百八十七丁 スル時ニ至リテハ議論無キニ非ス蓋シ草按ニ於テハ本項中造營ナル

語ヲ載セタリシニ二三ノ控訴院ノ請求ニ因リ遂ヒニ之ヲ削除シ而シ テ第六百三十三條ニ於テ通航ノ爲メ用ユル船ヲ造營スルト云フニ至 テハ之ヲ存シ置キタルヲ以テ反對ノ説チナス者アリ ロクレ第四篇第 百十二丁モリニエー第四十一トマンジャイアローゼ〇一千八百六十 九年十一月二十八日巴里控訴院判決マロイズ判決類聚第七十卷第二 部第九十一丁等然レモ此語ヲ削除シタルハ只論題ヲ据置クノ目的ノミナル モ知ル可ラス而シテ立法者ノ默々ニ附シタルノミチ以テ全ク原則ニ 適合スルノ説ヲ排斥ス可ラズ彼ノ賣拂ノ爲メニ買入レタル土地ニ造 營チナス者ノ如キハ余輩既ニ已ニ之ヲ論ゼリ 第三 十六

又土地所有者其收獲物ニ製造ヲ加ヘ而シテ其製造ノ業ハ重要ニシテ 之ヲ主務ト看做ス可キ程ナルカ或ハ兼業ト看做ス可キ程ナルハ其 業ヲ以テ商賣ノ業トナス可シ如何トナレハ此所有者ハ原品ニ付テ射 利ヲ計畫セザルモ其器械ト手問賃トニ付テ收入スル所アレハナリ即

チ茶葉耕作ノ業ト砂糖製造ノ業トチ兼テ又麻培育ノ業ト紡績ノ業ト
チ兼ヌル者ノ如キ其事情ニ因テ製造ノ業ヲ營ム者ナリトス可シ(第三
一千八百七十一年十一月二十七日願訴局判決)
ロ一ズ判決類聚第七十二卷第一部第九十二丁等

第二 仲買ノ企業及ヒ商業世話ノ業務(第六百三十二條第二項及ヒ第
四項見合)

(第四十一號) 此商業世話ナル語ニハ手形賣買世話人ノ業ヲモ含蓄ス可
シ蓋シ手形賣買世話人ノ業タル商業世話人ノ業ト異ナル所ハ唯其日
的ニ由ルノミ 一千八百六十四年七月二十五日願訴局判決ダローゼ判
決類聚第六十四卷第一部第三百八十九丁〇アローゼ第
十二然レモ手形賣買世話人ナル媒介者ニ由テ証書類ヲ賣ル者ハ初メ
賣拂フ爲メ之ヲ買入レタルニ非ザレハ以テ商業ノ業ヲナシタリトス
可ラズ 一千八百七十年四月二日リリチン控訴院判
決ダローゼ判決類聚第七十一卷第五部第八丁
仲買人ト商業世話人トハ并ニ商業上ノ名代人ニシテ手数料ヲ受クル

モノナリ仲買人ハ率テ自己ノ名ヲ以テ取引ヲナシ商業世話人ハ唯双
方ナシテ約束ヲ取結バシメンカ爲メ其間ニ周旋スル者ナリト雖モ到
底手数料ヲ受クル媒介者ナリトス蓋シ此類ノ業ニ於テ果シテ投機ノ
事即チ大損ヲ受ク可キ代リニ大益ヲ得ルノ期圖アルヤ否ヤハ疑フ可
キカ如シ然レモ此輩ハ取引事件ニ於テ百分ニ付キ若干ノ割合ハ儘ニ
受ク可キモノニシテ其徒勞ヲナサバラント欲スルヲ以テ自己ノ利益
ノ爲メ又得意先ノ利益ノ爲メニ物價ノ高低ニ於テ非常ノ關係ヲ有ス
ルモノナリ然ラハ則チ此輩ヲ目シテ媒介上投機ノ射利ヲナスモノナ
リト云フモ固ヨリ其當ヲ得タリト謂フ可シ是レ其商人タル以所ナリ
(上文第二十九及ヒ第三十) 第十一 且法律ニ於テ此等ノ業ヲ商業ノ業
トナシタル者ハ他ノ商業ノ業ト類似スル所アルニ由レバナリ何トナ
レハ則チ彼レ商業ノ業ヲナシ投機射利ヲ以テ營業トナスモノタレバ

ナリ蓋シ其商賣ノ業ヲナスモノ固ヨリ他人ノ爲メナリト雖モ其之ト
 約定ヲ結ブ者ハ商法ニ定メタル迅速ト安寧ト無クシテハアラザルナリ
 法律ニ於テ仲買ノ總企業ヲ商賣ノ業ナリトスルガ故ニ其引受ケタル
 一事件ノミニテハ引受人ト依頼人トノ間ニ在リテハ之ヲ目シテ商賣
 ノ事トスルヲ得ス（第六篇第二百三十丁及ヒ第二百三十一丁）ドマンシ
 キ（第二千九百七十七）ノ可トスル所ナリ然レモドラマール及ヒルガ
 ワトウワン（第一版第一篇第四十四、第二版第二篇第二十九）ハ之ヲ不可
 トセ之ニ反シテ第四項ニ隨ヘハ商業世話ノ業務ヲ以テ商賣ノ事トス
 ルカ故ニ其世話人ノ爲シタル一事ヲモ亦商賣ノ事トス可シ蓋シ此差
 別ヲ設ケタルニ付キ満足ス可キ理由ハ無シト雖ウワンセン（第一篇第
 百二十九丁）アローセ
 百七十三（顧フニ法典編纂ノ當時ニ在リテハ商業世話人ノ業ハ確乎タ
 ル專有權ナリシガ故ニ嚴法就中拘留ヲ設ケテ其職業ニ侵入スル者ヲ

威逼シ以テ其權ヲ鞏保シタルナラン（第六
 篇第二百三十丁）
 第三 運送ノ企業（第六百三十二條第二項見合）

（第四十二號）運送ノ業ハ直チニ商業ノ經濟上ノ義解中ニ入ル可ク而
 シテ余輩ヲ以テスレハ他ノ業ト區別ス可キ所タル射利媒介者ナル性
 質有リトス即チ其企業人ハ馬車船舶等ヲ貸シテ以テ利ヲ收ムルモノ
 トス

仮令賃銀ヲ受クルアルモ一回運送ノ業ヲ爲シタル迎之ヲ商賣ノ業ト
 ハナス可ラズ蓋シ馬車ヲ所持スル者其馬ヲ用立テ賃銀ヲ取ルモ貸附
 シルガ爲メニ之ヲ買入レタルニハアラサレハナリ例ヘハ耕作人市場
 ニ往カントスルニ通路ニテ事ヲ辨ズルノ依托ヲ受ケタル如キハ商賣
 ノ業ニ非サルナリ（ハルトツシユ）第三十八（チリヤール管轄論第三百
 二十四、ヌーギエ）商事裁判所論第一篇第二百十二
 丁、ヘダリード（第二十五、八、）ブラウール（第六
 篇第二百三十）アローセ（第二千九百七十八）

第四 口入、取次ノ業(第六百三十二條第二項見合)

(第四十三號) 此業タル諸人ノ爲メニ何々ノ事ヲ計リテ周施スルモノニテ或ハ訴訟ノ附添人トナリ或ハ意見ヲ述ヘ或ハ貸附所ヲ與フル等枚擧スルニ違マアラス其利ヲ得ル處ハ時トシテ其使用人ノ仕事ニ付テスルコアリ又其關係ニ付テスルコアリ又事務ヲ集合スルニ付テスルコアリ蓋シ事務ヲ集合スルハ時間ヲ節減スルコヲ得可シ此業ヲ以テ商賣ノ業トナシタル眞ノ理由ハ此ノ如キ業ヲ營ム者ハ概テ信ヲ措キ難シトシ之ヲシテ商法ノ嚴則ニ從ハシメント欲シタルニ在ルノ(拘留破産等) バルトツシユ 其企業ノミハ商賣ノ業トス可キモ一回此ノ如キ事ヲナシタリトテ之ヲ商賣ノ業ト認ム可ラス然レモ該企業ヲ營ム者カ他人ノ爲メニ爲シタル業務其事柄ハ商賣ノ業タルコト非ズト雖モ其企業者ノ所爲ハ即チ商賣ノ業ナリトス パルドツシユ 第四十二ワ
二ワ
ン
サン
第一篇第

百三十四チリヤール第三百三十九、ヌーギエト第一篇第四百二十九丁、ベダリード第二百六十九、アローセ第二千九百八十二

商事裁判所ニ在リテ事ヲ辨ズル商事代言師ノ如キハ決シテ此部ニ入ルモノニハ非ズ其業体タル企業ト稱スルヲ得可ラス蓋シ此輩ノ者ハ何事ニ付テモ投機ノ射利ヲ計ル者コト非スシテ唯其勤勞ト一身ノ能力トノ報酬金ヲ受ケ且立法者コトテ注意ヲ要ス可キ危険ナル者アルコト非サレハナリ

第五 糶賣場(第六百三十二條第三項見合)

(第四十四號) 糶賣場ハ商事ニ熟練セル買主ノ會集ニ因リ商品ニ價格ヲ増益セシメ其場所使役ノ勤勞及ヒ顧客ニ付テ利ヲ受クル媒介者ニシテ且往々莫大ナル價直ノ物品ヲ預ルモノナリ故ニ法律ニテ之ヲ牽制ス可キ方法ヲ設ケ以テ諸人ヲ保護セント欲シタルナリ

第六 遊戯場(第六百三十二條第三項見合)

(第四十五號) 一千六百七十三年ノ王命ニ於テハ此事ヲ載セザリシガ
蓋シ當時ニ在リテハ其入費僅少ニシテ唯其場所ノ賃賃ノミヲ收ムル
ヲ主務トシタルガ故ナリ然レモ今日ニ至テハ其坐元ノ業トスル所ハ
殊ニ物件ヲ買入レ且復賃セシガ爲メ賃借スルコトアルナリ
意、ロクレ、商法典精理
第八卷第二百九十丁
里控訴院注

遊戯場ハ凡ソ演劇ニ類スルモノヲ包含シ寄合茶店公同舞躍場ノ如
キ亦此部ニ入ル可シ
七、ターギエ第一篇第四百四十二丁、ベタリード第
二百八十一、ブラウツール第六篇第二百三十一丁及ヒドマン
ジャー第六篇第三百六十三丁、アローセ第二千九百八十四
藝人カ催シタル集會ノ如キ一時ニ止マル所業ヲ以テ此部中ニ算入ス
可ラス
モリニエー第四十七、ドマンジャー
ラウツール評論第六篇第三百六十三丁
(論)坐元ノ使用スル所ハ藝人ノ業ハ以テ商賣ノ業トナス可キ乎余輩ハ

之ヲ然ラズトス可シ蓋シ此輩ノ如キ元來作出者ニシテ媒介者ニハ非
ズ唯其勤勞ニ付テノミ利ヲ得ル者ニシテ假令商賣ノ業トナス可キ事
ニ關係スルモ已レガ名ヲ以テ之ニ關係スルニ非サルコト猶ホ商人ノ使
用スル役員工業者ノ職人若クハ職人長等ノ如ク雇主ト共ニ投機ノ射
利ヲナスモノニ非ザルナリ
一、千八百七十五年十二月八日破毀判決
ローズ判決類聚第七十六卷第一部第三百
五十九丁異說數多アリハルドツシユール第四十六、モリニエー第四十九
ト、ソ會社篇第三百四十二、ドマンジャーブラウツール評論第六篇第
三百六十五丁ベスレー第二十
七、アローセ第二千九百八十四
(論)然レモ此輩ハ者雇主ト爭訟ハ起ルコトアレハ其爭訟ハ商事裁判所ノ
管轄タル可キ乎此論ハ前ノ論トハ全ク異ナルモノニテ此場合ハ第六
百三十四條第一項ニ記載シタル商人ノ番頭商人ノ使人若クハ其僕婢
ニ付テノ訴訟ハ商事裁判所ノ所管トシタル場合ニ入ル可キヤ否ヤニ

在リトス

第一説ニ云フ然ラズ第六百三十四條ニ載セタル文面ノ通常ナル義意
 ノ包含スル所ニ非ラズ若シ斯ル事件ニ付キ此條目ヲ援引スルハ第
 五百四十九條第二項ニ於テ役員ノ爲メニ設ケラレタル特權ヲ以テ此
 等ノ者ニ附與セザルヲ得ザル可シ然ルニ此ノ如キ結果ノ生ズルコトハ
 大率人ノ不可トスル所ナリト 一千八百六十七年四月一日ホルド控
 訴院判決ダロイダ判決類聚第六十八卷
 第二部第八丁、一千八百六十七年十月十六日セーヌ商事裁判所判決ダ
 ロイダ判決類聚第七十一卷第五部第三百七十八丁、ドマンジャラ
 ウロール評論第六
 篇第三百六十六丁
 第二説ニ云ク然リ(可)蓋シ第六百三十四條ノ精神ト其義意ノ甚々廣汎
 ナル事項ハ全ク一般ノ事ニ關スルモノニテ凡ソ作出ニ涉ル勤勞サナ
 スモノハ皆其包含スル所ナル可シ而シテ第五百四十九條第二項ニ付

テモ余ハ又同様ニ了解セサルヲ得ズ假令巨額ノ給料ヲ受クル藝人ア
 リテ憫諒ス可キヲ無シト雖モ商人ノ使役人ト力役者トニ特權ヲ附與
 シタル仁慈上ノ理由引援シ論辨スルコトヲ得可シ是レ衆人ノ可トスル
 所ナリ 一千八百七十年三月十四日ニーム控訴院判決ダロイダ判決類
 聚第七十卷第二部第六十二丁〇ナリヤール第三百五十、ヌー

ギエー第一篇第四百四十三丁ベズリード
 第二百八十五アロイセ第二千九百八十四

第三款 資本ニ付テ利ヲ射ル事(第六百三十二條第四項見合)

(第四十六號) 貨幣交換ノ業 此業ノ内ニハ(第一)金銀兩替ノ事ヲ含蓄

ス金銀兩替トハ一種ノ貨幣ヲ以テ他ノ種ノ貨幣ト交換スル事ニシテ
 即チ賣拂フ爲メニ買入ル、ナリ而シテ此業ニ於テハ貨幣ナル者其商品
 タル可シ故ニ其一回ノ業ヲモ目シテ商賣ノ業トナス可シ
 ドマンジャ
 ーゾラウ

〇反説 評論第六篇第三百三十七丁(第二)又振出爲替ナル者アリ振出爲替

トハ甲ノ地ニテ金銀ヲ受取リ乙ノ地ニテ同額ノ金ヲ拂出スヲ謂フ
 故ニ此業タル金銀ヲ運送スルニ等シキ者ニテ唯其煩ヲ省テ者ナリ其
 商賣ノ業タル所以ノ者ハ金額ヲ領受スル者ハ之ヲ受取人ニ渡ス爲メ
 ノミニ受取リ以テ手数料ヲ收入スルニ由ルナリ故ニ此輩ノ者ハ射利媒
 介者ノ職分ヲ有スル者トス此事ハ第八編ニ詳論ス可シ第七百十二第
八百四十四
 此業ハ凡ベテ賣拂ヲ爲メコ價物ヲ買入ル、事ト同視セザル可ラズ例
 へハ公ケノ手形一千八百五十二年十一月二十二日巴里控訴院判決
 第二千九工業ノ株式一千八百五十六年一月二十四日却下判決買入
 ノ如キ之ト同視スルヲ要ス而シテ其事實ノ稍々異ナル所アルヲ以テ
 業体ノ性質ノ變ズ可ラス
 (第四十七號) 銀行ノ業。銀行主ナル者ハ損益ヲ引受ケ資本ヲ求メ利
 息ヲ取リテ之ヲ貸與シ又割引拂等ノ業ヲ爲シ以テ利益ヲ收ムルモノ

ナリ何人ト雖ヒ是ノ如キ業ヲ營ムモノハ即チ商賣ノ業ヲ爲スモノナ
 リトス然レハ資本ヲ受取リテ其利息ヲ拂ヒ之ヲ預ケテ利息ヲ得ルモ
 ノト雖ヒ媒介者トナリテ諸人ノ求メニ應シ或ハ諸人ニ金高ヲ貸與シ
 或ハ世話料ヲ受クル如キヲ無キ以上ハ其所爲ヲ以テ商賣ノ業ナリト
 スルヲ得ス一千八百四十八年十二月三十日ナンニ控訴院公證人ノ
判決如キ業ヲ爲スモノナリ
 如キ屢々是ノ如キ業ヲ爲スモノナリ
 公ケノ銀行ノ諸業第六百三十二條第二項見合此業モ亦前ノ私立銀行
 ト同一ノ理由ニ因リ商賣ノ業トナス但シ其公ケナル性質アルニ因リ
 稍々疑フモノアルヘシ

第四款 海上運送ニ關シテ利ヲ得ル事

第六百三十三條 左ノ諸件モ法律上ニテ之ヲ商賣ノ業ナリトス
 國ノ内外ヲ問ハス總テ通航ノ爲メ用ユル船ヲ造營シ又ハ賣買スル

總○へ○テ○ノ○企○業○
 船○ニ○テ○艦○送○ス○ル○總○へ○テ○ノ○企○業○
 船○ニ○備○フ○ル○器○具○類○及○ヒ○船○中○ノ○食○糧○ノ○總○へ○テ○ノ○賣○買○
 船○ノ○貸○借○又○ハ○積○荷○或○ハ○船○ヲ○引○當○ト○爲○ス○金○ノ○貸○借○ノ○總○へ○テ○ノ○契○約○
 海○上○保○險○及○ヒ○其○他○海○上○貿○易○ニ○關○ス○ル○總○へ○テ○ノ○契○約○
 乘○組○人○雇○入○給○料○ニ○付○テ○總○へ○テ○ノ○契○約○
 海○員○雇○入○ニ○付○テ○總○へ○テ○ノ○契○約○

(第四十八號) 第六百三十三條ニ列記シタル中ニテ船舶ヲ造營スルノ
 企業ヲ以テ商賣ノ業トシタル者ハ第六百三十二條ニ記載シタル(上文
 第四十)製造ノ企業ヲ商賣ノ業トシタル理由ト同一ナリ蓋シ其企業者
 ハ材料ト手間賃トニ付テ利得ヲ收入スルモノナレバナリ
 其他ノ事業ハ直接ト間接トヲ問ハス海上ノ運送ニ關スルモノナリ蓋

シ運送ノ企業者ハ其運送ノ機械ト使用人トヲ貸與シ以テ射利ヲ期圖
 スルモノナレハ其企業ハ固ヨリ商賣ノ業ナリトス是レ余輩カ前ニ既
 ニ開述セシ所ナリキ是ヲ以テ該業ノ爲メニ必要ナル總テノ業ハ余輩
 カ第二節ニ詳論セント欲スル所ノ附從ノ理ニ因リテ商賣ノ業トナル
 可シ第六百三十三條ノ列記中先ツ「船」ニテ艦送スル業ヲ掲ケ次ニ其業
 ニ必要ナル船舶ノ「賣買」及ヒ「船」ニ備フル器具類及ヒ船中ノ食糧ノ「賣買」
 ノ事ヲ擧ゲ又「海員雇入」ノ事、「運送」ヲ實行スル爲メノ船舶ハ「賃貸」「船舶
 引當借金」ノ事并ニ企業者カ其船舶ノ危険ヲ免ル可キ「保險」ノ事ヲ載セ
 タルハ即チ之カ爲メナリ
 又法律ハ其企業人ト取結ブ所ノ契約ヲモ此部中ニ入レタリ蓋シ此企
 業人ヨリ船舶ヲ買入レ或ハ之ニ船舶ヲ賣渡ス者ハ概チ其造營者ナル
 カ又ハ企業人ナリ船舶ニ備フル器具類及ヒ船中ノ食糧ヲ之ニ賣渡ス

者ハ其物品ノ商人ナリ商品ヲ之ニ托シテ艤送スル者ハ己レカ商業ノ爲メニ運送ヲナサシムル商人ナリ又其商品ヲ保險シ及ヒ之ヲ抵當トシテ金高ヲ借ルモ又同一ノ利益ノ爲メナリ彼ノ商品ヲ抵當ニ取りテ金高ヲ貸ス者ハ利益ノ一部ヲ取り損失ノ一部ヲ負フ可キモノナレハ幾分カ企業ノ危険ヲ擔任スルモノナリ彼ノ保險ヲ業トセルモノハ實際被保者間ノ媒介者ナリトス何トナレハ則チ彼レ甲ノ災厄ヲ辨償スルハ其之ヲ蒙ムラザリシ乙丙者等ヨリ拂ヒタル保險料ヲ以テシ而シテ其彼此ノ間ニ立テ利益ヲ收ムルモノナレバナリ又海員ノ契約ヲ以テ商賣ノ業トシタル者ハ其之ヲ使用スル者トノ間ニ於テ爭論ノ起リシキハ第六百三十四條第四項ノ商人ノ役員ニ關スル明文ノ如ク商事裁判所コテ之ヲ裁判セシメンガ爲メナリ

然レモ法律ノ定メタル所ハ大概可ナリトスルモ又立法者ノ精神ナリ

トス可キ原則ニ反スルモノ無キニ非ス何ソヤ夫レ船ハ非商人ナル者遊舫トシテ之ヲ買フアルニ非ズヤ又船ノ食糧ハ之ヲ作出セシ農者ヨリ買フアルニ非スヤ又遠路ノ旅行ヲナサントスル者其荷物或ハ其家具ヲ運送セシメント欲スルキハ荷物ノ艤送ヲナスアルニ非ズヤ蓋シ此等ノ場合ニ在テハ該業ハ商業ニ附從ノ業タルニ非ザルモノトス

(論)然レモ之ヲ商賣ノ業ト看做サハル可ラサル乎

第一說 然リ商賣ノ業トス可シ蓋シ各項ニ於テ總ベテナル語ヲ用非タルヲ觀レハ第六百三十三條ノ規則ハ廣汎ナル者トス又此規則タル是レ蓋シ法律上ノ推測ヲ許ルシタル所ニシテ反對ノ証ヲ許サハルモノナリ又草接ニ付テ巴里控訴院ヨリ差出シタル注意書ヲ看レバ此義意アルヲ知ルニ足レリ

至ル〇ドラマール及ヒルホワトウワン第一版

第一篇第三十四及三十五

第二説 否、商賣ノ業トス可ラズ(可)第六百三十三條ノ規則タル縱令原則ニ反スル所アリト雖、立法者ハ之ニ廣汎ナル義意ヲ附シタリトハス可ラザルモノ、如ク且ツ毫モ此ノ如ク看做ス可キノ理由之無シ獨リ吾人カ信セザル可ラザル所ノ者ハ立法者ハ至當タル事ノミヲ定メント欲シタル是レナリ且法律上ノ推測ヲ許ルスハ必ズヤ其明文アルヲ必要トス然ルニ第六百三十三條ニ於テハ此等ノ明文アルヲ見ス其法律ニテ商賣ノ業ナリトスト云ヘルニテ「ナリトス」ノ語タル第六百三十二條ニ用サタル語ト同一ナリ而シテ第六百三十二條ハ原則ノ光明ニ照ラシテ解釋スルモ妨ゲ無キモノニ非スヤ若シ夫レ巴里控訴院ノ注意ハ其果シテ立法者ノ意ニ適フモノタルヤ毫モ證據ス可キモノ無シナリヤール第四百六十四ベタリード第三百十七アルドリツク、カールモン商法辭書商賣ノ業ノ部第五ブラウール第六篇第三百八十六丁

及ヒ其以下、アロ
セ第三十四

第二節 附從ノ理ニ因テ商賣ノ業トナス可キ事業

(第四十九號) 抑モ附從ノ事ハ主タル事ノ運命ニ從フトハ法理ニ於テ屢々適用スル所ノ規則ニシテ之ヲ商業上ノ事ト商業上ニ非サル事トニ適用シタルキハ此規則タル商人其商業上ノ利益ニ付テ爲シタル事ハ上ノ第一ニ詳悉シタル性質ヲ具有セズト雖、之ヲ商賣上ノ業ナリト看做サ、ル可ラストノ意ナリ法典ニ於テハ少ナクモニケ處ニ此意ヲ適用シタルモノ、如シ其一ケ處ハ第六百三十八條第二項ニシテ此條目ニ於テハ商人ノ手署シタル手形ハ其商業ノ爲メニ之ヲ爲シタルト推定ス可キニ因リ即チ商事裁判所ノ管轄トナス可シトアリ又他ノ一ケ所ハ第六百三十二條第六項及ヒ第六百三十一條第三項ニシテ此條目ニ於テハ凡ソ商人間ノ義務ナル者ハ皆之ヲ商賣上ノ事ナリト

ス可シトアリ此文面ハ太々廣汎ニ過キタル所アレハ第六百三十八條
 第一項ニ掲グル所ヲ以テ其義意ヲ狹縮セラレタリ第六百三十八條第
 一項ハ商人其一身ノ使用ノ爲ノニ爲シタル買入レノ事ハ商賣ノ事ニ
 非ストセリ故ニ麵包ヲ燒ク者酒商ヨリ酒ヲ買ヒシ事ハ以テ商賣ノ事
 トナス可ラス一、千八百五十二年三月九日アルレアン控訴院判決法律
 草按ニ於テハ右二箇ノ箇條ヲ合視スルキハ此ノ如キ義意ヲ生ス可キ
 一チ説明シタリ然ラハ則チ法典ノ主意ハ商人間ノ義務ハ其相互ノ商
 業ニ關スル以上ハ以テ商賣上ノ事ナリトス可キニ在リト知ル可シ
 (論)然レハ是レカ爲メニ附從ノ理ヲ一般ニ許ルニ凡ソ商人其商業ノ爲
 メニ爲シタル事ハ皆之ヲ商賣上ノ事ナリトセサル可ラサル乎例ヘバ
 産物ヲ運送スルカ爲メ馬車ヲ買入レタル如キ仮令此事ノミニ付テハ
 厘毫モ射利ヲ期圖スル一チナキモ之ヲ商賣上ノ業ナリトス可キ乎又商

人其商業ノ爲メナル旅行ニ關スル契約ノ如キ亦之ヲ商賣上ノ業ナリ
 トス可キ乎又新聞紙若クハ揭示ヲ以テナシタル公告ノ如キ肆店若ク
 ハ商業上ノ動産ヲ展示シ或ハ修補シタル如キ器械ヲ買入タル如キ木
 炭ヲ買入タル等ノ如キ皆以テ商賣上ノ事ナリトス可キ乎
 第一說 否、是ノ如キ原則ハ法律上何レノ處ニモ定メタル所ナシ
 法典精理第一版第八篇第二百五十三丁故ニ商人其商業ヲ開始センガ爲メ不
 動産ヲ買入レタル事ハ商賣上ノ業ニ非ズト決定セリ一千八百五十一年
 控訴院判決ダロイズ判決類聚第五十一卷第二部第九十丁〇反說一千
 八百七十四年八月十一日巴里控訴院判決ダロイズ判決類聚第七十五
 マツセ第九
 百六十九丁

第二說 然リ(可)若シ之ヲ然ラストセハ第六百三十一條第三項第六百
 三十二條第六項及ヒ第六百三十八條ニ付テ至當ノ解釋ヲ下タヌヲ得

ザル可キナリ先ッ第六百三十八條第二項ニ就ヒテ之ヲ論センニ此條目タル附從ノ理ノ手形ニ付テノ契約ニ能ク適當スル所ニシテ若シ此契約ヲ商業ノ爲メニナシタルキハ如何ナル方法ヲ用テスルモ其契約ハ商業上ノ事ヲザルヲ得ス(其契約ヲ取結ヒタル者商人ナリシキハ其契約ハ商業ノ爲メニナシタリト推測スルヲモ得可シ此推測ノ事ハ下文ニ論スル所アル可シ)抑モ此規則ハ手形ニ付テハ之ヲ適用ス可キモ他ノ契約ノ事ニ付テハ適用ス可ラズトスルハ如何ナル理由アリテ然ル乎 一 千八百五十一年三月二十二日 巴黎控訴院判決ダロイニ判決類聚第五十一卷第二部第九十丁〇反說一千八百七十四年八月十一日 巴黎控訴院判決ダロイニ判決類聚第九百六十九 若シ第六百三十一條第三項第六百三十二條第六項及ヒ第六百三十八條第一項ヲ其文面ノミニ從フテ適用スルトセバ商業ト認定ス可キ事ヲ同時ニ擴張狹縮シ全ク不條理ナル結果ヲ生スルニ至ル可シ蓋シ此等ノ條目ニ載セタル

所ニ據レハ凡ソ商人間ノ契約ハ其一身上ノ使用ノ爲メニナシタル買入レノ事ヲ除クノ外ハ皆商業上ノ事ナリトスルニ在リ然レモ此例外ノ事ノ内ニハ自身消費ノ爲メノ買入レノ事ヲ包含スルノミナラス又村落ニテ別荘ヲ買入レ農具ヲ買入ル、等仮令甲ノ商人乙ノ商人ヨリ之ヲ買入ル、モ ドマンシヤラウフル 凡ソ其事商業ニ關セサルニ於テハ亦右例外中ニ入ル可キモノトナス可シ蓋シ此二種ノ買入レノ事ヲ以テ例外ニ非ストノ理由ハ決シテ之無キナリ現ニ法律草按ニ於テ商人共別荘ノ爲メニ玻璃ヲ買入レタル場合ヲ明示シタリ ロシレ 商法典第一版第八篇第二百 去レハ第六百三十一條及ヒ第六百三十二條ヲ改正シ右等ノ場合ニ於テハ附從ノ理ニ由リテ其業ヲ商賣トスルヲ無カル可シ即商人間ニ取結ヒタル契約ト雖モ其商業上ニ關セザル者ハ之ヲ商賣上ノ業トナス可ラズト云フヲナリ今又一方ノ點ヲ論センニ即チ商人ノ

爲シタル事ニシテ其商業上ニ關スルモノハ相手方商人タルキハ商賣上ノ事ナリトス可キハ最モ疑ヲ容ル可キモノニ非ストス(第六百三十一條第三項及ヒ第六百三十二條第六項或ハ其商人ニ非ザル者ト之ヲ取結ヒタルニ於テハ以テ商賣上ノ事ニ非スト云ハン乎何ゾ其レ然ラシヤ同一ナル目的ヲ以テ同一ノ事ヲ爲シタルニ其共ニ之ヲ取結ヒタル人ノ身分ニ因リテ或ハ商賣上ノ事トシ或ハ然ラストスル抑モ何ニ由リテ而シテ然ルヤ譬ヘバ余商業ノ爲メニ商人ヨリ勘定臺及ヒ小車ヲ買入レンニ其事ハ商賣上ノ事ナリトシテ而シテ若シ之ヲ商人ニ非ザル者ヨリ買入ル、キハ其事ハ同一事ナリト雖モ以テ之ヲ商賣上ノ事ニ非ズトス此ノ如キハ決シテ許ルス可ラサルノ説タリ又理論ヨリ之ヲ考察スルニ其商業ノ爲メニ物品ヲ買入ル、者ハ是レ固ヨリ商賣上ノ業ヲ爲シタルナリ如何ニモ其事ノミニ付テハ利得ナキモ其事ノ

結果ニ至テハ利得ノ内ニ入ル可シ何トナレハ則チ此入費タル物品ヲ供スルニ付テ利益ヲ得セシムルノ効果アルモノナレハ即チ元直ト賣直トノ勘定中ニ算入セザル可ラサルモノナレハナリ一千八百五十四年四月十一日破毀判決ダールズ判決類聚第五十四卷第一部第八十二丁一千八百六十五年一月二十四日破毀判決タロイズ判決類聚第六十五卷第一部第七十三丁一千八百七十四年八月十一日巴里控訴院判決タロイス判決類聚第七十五卷第二部第三十八丁〇パルトツシユ一第十七ターギエ一第一篇第三百九十三丁及ヒ其以下、ナリヤール第二百五十七及ヒ其以下、モリニエ一第三十八マツセ第九六十八ドマンシヤイブラウール評論第六篇第三百四十五丁及ヒ第四百三十三丁、アロイセ第二千九百四十七ヨリ第二千九百四十九ニ至ル

總ベテ商人ノ取結ヒタル契約ハ反對ノ証アル場合ノ外常ニ推測ヲ以テ其商業ノ爲メニ之ヲ爲シタリト看做スヘシアロイセ第二千九百四十七第二千九百四十八

(第五十號) 若シ第六百三十一條第一項及ヒ第六百三十二條第六項ヲバ余輩カ上ニ論セシ如ク解釋スルキハ義務者商業ノ爲メニ取結ヒタ

ル義務ニ之ヲ適用スルモ妨ケ無カル可キナリ(論)然レモ、准契約犯罪、准
犯罪ノ如キ他ノ根源ヨリ生シタル義務ニモ之ヲ適用ス可キ乎之ヲ然
ラストスルノ論アリ且之ヲ然ラストシテ裁判セラレタルコトアリ一千
五十五年三月六日リヨン控訴院判決ダロ一然レモ余輩ヲ以テスレハ
ズ判決類聚第五十六卷第五部第九十三丁
必ス之ヲ然リトモザル夫得サルモノ、如何トナレハ第六百三十
一條第一項及ヒ第六百三十二條第六項ニ於テハ之ヲ區別スルコト無ク
又第六百三十一條第一項ニハ契約ナル語ヲモ用ヒタリ アロ一セ第一
罪ニ付テハ而ノ其語ハ民法典第三篇第四卷ノ表題ニ於テ茲ニ論ズル
如キ義務ナル者ニ付テ用ユル所ノ語ナリ請フ其適例二三ヲ舉ゲン準
契約ニ付テハ商業上ノ事務ヲ管理シタルカ如キ アロ一セ第二 商業上
ノ融通取組計算ニ付テ誤謬ヲナシ負ハサル金ヲ拂ヒタルニ付キ之レ
ヲ取戻ス如キ アロ一セ第九十七丁 又犯罪ニ付テハ不正ナル競争
アロ一セ第九百六十

チナシタル如キ 一千八百六十六年四月二十八日 巴里控訴院判決 ダ
符 アロ一セ 判決類聚 第六十六卷 第二部 第二百二十八丁

號又ハ姓名ヲ冒稱シタル如キ 一千八百四十五年二月二十六日 願訴局
部 第九十一丁 アロ一 即 チ 是 レ ナ リ 發 明 專 賣 權 并 ニ 製 造 標 所 有 權 ヲ
セ 第 二 千 九 百 五 十 八

犯シタル事モ又此内ニ算入スルヲ得可キカ如シト雖モ 一千八百四十
四年七月二十五日ノ法律第三十四條及ヒ 一千八百五十七年六月二十

三日ノ法律第十六條ヲ以テ此事ヲ民事裁判所ノ管轄ニ附シタリ又準
犯罪ニ付テハ海上或ハ河川衝突ノ如キ皆其適例ナリトス 一千八百六
十三年八月

二十四日破毀判決ダロ一 ズ 判決類聚 第六十三卷 第一部 第三百四十八
丁 ベ タ リ ト 第 八 十 三 〇 ド マ ン シ ヤ ー ラ ウ ー ル 評 論 第 六 篇 第 三 百
八 十 四 丁 及 ヒ ア ロ 一 セ ハ 商 法 典 第 二 百 十 六 條 ニ 因 リ テ 海 上 ノ 衝 突 ニ

付テハ之ヲ可トシタリト雖モ河川ノ衝突ニ付テ之ヲ不可ナリトセリ
商業上ノ犯罪及ヒ準犯罪ニ付テ裁判例規ハ漸々其區域ハ廣張スルニ

傾向セリ蓋シ數多ノ判決ニ據レハ 一千八百七十三年三月四日 控
訴 院 判 決 ダ ロ 一 ズ 判 決 類 聚 第 七 十
百 十 七

五卷第二部第二百二十一丁、一千八百七十三年七月九日願訴局判決
 ローズ判決類聚第七十五卷第一部第四百六十五丁、一千八百七十四年
 二月十八日巴里控訴院判決ローズ判決類聚第七十五丁第二部第二
 百二十三丁、一千八百七十五年一月二十一日グルノーブル控訴院判決
 ダロイ判決類聚第七十五商人間ニテ商事ニ關シ罪ヲ犯シタルキハ
 其犯罪ハ之カ爲メニ商事タルヘシトセリ余輩ヲ以テ之ヲ觀レハ事被
 害者ノ商事ヲ害シ且其損害ハ犯人ノ商賣ノ業ヨリ生シタル者ナルヲ
 必要トス可シ是レ羅馬法ヨリ借リ來ル所ニシテ此等ノ要件アリテ而
 シテ後過失ハ商業ノ性質アリト謂フヲ得可シ 一千八百七十二年八月
 十三日巴里控訴院判決
 ダロイ判決類聚第七十
 卷第二部第一百七十三丁
 (論)商業上ノ義務ノ保證ハ亦商業上ノ事ナリトセン乎之ヲ然ラストス
 ルヲ定則トナス如何トナレハ保證人ナル者ハ通常情誼ヲ以テ契約ニ
 干涉スルモノナレハナリ故ニ自ラ主タル負債主ト別異ニス可シト確

定セラレ 一千八百七十二年八月十三日願訴局判決ダロイ
 判決類聚第七十四卷第一部第七十七丁 而シテ連帶保
 証人ニ付テモ亦然ラサルヲ得ズト決定セラレタリキ 一千八百六十六
 年五月十六日却
 下判決ダロイ判決類聚第
 六十六卷第一部第二百九丁 蓋シ第六百三十七條ニ於テハ爲替手形ノ
 事ニ付キ連帶義務者ニ在リテハ前ト異ナル一種ノ規則ヲ設ケタリト
 雖是レ特ニ此事ノミニ限ル者ナリ(下文第八百四十三參看)
 右ノ定則ニ付キ例外ナル場合アリ即チ左ノ如シ
 (第一) 保證爲替手形ハ(第一百四十一條同四十二條參看)其方法ニ因リ
 右ノ規則ニ循フ可ラザルモノトス(第六百三十七條第七項下ノ第三款
 參看) 一千八百六十九年四月二十一日破毀判決ダロイ判決類聚第六
 十九卷第一部第四百七丁○ヌーキエー第二篇第三百廿六丁、チリ
 ヤール第二百三十一 又其保證ハ別ノ證書ヲ以テ之ヲ爲シタルキモ常
 丁アローセ第三千一 二商業上ノ契約ニ關スルモノナリ而シテ其契約ハ其一事ニ付テ商業

上ノ事トナルノミナリラス其總ヘテ附從ノ事ニ付テモ亦商業上ノ事トナル可シ(第六百三十七條ト比較ス可シ)

(第三) 償ヲ得テ爲ス所ノ保証ノ事モ之ヲ例外トナス可シ譬ヘハ銀行

主手敷料ヲ受取リ此保証ヲ爲シタル時ノ如キ即チ是レナリ 一千八百七十二年

一月三十一日願訴局判決(ダローズ判決類聚第七十二卷第一部第二百五十三丁前ト同一ノ著者)

(論) 商賣ノ爲メ其營業ノ株ヲ賣買スル事ハ商賣上ノ事ナリトセン乎利

得ルヲナシト雖モ賣拂フ爲メコ之ヲ買入レシキハ之ヲ商賣ノ業ナリトス可シトハ前ニ言ヒシ所ナリキ(第一款第一節參考) 斯ル事

ニ於テハ平常三個ノ物ヲ同時ニ讓與スルモノニテ即チ得意先店舖ニ存在スル商品及ヒ商業上ノ店地是レナリ然レモ得意先ヲ賣拂フヲ以

テ主要ニシテ且缺ク可ラザル事トシ他ノ二件ニ至テハ契約書ニ掲載

セサルヲ得可キモノトス今此事タル賣拂フ爲メニ買入レタル事ナ

リトセハ余輩ハ之ヲ商業ナルモノニ非スト答ヘンノミ如何トナレハ

此買入レタル三個ノ物ノ中ニテ少ナクモ其二個即チ得意先ト店地ハ

直チニ賣拂フ爲メニ之ヲ買入レタルニ非ス況ンヤ其得意先ナル者ハ

主要ニシテ他ノ事ト別ツ可キモノタルニ於テチヤ尤モ商人此資本ヲ

買入ル、ニ際シ若シ其場所ヲ去ルヲアルキハ之ヲ賣拂ハントハ欲シ

タル可ケレト全ク其爲メニ買入レシコハ非スシテ之ヲ貯存シ使用ス

ル爲メニ買入レタルナリ 一千八百六十一年四月二十四日願訴局判決

五十然レモ附從ノ理ヨリシテ之ヲ論スルキハ此事ヲ以テ商業ナリト

六丁ザルヲ得ズ其故ハ此賣買ノ事タル其職業ノ始メ或ハ終リノ事業ヲ

レバナリ蓋シ之ヲ買入ル、ハ其職業ヲ營ムニ實ニ必要ナル所ノモノ

ニシテ之ヲ賣却スルモ亦同ク必要タラザルヲ得サル可シ又第六百三

十二條第六項ニ照準スルニ此事タル商人間互ヒノ義務ニシテ如何ナ

ル名義ヲ以テスルモ第六百三十八條第一項ノ末文ニ載セタル例外中

コハ入ル可ラサルモノナリ

(第五十一號) 今此節ヲ終フルニ際シ第一節ニ述ベタル附從ノ理ヲ適用シタル事件ヲ記憶ス可シ顧フニ耕作人ガ其作物ニ製作ヲ加フル事ニ關シタル問題ニ之ヲ適用シ又築造シテ賣拂ハンガ爲ノ土地ヲ買求メタル事ニモ之ヲ適用シ又海上ノ事ニ關スル種々ノ契約ニ名稱ヲ附與センガ爲メ第六百三十三條ニ之ヲ適用シタルコトヲ述ベタリ其他尙ホ之ヲ適用シタル事アリ即チ他人ノ物品ニ就テ仕事ヲ爲ス職人僅少ナル物ヲ供給スルモ其事ハ商業ニ非ストスル是レナリ又己レガ療治スル病者ノミニニ藥劑ヲ賣與スル醫師例ヘバ田舎ニモ亦右附從ノ理ヲ適用ス可シ醫師病者ノミニニ藥劑ヲ賣與スル如キハ其職業ノ附從ノ事ニテ商賣ノ業ニ非ストス

一千八百五十九年一月二十日レンヌ控訴院
 第十一丁〇アローゼ
 第二千九百六十六 又教育ヲ與ヘ且生徒ニ飲食并ニ寐具ヲ供スル學舎

ノ教師ノ如キ其業ヲ以テ商賣ノ業ニ非ストス
 アローゼ同上ハルトツ
 シユ一第十五ドマンシ

第六篇第三百三十一丁
 ヤーブラウール評論

第三節 法律ノ權力ニ因リ商賣ノ業トスル事

(第五十二號) 此ノ事件ハ確乎タル推測ヲ以テ商賣ノ業ト定メラレタル所ニシテ反對ノ證據ヲ立ツルヲ許サザルモノトス而シテ何人ニ付テモ必ス斯ク推測スルモノナリ即チ左ニ舉グ

爲替手形ノ事(第六百三十二條第七項參考)此事ニ付テハ先ツ法律ノ權力ヲ以テ定メラレタル想像ノ事アリ即チ其箇條ノ始メニ法律ニテ商賣ノ業トス云々ノ語ヲ載セタル是レナリ蓋シ爲替手形ノ根源ヲ尋ヌルニ此事ハ元來商賣ノ業タル爲換契約ニ關スルモノナリ(第六百三十二條四項、上文第四十六)然レモ此箇條ノ真正ナル源山ハ金高ノ流通ニ齊シキ其廣キ流通ニ付テ商法上ノ安寧ヲ保維セントスルニ在リ就中

禁錮ノ制ノ行ハレシ時ニ於テハ此制ニ依リ萬全ヲ得セシムルノ主意
 ニテアリキ又果シテ此ノ如クナルキハ爲換手形ヲ請取ル者諸署名
 ナ識ルヲ要セスシテ以テ安スル所アルヘシ故ニ手形ノ署名者ハ爲換
 契約ヲ取結ハスト雖モ商法上ノ義務ヲ負フ者トスブラウツール第六
 又茲ニハ住所拂手形ノ如キ此地ヨリ彼地ニ金高ヲ移送スル諸業モ全
 ク商賣ノ項トナス可キト否ヤノ問題アリ而シテ其問題ハ第六百三十二
 條第七項ニ載セタル或ハナル語ニ附與ス可キ義意ヲ定ムルニ在ルナ
 リ後文爲換手形ノ卷ノ終リニ至リ住所拂手形ノ事ニ付キ之ヲ論究ス
 可シ(第一篇第八卷第八百四十四)

(第五十三號) 又法律ハ其權力ニ據テ或ル事件ニ干涉シ之ヲ商賣ノ業
 トナシタルコトハ第一節ニ述ベシ所ナルガ今宜シク茲ニ之ヲ記憶ス可
 シ即チ商品賣買引受ノ企業商業世話ノ業、口入レ、取次ノ業ハ此事柄ノ

ミニ就ヒテ之ヲ觀察スレハ常ニ商賣ノ業トナス可キ性質アルモノニ
 ハ非ザレモ法律ハ利益ト一般ノ安寧トニ基キ亦之ヲ商賣ノ業ト看做
 シタリ

第二章 商人トナル方法

此章ニハ二節アリ第一節ニ於テ商人タルニ必須ナル要件ヲ記載シ第
 二節ニ於テハ商人トナル自由ヲ制限シタル事ヲ論究ス可シ

第一節 商人タルニ必須ナル要件

(第五十四號) 或ル人ハ商人タルヤ否ヤヲ知ルコトハ利益ハ左ノ如シ

第一 商人ノ特權五種アリ

第一 他ノ裁判所ヨリ迅速ニ裁判シ且能ク商務ヲ熟知スル商事裁
 判所ノ管轄ヲ受クル事(六百三十一條)

第二 商事裁判所ノ裁判官トナルヲ得可キ事(第六百二十條)

第三 少シク制限アリト雖_レ其商業簿冊ヲ證據トシテ差出ス_レテ得_レヘキ事(第十二條及ヒ以下民法典第一千三百二十九條)

第四 其手形面ニ可_レナリ(金員等ノ渡シ方ヲ約スルノ意)及ヒ承_レ諾_スナル文字ヲ記スルヲ要セサル事(民法典第一千三百二十六條及ヒ第七篇第四百四十參看)

第五 百_ニ付六ノ割合ナル利息_ニテ金高ヲ借入ル_{コト}ヲ得_レヘキ事(一千八百七年九月三日ノ法律)

第二 商人ノ特別ナル義務七種アリ

第一 商業簿冊ヲ設置ク事(第二篇參看)

第二 婚姻方法ヲ特別ニ公告スル事(第四篇參看)

第三 其手形ハ商業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スルニ因リ又之ヲ商賣ノ業トナシ(第六百三十八條第二項)商人間ノ互ヒノ義務モ

亦商賣ノ業トスル事(第六百三十一條第一項及ヒ第六百三十二條第六項)

第四 財産抛棄ヲナシ得可_レラサル事(第五百四十一條)

第五 破産規則ニ循_フコト又分散ノ場合ト雖_レ通常若クハ詐僞倒産ノ刑ニ處セラレ得_レヘキ事

第六 凡ソ二百フラン以上ノ負債ニ付テハ通法ノ禁錮ヲ受ク_レヘキ事然_レモ此禁錮ノ事ハ一千八百六十七年七月二十二日ノ法律ヲ以テ廢セラレタリ

第七 免許稅ヲ納ム_レヘキ事然_レモ此義務ハ商人ノミニ限ルニ非ス他ノ職業ニ於テモ此稅ヲ拂ハサルヲ得ス(一千八百四十四年四月二十五日ノ法律)

商人トナル事

第一條 凡ソ商賣ノ業ヲ行ヒ之ヲ以テ平常已レノ職業ト爲ス者ハ商人ナリトス

(第五十五號) 凡ソ商人タルニハ二個ノ要件ナカル可カラス

第一 商賣ノ業ヲ行フ事・商賣ノ業ヲ行フトハ商賣ノ業トス可キ性質アル業ヲ行フト云フニシテ其義ヲ詳悉セサル可ラス何トナレハ則チ若シ附從ニテ商賣ノ業ナリトスヘキ事ト云フキハ是レ其之ヲ行フ者ハ既ニ商人タルヘケレハ附從ノ事ヲ以テシテハ商人タル身分ナル者ヲ生スルヲ得サルヲ明カナレハナリ又平常爲替手形ヲ振出スル(此事ハ法律ノ權力ニ因リテノミ商賣ノ業ト認ムヘキ唯一ノ事ナリ)其人ヲ以テ商人ナリトス可ラス(下文參看)此等ノ諸業ハ第一章ニ就ヒテ參看スヘシ(諸著述者ノ中ニテベスレーニ條ニ記載シタル商賣ノ業ト云ヘル語ヲ第六百三十二條ニ求索ス可ラサルヲ主張セリ)

又此等ノ業ヲ爲スニ因リテ商人タルニハ自ラ之ヲ爲スト代人ノ之ヲ爲ストチ分タサルモノトス蓋シ代人ノ爲シタル業ハ委托人ノ爲シタルモノト看做シ代人ノ爲シタルモノトハ看做サ、ルナリ故ニ此等ノ業ヲ代人ニ由リテ爲シタルトキハ其委託人ハ商人タルヘク代人ハ商人タラサルナリ(マツセ第九百五十六條)此解タル自己ノ爲メニ非スシ其會計者ノ署名シタル手形ニ付テハ商事裁判所ニテ裁判スヘキヲ法律ニ於テ例外ニ定メタリト雖モ爲メニ之ヲ商人トナス可ラス(第六百三十八條第二項)○ハルトツシユ一第七十九、マツセ第九百六十、ブラウツール第一篇第五十五丁アローセ第十五〇ベスレーハ(第百二)獨リ自己ノ名前ヲ以テスルニ非スシテ自己ノ算計ノ爲メ他人商業ヲナスキハ其本人ヲ以テ商人トスルヲ不可ナリトセリ

第二 之ヲ以テ平常已レハ職業ト爲ス事

數多ノ論者ノ說ニ反シ余輩ハ右ノ二語ハ一要件ノミヲ示スモノトスヘシ即チ平常商賣ノ業ヲ行フハ元來商人タルニ缺ク可ラ

ナル點ニシテ人ヲ商人ト看做スニ十分ナル所ナリ而シテ職業ナル者ハ現ニ平常之ヲ爲サ、ルモ亦其人ヲ商人トスルニ十分ナルヲアルヘシ其ハ下文ニ述フル所アラン

商人タルニハ其必ス平常商賣ノ業ヲ爲スヲ要ス人僅ニ一回商事ヲ爲スモ以テ商學裁判所ノ所管トナルコトアルヘシト雖モ爲メニ商人トハナラサルモノナリ 此身分ニ付テハ數多ノ他ノ効果ヲ生スヘシ上文十二丁及ヒ第五十三

丁、アローゼ第十四 尤モ商事裁判所ニテ或ル人ヲ商人ナリト認定スルニハ許多ノ商業ノ事ヲ証明スルヲ以テ足レリトス而シテ其事ハ平常ノ事ナリト明言シ之ヲ確定スルヲ要セサルモノナリ 一千八百五十年十二月十九日却下判決

論者或ハ謂ラク或ル人ヲ商人ト認定スルニハ其人商賣ノ業ヲ平常ニ

爲スノ外尙ホ之ヲ已レカ職業ト爲ス者タラサル可ラスト而シテ土地所有者カ爲替手形ヲ用テ小作人及ヒ借地人ト平生ニ約定アルコトアル場合ヲ引援シ且曰ク此土地所有者ハ商賣ノ業ヲ爲スヲ常トスルモ誰レカ以テ之ヲ商人ナリトセンヤ何トナレハ則其人ハ爲替手形ヲ製スルノ職業ヲ爲サバレハナリ故ニ人ヲ商人ト認定スルニハ其人商賣ノ業ヲ爲スヲ慣習トスルノ外尙ホ之ヲ已レカ職業ト爲ス者タラサル可

ラス一篇第五十四 第ト余輩ハ茲ニ舉ケタル場合及ヒ其實際上ノ議論ヲ認容スヘシ形或ル論者ハ此實際ノ議論ヲ認容スルト雖モ其爲替手キヲ以テ之ヲ商人トス可ラスト云ヘリハドツシユ一第七十九マツセ第九百五十五アローゼ第十五〇此説タル蓋シ不可ナリ何トナレハ則チ射利法ニ於テ爲換手形ニ商賣ノ業タル者ニ一ノ要件ナルヲ概則トスルト雖モ法律ニ於テ爲換手形ニ商賣ノ業タル者ニ一ノ要件ナルヲ概則トスルト雖モ射利ノ事ヲ商賣ノ業ト看做シタル以上ハ之ヲ平生ニ爲ス者必スモ

然商賣ノ業タラサルヲ得サル者ナルヘシト云フテ他ノ點ヨリ之ヲ解
 釋スヘシ蓋シ第一條ニ於テ商賣ノ業ナル語ヲ如此義意ニ用ヒタリト
 信スルハ至當ノ事ニシテ而シテ凡ソ事物ノ理ヲ解釋スルニモ又如此
 解釋スルハ至簡至明最モ能ク普通ノ思考ニ適合スルモノ、如シ荷モ
 偏執ノ者タラサル以上ハ慣習ニテ事ヲ爲スルハ其事職業ト成リ職業
 ハ慣習ヨリ生スル者ニシテ此二個ノ語中ニ二物ノ相異ナルモノナキ
 ナ知ルヘシ此説タル下ニ舉ル所ノ理ヲ以テ尙ホ鞏固ニスルヲ得ヘク
 又諸人ノ認諾スル所ニシテ職業ト慣習トノ差別ニ埋滅スルニ至ルヘ
 キモノナリ

又商賣ノ業ヲ爲スル者ヲ商人ト看做スニ必スシモ當人カ
 一種ノ職業ヲ營ムモノタルヲ要セス又其主要ノ職業タルヲモ要セス
 如何トナレハ主要ノ職業ナル語ハ法案ニハ記載セラレタリト雖モ審

査ノ際遂ニ削除セラレタレハナリ
 ニテ爲ス所ノ商賣ノ業ハ當人ニ於テ商人ノ職業ト兼務ス可ラサル職
 業ヲ爲シタルキト雖モ其効ヲ生スヘシ
 聚第五十五卷第
 六部第七十七丁
 ハルドツシニ第七十七
 下ノ第二節ヲ參看スヘシ
 又人ヲ商人ト看做スニ其人ノ業ハ公顯ニシテ普テ諸人ノ之ヲ知ル
 者タルヲ要セス蓋シ普知ナル語モ亦法律制定ノ際削除セラレタル所
 ナリ
 (論)然レモ慣習ニセサルモ公ケニ職業ヲ營ムルハ其人ヲ以テ商人ナリ
 トスルニ十分ナル乎譬ハ人アリ肆店ヲ開キ商品ヲ列ネ屋號ヲ掲ケ
 廣告ヲナシ買人ヲ待テ僅カニ數回商賣ノ業ヲ爲シタリ今此人ヲ以テ
 商人ナリトセン乎又禁錮ノ法行ハレシキハ之ヲ禁錮ニ處スヘキ乎分

散ノ處分ヲナスヘキ乎本人ハ婚姻方法ヲ公ケニセサル可ラサル乎

第一說 否、商人トナス可ラス人ノ意中ノミニ由リテ之ヲ商人トナス可ラス第一條ニ於テ其事實アルヲ必要トセリ

ドテマール及ヒルボルトウワン第一版第五篇

第十二、第二版第一篇第三十九、マツセ第九百四十九ヨリ

第九百五十一ニ至ルヘスレ、第六十一アロ、セ第三十

第二說 然リ商人トナス可シ、可抑モ今日ニ在リテハ商業ヲ營ムハ自由ナレハ、第二節參看、已レカ爲シ得ヘキ、又ケ法律ニテ定メラレタル事

件ヲ實行スル以上ハ商人タルヘキ存意アルノミニ、以テ其本人ヲ商人

ト認定スルニ十分ナリトス、而シテ此場合ニ於テハ終ヒニハ慣習トナ

ルヘキ職業ニ就ヒテ已レカナシ得ヘキ所ノ事ヲ爲スモ唯買人ヲ此

ニ來ラシムルヲ強ヒ得可ラサルノミニ、職業ノ不日ニ慣習トナルヘキ

キハ、第一條ニ載セタル文面ハ十分ニ満足スヘシ、バルドッシュユ第七十

三、ブラウワール第七篇第五、ハ、ナリヤール第一百十

十七ヨリ第五十八ニ至ル

(第五十六號) 免許稅ヲ拂フコト、否トハ茲ニ論スル點ニ於テハ些少モ

關係ナキモノナリ、ブラウワール第一篇第六十三丁、故ニ法律上ニ於テ

モ商人タラスノ免許稅ヲ拂フコトアリ、例ヘハ、代官、公証人、醫師、一千八

百五十年五月二十二日ノ法律第十六條、又免許稅ヲ納メヌノ商人タル

ヲ得ルコトアリ、例ヘハ、屋號ヲ掲ケ肆店ヲ開クモ自家所有ノ物品ニ付キ

仕事ヲ爲シ仲間又ハ雇人ナキ職工一千八百三十八年六月四日ノ法律

第十一條及ヒ一千八百六十二年七月二日ノ法律第三條、實際ニ於テハ

縦令免許稅ヲ拂フヘキ筈ナルモ收稅官吏ノ手ヲ脱シテ未ダ拂ハサル

コアルヘシ、又其官吏ノ誤謬ニ因リ拂フヲ要セサルニ拂フコトモアルヘ

シ

(第五十七號) 商人ノ身分ト認定スヘキ事實ハ之ヲ如何シテ証明スヘ

キヤト云ヘンニ何事ト雖モ我爲シ得ヘキノ方法ニ由リ、就中証人或ハ

推測ヲ以テ之ヲ認定スヘシ(民法典第一千三百五十三條)何トナレハ則チ此ノ如キ證明ヲ爲スニ利益ヲ有スル者ハ記載シタル證書ヲ受クルコトヲ得サリシ者ナレハナリ(民法典第一千三百四十八條)裁判官ハ右事實ノ確証ヲ獲之カ區域ヲ量定スルニ付ヒテ全權アル可シハルトツシユール第七十九、フラウワール第一篇第五十三丁ベスレ第六而ノ其事實上ノ決定ハ破毀第十第六十五及ヒ其以下アローセ第十七而ノ其事實上ノ決定ハ破毀ヲ求ムルヲ得可ラサルモノトスアローセ全上

(第五十八號) 余輩カ前ニ論シタル要件ハ法上ニ在リテハ商人ノ身分ヲ定ムルニ缺ク可ラサルモノナリト雖モ然レモ實際ニ在リテハ此身分ハ他ノ事情ニ因リ人ニ附與シ得可ラサルモノナルカ論題ノ起リシ事情ハ二個アリ左ノ如シ

第一 裁判上或ハ裁判外ノ證書ニ於テ此身分ヲ得タル事ハ此ノ如クシテ此身分ヲ得タルキハ實ニ此身分ヲ有スル者トシテ處分ヲ受ク

ヘキ乎トロ、ン(一)會社篇第一篇第三百三十一 蓋シ此身分ヲ有スル者トシテ處分アルキハ利益アルヘク別シテ三個ノ事ニ付テ利益アルヘシ禁錮ノ事(昔時ハ)分散ノ事、商事裁判所管轄ノ事則是レナリ而メ此三個ノ事タル一般ノ秩序ニ關スルモノ、如シ一般ノ秩序ニ關スルモノタル時ハ双方ノ承諾ヲ以テ法律ニ牴觸ス可ラサルナリ禁錮ノ事ニ付テハ民法典第二千六十三條ニ明文アリ分散ノ事ニ付テハ法律ノ總体ヨリ生スルモノ、如シ分散ノ制ハ諸人ノ利益ノ爲メナレハナリ又商事裁判所管轄ノ事ニ付テハ若シ其蘊底ノ民事タル事件ノ訴訟ヲ受ケルコトアルキハ如何ナル場合ニ於テモ已レカ管轄内ノコトニ非スト云フヲ得ヘキコトハ諸人ノ認ムル所ナリ此點ニ付ヒテハ事物ノ實際ニ反セテ約束ノアリシキ外形ニテ反對ト見ユヘキ諸説ト判決トチ左ノ如ク調和セシムルヲ得ヘシ即チ此自認ハ商人タルノ推測ヲ生セシムルモ

ノナレハ商事裁判所ニ訴訟ヲ爲スヲ得ヘク而シテ其自認セシ者ニ反
 對ノ証ヲ擧グルヲ命スルヲ得ヘシ然レモ其自認セシ者モ亦常ニ此
 証明ヲ爲スヲ得ヘキニ因リ若シ此證明ヲ爲シタルモハ裁判所ニテ右
 訴訟ヲ却下セザル可ラス
 一、千八百六十五年六月十四日破毀判決
 一、千八百六十七卷第一九十九
 三、丁〇ハルツシユ一第七十九、チリヤール第五十四、スーギエー第一
 篇第三百十三マツセ第九百五十一ベタリード第五十一ベスレー第一
 二十五及ヒ其以下アローセ第二十六及ヒ其以下〇然レモ若シ反對ノ
 事件ヲ述ヘルモハ裁判所或ハ控訴院ハ其職務ヲ以テ之ヲ求索スル
 ノ義務ナシ之ヲ求索セザリシトテ破毀ヲ爲スヲ得可ラス河トナレハ
 則チ大審院ハ之ヲ破毀スルニ要用ナル事由ナケレハナリ一千八百六
 十六年三月十九日破毀判決
 一、判決集第六十六卷第一部
 第二百十丁〇ベスレー第四百十二及ヒ其以下第七十三
 商人証據ヲ立ツルニ簡易ナルコアルカ故ニ甚タ緊要ナラスシテ私益
 ニ屬スル結果トシテ其自ラ商人ナリト申述ヘタル者相手方カ已レニ
 對シ此方法ヲ用テ証據ヲ立ツルコト妨グルヲ得サルヘシ

第二 既ニ裁判ヲ經タル事件ハ權力ノ事

此事ニ於テハ問題ノ模様ハ變シ法律秩序、公益上ノ推測ナル者ヲ生出
 スルヲ以テ反對ノ証ヲ擧グルコトヲ許サザルモノトス(民法典第一千三
 百五十一條)去レハ既ニ裁判ヲ經タルノ申立ハ必スヤ之ヲ採用セサル
 ナ得サルカ如シ然レモ此効ヤ純乎タル關係上ノ事ナレバ其新タニ生
 出セシ訴訟ト以前ノ者ト全ク同一ニシテ民法典第一千三百五十一條
 ニ記載セラレタル所ノ要件ヲ充足スル者ニ非スハ既經裁判ノ理ヲ
 引援スルコトヲ得サルヘキナリ唯禁錮ノ事ノミコ付テハ格別ニシテ禁
 錮ハ如何ナル訴訟ニ於テモ大審院ニ於テモ之ヲ要求スルコトヲ得ルハ
 判決上絶ヘス見ル所ナリ
 一、千八百六十六年六月十八日破毀判決
 一、判決類聚第六十六卷第一九十九
 丁、裁判所々管ノ異ナルニ付テハ初審ニテ例外ノ事ヲ要求シタルモ裁
 判官之ヲ承諾セザリシ以上ハ一々既經裁判ノ理ニ從フヘキハ判決例

ニ載スル所ナリ 一千八百六十一年七月十八日願訴局判決ダロ
 又原被兩造ノ内一方ノ者商人タル身分ノ爲メ若クハ其身分ニ對シ既
 經裁判ノ權力ヲ適用スヘキ場合ニ於テモ亦制限ヲ設ケサル可ラス故
 ニ新訴訟ニ付テ前ノ裁判ノ後商人トナリシト又ハ商人タルヲ止メタ
 ルヲ申立ツルヲ得サルヲ要ス如何ナトレハ此事ニ於テハ毎ニ地位
 ノ變換シ得可ケレハナリ

若シ一人ノ身ニテ數回商人トシテ裁判言渡ヲ受ケタルハ此事ニ關
 セサリシ他人ト雖モ其商賣ノ業ヲ爲スヲ慣習トスルコトヲ証スルカ
 爲メ右裁判ノ言渡アリシト申立ツルヲ得ヘシ然レモ其時ハ右裁判
 ハ既經裁判ノ權力ナク新規ノ訴訟ニ於テ確証ヲ得ルカ爲メノ其價格
 ナ量定スルハ當該裁判官ノ自由ニ在リトス
 百七十一、アローセ第三十〇蓋シ此事ニ付テハ民事判決ノ刑事ニ勢力
 アルヲ或ハ刑事判決ノ民事ニ勢力アルヲ如何ヲ論辨スルヲ得ヘシ

○ベスレ一第百四十八及其以下

第二節 商人トナル自由ニ制限アル事

(第五十九號) 往時ニ在リテハ 職業組合監督頭取權ナル者アリ其ハ

各職業ニ付テ一定ノ組合ヲ設ケ他人ノ猥リニ之ニ入ルヲ許サ、ルノ制
 ニシテ 此事ニ關シテハルターアルノ發明專賣論第一部第二章シユ一
 レンノ近世社會富實論第二篇第六卷第八章及ヒアレキサンドルシユ
 ウワエ一、千八百六十三年ヨリ一千八百 商業ヲ營マント欲セハ必ス
 六十四年迄ノ恩惠經濟誌ヲ參看スヘシ 商業ヲ營マント欲セハ必ス
 ヤ頭取トナラサルヲ得サリキ蓋シ頭取トナルニハ先ツ修業期ナル者
 ナ經過セサル可ラス(此年限ハ甚タ長ク且甚タ入費ヲ要シ而ノ頭取ノ
 爲メニ苛酷ノ使役ヲ受ケサルヲ得サリキ)其後仲間ノ列ニ入ルナリ仲
 間ノ列ニ入レハ賃銀ヲ得ル職人トハナルヲナシ必ス一奇巧ノ物品
 ナ製作スルヲ要ス奇巧ノ物品トハ頭取タラント欲スル事業中ニ係

リテ無比ノ良品ヲササルヲ得サルモノニテ掛官吏ノ認可ヲ受クヘキモノナリ右物品ヲ製シ認可ヲ經タル後ハ認可ノ手續アリ之ヲ履マサル可ラス而シテ其手續ヲ履行スルニハ亦巨額ノ失費ヲ要シタリキ此等ノ事ハ總ニテ頭取タル者ノ數ヲ制限シ競争ヲ避クルノ主旨ニシテ修業期間入費ヲ出ス能ハス又頭取トナルニ費用ヲ拂フテ能ハカリシ職人ハ勿論競争ノヲナキニヨリ高價ヲ拂ハサルヲ得サル一般消費者ハ爲メニ大ナル損害ヲ被ムリタリ

其他尙ホ特別ノ規則アリテ頭取ノ子若クハ其婦ノ新ヲニ嫁シタル夫ヲ除ク外ハ一切職業ヲ營ムトテ得サリシ等往々之アリ婦女子ハ右組合ノ事ニ付テ一切關係スル能ハサリキ

又右規則ニ遺脱スル所ハ職業、製造方、商品ノ格位等ニ關スル規則アリテ之ヲ補填シ各人隨意ニ其業ヲ營ムトハ全ク得可ラサルヲ以テ諸業

ノ趣向ニ於テ毫モ進歩スルヲ得ヘキトナク製産ノ費用ハ決シテ減スルトナク賣價モ亦決シテ下落スルトナカラシメタリ而シテ又頭取ト雖モ有形若クハ想像ノ違犯ノ爲メニ絶ヘス追捕ヲ官吏ニ受ケ其奴隸ノ如クナルヲ以テ公衆ト同シク右規則ノ爲メニ損害ヲ被ムリシト鮮少ナラサリキ

(第六十號) 抑モ組合ナル者ノ根源ヲ尋ヌルニ聖路易王ノ世商人奉行ナリシエチエンヌボワロー始メテ之ヲ設立セシニ當時ニ在リテハ決シテ弊害ノ生スルトナク何人ト雖モ之ニ入ルトテ得唯良好ナル方法ヲ固フセンカ爲メノミニ僅カニ有用ナル數個ノ規則ヲ定メタルニ過キサリキ

然ルニ間モナク頭取ニ於テ言合セノ如キ者ヲ爲シ組合ヲ閉鎖シ他人ヲシテ猥リニ入ル可ラサラシメ又制限規則ヲ増加シ以テ上ニ示シタ

ル如キ弊害ヲ生スルニ至レリ而ノ勤勞ノ權ハ國王ヨリ賜ハルトノ口
實ヲ以テ規則ノ鞏保ヲ政府ニ乞ヒ租稅ヲ納メテ以テ之ヲ籠絡シタリ
此鞏保ノ事ハ諸王即位毎ニ之ヲ改更シ以テ租稅ヲ納入セリ
是ノ如キカ故ニ國王ハ力ノ及フ丈ケハ組合ノ數ヲ増益スルトハナ
リアンリー三世ハ(一千五百八十一年ノ布告)未タ曾テ其設ケナキ地
方ニ於テモ之ヲ創立シ職工ハ勿論技術者商人ト雖モ(一千五百九十七
年ノ布告)必ス頭取ニ服從セサル可ラサルトセリ又一千六百七十三
年ニ於テ其數ヲ増加シ其後右組合中ニテ賣買ス可キ職務アルニ至レ
リ
當時之ヲ駁撃スル者ナキニ非スコルベール及ヒルローウホワート雖ト
モ亦其不都合ナルトヲ摘示シタリシカ之ヲ改正スルトヲ得サリキ第
十八世紀ノ經濟學士ハ就中之ヲ攻撃セリ

チニルゴハ一千七百七十六年二月ノ布告ヲ以テ右ノ組合ヲ廢シ其布
告ニハ甚タ善美ナル説明書ヲ附シタリシカ「バル、マン」會按國會ノ如
キ者ヲ云フ
ハ頑然其布告登錄ヲ拒ミタリシヲ以テ之ヲ登錄セシムルニ全年三月
ニ於テ「リード」シユスチース按「バル、マン」會ニテ布告ノ登錄ヲ拒ミ
シキ國王ヨリ強ヒテ之ヲ命スルノ書ヲ
下附セサルヲ得サリシナリ其抗拒セシ一大源由ハ從來組合ヨリ納入
セシ租稅ニ易ユヘキ者ナカラサルヲ得サルヲ以テ貴族、僧侶、其他ノ紳
士ニ於テ殊ニ多額ヲ拂ハサル可ラサル地租ヲ創定シタルカ故ナリト
云フ

チニルゴ職ヲ退キ右布告ハ共ニ地ニ墮チ一千七百七十六年八月其取
消ノ令ヲ出シタリ然レモ組合再設ノ際ニハ其規則ヲ變換セシト許多
ナルヲ以テ爾來衰壞ノ有様ナリキ

一千七百九十一年三月二日十七日ノ法律第七條ヲ以テ全ク之ヲ廢止

(第六十一號) 商法草案第一條ニ於テハ何人ト雖モ商賣ヲ爲スノ自由アリトス下云ヒ以テ商賣ノ自由ヲ許セリ然ルニ參議院ニ於テ此定則ハ私法ナル法典ニ載スヘキ者ニ非スシテ公法ヲ掲出スル政事法典ニ載スヘキ者ナリト云ヒ又商人ノ業ト兼務ス可ラサル職業アルカ故ニ此自由ヲ減殺セサル可ラサルヲ以テ法案ニ載スル所ノ定則ハ迷誤ヲ生スヘキモノナリト論セシ者アリキ

輓近論者アリテ往時ノ組合ノ制ヲ復設シ以テ商人ヲシテ其相互ノ利益上ニ於テ協議セシメント發論シタルモノアリ然レ其主意トスル所ハ決シテ舊時ノ者ノ如キナク自由ヲ制限シ及ヒ特權專賣權ヲ生セシムヘキ弊ハ一切之ヲ除却スルニ在リタリ社會經濟會ハ乃チ嘗テ之ヲ主眼トシ講究ヲナシタルヲアリキ
一千八百六十七年一月社會經濟會存議錄第十一丁アルヘル

コウ

現ニ目下數多ノ職業ニ付監督員ヲ設ケ以テ古昔ノ組合ニ類スル職務ヲ行ハシムル都會鮮少ナラサルナリ然レ其決シテ古昔ノ弊害ナシ諸人ノ考察ニ供スヘキ有用ナル事件ヲ聚集シ且法上ノ點ニ於テ最モ着目スヘキ者ハ商人間ニ立テ判斷人トナリ以テ之ヲシテ和熟セシムル如キハ最モ功績ノ存スル所ナリ蓋シ商事裁判所ニ於テハ職業熟知ノ者ニ遭逢スルハ期シ難キヲナレハ右ノ如キ裁判役アルハ實ニ商人ノ幸福ト謂フヘシ
監督員ノ利益アルノ報道ハ余リ商人ノ業ト兼務ス可ラサル職業

(第六十二號) 商人ノ業ト兼務ス可ラサル職業ヲ營ムコトアルモ其罰則ハ商人タルヲ妨ケサルナリ然レ其法律ヲ犯セシ者ニ對シ適用スル所ノ者ハ商法ノ嚴密ナルヲヨリ亦甚シキ者アリ蓋シ其刑罰ハ右禁止

ニ拘ハラスシテ爲シタル商賣ノ事件ヲ全ク取消サシムルニハ非ス(大
 槩)他ノ事ヲ以テ之ヲ罰ス職務上ノ刑是ナリハルドツシユ一第七十六
 十二丁マツセ第九百八十一、フラウワール第一篇第六
 十五、ヘスレー第百及ヒ第百七十二アローセ第十九
 今商賣ヲ爲ス丁ヲ禁セラレタル人ヲ左ニ列載セン
 僧侶 僧侶ハ寺院ノ法律ノミニ因テ其禁ヲ受ケ刑罰ハ宗教取締規則
 ニ從フ

官吏(一千五百六十年ノ王令第一百九條、一千七百六十五年三月ノ布告
 刑罰ハ一千八百十年四月二日ノ法律第四十九條以下ノ懲戒刑ニ從フ)
 代、言、師(一千八百十年十二月十四日ノ勅令第十八條、一千八百二十二年
 十一月十二日ノ王令第四十二條) 刑罰ハ代、言、師ノ姓名簿ヨリ除去ス
 代、書、師(法律ニ明文ナキモ他ノ職務ニ類似ナル事ト職業ヲ讓渡スヘキ
 ことニ基キ右ノ禁止アルモノトス) 刑罰ハ取締規則ニ從フ

公証人(一千八百四十三年一月四日ノ王令第十二條) 刑罰ハ取締上ノ
 刑ナリ(全上第十三條)

使、吏 或ル商業ニ付テノミ禁止アリ(一千八百十三年六月十四日ノ勅
 令第四十一條)

領、事、領、事、生、領、事、館、書、記(一千七百八十一年三月三日ノ王令第一篇第二
 十條、共和第二年第九月二日ノ布達第二十二條、一千八百三十三年八月
 二十日ノ王令第三十四條)

海、軍、士、官、及、ヒ、事、務、官(一千七百八十四年十月三十一日ノ王令第十四篇
 第十九條、共和第二年第九月二日ノ布達第一百二十二條)
 手、形、賣、買、世、話、人、商、業、世、話、人(商法典第八十五條又下ノ第五篇ヲ參看ス
 へシ)

(第六十三號) 右規則ノ外尙ホ關係上ノ禁止ナル者アリテ或ル商業、或

ル事件或ル地ニ於テ其禁止ヲ受クルコアリ
 或ル企業ノ監督ヲ掌トル官吏ハ其業ヲ營ムヲ得ス又或ル事件ニ付キ
 任拂ヲ命スヘキ官吏ハ其事ニ關スルヲ得ス(其規則ト刑罰ハ載セテ刑
 法典第一百七十五條コアリ) 其源由ハ私益ヲ計ル可キ恐レアレハナ
 リ
 陸軍司令官州長郡長ハ所管内ニテ穀物酒類ヲ賣買スルコトヲ得ス(刑法
 典第一百七十六條) 其源由ハ自家ノ權力ヲ擅マ、ニシ或ハ之ヲ買占
 ムルノ弊ヲ防クニアリ
 右最終ノ禁止ニ付テ概テ人ノ可トスル所ハ他ノ禁止ト異ナリテ其制
 裁ハ其官吏ト約定ヲ取結ヒシ者ノ利益ニ關シテ之ヲ取消スヘシトス
 ルニアリ蓋シ若シ之ヲ取消スコトヲ許ストセハ余輩ハ數多ノ論者ノ如
 シ私權保護ノ爲メニ非スソ公益ニ基キ取消スヘキ諸事件ノ如ク悉皆

必ス之ヲ取消サ、ル可ラスト信スルナリ 双方ノ者惡意ナルキニ限ル
 ワン第一版第一篇第六十一、第二版 而シテ其官吏ト約定ヲ取結ヒタル者
 第一篇第四十八、アローセ第二十二 果シテ善意ニ出テタルナラハ官吏ニ對シ損害ノ償ヲ要求スルコトヲ得
 ヘシ然リト雖モ斯ル場合ハ甚タ稀レナリ何トナレハ則チ官吏ノ身分
 ハ大概其結約者ニテ識認スル所ニシテ其自用相應ノ物品ヲ購求スル
 ニ止マルヤ否ヤヲ知ルヘキ筈ナリ又實際ニ於テハ未タ嘗テ斯ノ如キ
 場合ノ出テタルヲ見ス

(第六十四號) 以上舉示スルノ外尙ホ自由ヲ制限スルコトアリ其ハ種々
 ノ制度ヨリ間接ニ生スル者ナリ
 政府ノ專賣權 政府ノ專賣權ハ全ク人民ノ犯ス可ラサルモノニシテ
 何人ト雖モ其目的ナル物品ヲ製造スルコトヲ得ス其專賣權ニ係ル者ハ
 郵便、電信、火藥、烟草、化學性摺附木是レナリ

人民ノ利益ノ爲メニ專有權ト定メラレタル職業 此職業ハ即チ其利益ノ爲メニ斯クハ定メラレタルモノナレハ凡ソ政府ヨリ之ヲ讓與セサルモノハ此權ナシ郵便局主人ノ業(共和第七年三月十九日及ヒ第九月一日ノ法律)鐵道營業又近頃ニ至テハ印刷ノ業、書肆ノ業是レナリ印刷書肆ノ業ヲ營ムニハ專有權ヲ政府ニ請求スルヲ必要トシタリ一千八百十四年十月二十一日ノ法律、印刷ノ事ニ付テハ一千八百十年二月五日ノ勅命、一千八百三十四年四月六日ノ王令、一千八百五十二年三月二十二日ノ勅命又書肆ノ事ニ付テハ一千八百五十二年二月十七日ノ勅命第一條ヲ以テ自由トナリ唯其由チ内務卿ニ届ケ(第二條)印刷人ハ其刊行物ニ必ス自己ノ姓名ヲ記載スルノ義務アルノミ

(第六十五號) 左ニ舉クル事件ハ商人トナル自由ヲ制限シタルヲ看做ス可ラス

能力上ノ要件 此要件ハ或ル職業ニ付テノミ必要トスルモノナリ例ヘハ製藥者ノ爲メニ設ケタル要件ノ如キ是レナリ

防、害、規、則 此規則ハ公益ノ爲メニナカル可ラサルモノニシテ例ヘハ肉店、麵包屋其他危險ニシテ健康ヲ害スヘキ諸場是レナリ一千八百十年十月十五日ノ勅命

警、察、取、締、上、ノ、事 劇場、雜飲食店、其他公共道路ニ於テ爲スヘキ或企業ハ官許ヲ受ケサル可ラサルカ如キ是レナリ

第三章 商人助成者ノ事

此章ヲ別テ二節トス第一節ニハ商人補助者ノ如何ヲ論シ第二節ニハ其權限ヲ論ス即チ一企業ノ利益ヲ數多ノ者ニテ分配スルヲ記載ス可シ

第一節 商人助成者トハ如何

(第六十六號) 抑モ商人助成者ナル者ハ商人ノ業務ニ關與シ平生商賣ノ業ヲ爲スト雖其總テノ結果ノ從屬スヘキ商人ノ身分アルニ非カルヲ以テ能ク之ヲ商人ト辨別スルヲ要ス今何故ニ然ルヤト尋ヌルニ商人助成者ナル者ハ元來代理者ニシテ吾國近世ノ法ニ據レハ代理者ハ自己ノ爲メニ事ヲ取ルモノナリト見做サスマツセ第十五ベスレ一第七十三其人ヲ以テ媒介人ニ由リ事ヲ爲スモノト看做シ凡ソ其事ヨリ生スルノ結果ハ皆委託人ノ引受クヘキ所トス故ニ商人タル者ハ獨リ委託人ナルノミ上文第五十五號參看ス可シヘスレ一(第百)助成者ニ二種アリ其法律ニ定メラレタル處全一ナラサルヲ以テ之ヲ分タサル可ラス

第一 役員役員ハ通常商業ニハ別シテ入用ナルモノニシテ就中精神上ノ勞役ヲ爲スモノトス

第二 力役者 力役者ハ別シテ工業ニ入用ナルモノニシテ就中手藝ノ勞役ヲ爲スモノトス

(第六十七號) 第一 役員ノ事 役員ノ中ニハ帳簿掛出納掛等ノ如キ内ニ在リテ勞役ヲ爲スモノアリ又市場ニテ普テク他人ト賣買シ或ハ旅行役員トシテ取引ヲナスモノアリ而シテ其取引ヲナスモノハ大率買入レノ事ノミカ或ハ賣拂ヒノ事ノミニ付テ代理者タルナリ其他本店支店ノ頭取ナルモノアリ此等ハ皆諸商業ヲ爲スト雖其必竟他人ノ爲メニ之ヲ營ム者ナレハ商人ニハ非ラス此頭取ヲ指シテ番頭ト謂フ以上ノ者ハ第五百四十九條ニ記載シタル特權ヲ有スヘシ其然ル所以ノモノハ民法典第二千一百一條第四項ニ載スル所ヲ擴張シタルナリ然レモ一年ノ給料ヲ減シテ六ヶ月ノ給料トセラレタリ

(第六十八號) 又右等ノ者ハ特別ナル管轄ヲ受クルモノニシテ即チ商

事裁判所ノ管轄ニ屬スルナリ尤モ之ヲ爲メニ商人トナルヲナシ(商人ノ身分ハ此管轄ノ事ノ外ニ尙ホ數多ノ他ノ効アルヲ讀ム者ノ知ル所ナリ)

第六百三十四條 又商事裁判所ニテ左ノ事件ヲ裁判ス可シ

第一 商人ノ番頭又ハ其役員又ハ其僕婢ニ對シ其商業ノ事ニ付テ爲ス所ノ訴訟

此管轄ノ事ハ他人ヨリ此等ノ者ニ對シ爲ス所ノ訴訟ニ適用スヘキハ毫モ疑ヒナキ所ニシテ其之ニ適用スヘキハ蓋シ右ケ條ニ記載スル所ノ文面ノ最モ穩當ナル所ナリ然レモ商人ノ番頭等ハ元ト雇主ノ名代人ニシテ之ヲノ務義ヲ負擔セシムルモ已レ義務ヲ負擔スルヲナキヲ以テ右等ノ訴訟甚タ稀少ナリトス但シ其雇主ノ爲メニ取引ヲ爲スニ際シ他人ト取結ヒタル契約ニ付キ一身上ノ過失ヲ爲シタルカ或ハ番

頭一商店ヲ任セラレ諸人ハ其人ノミヲ知テ之ニ信ヲ措ク如キヲアレハ又右等ノ訴訟ナキニ非サルナリ

雇主ヨリ番頭等ニ對シ爲ス所ノ訴訟ニ付テハ稍々議論ナキニ非スト雖モ是レ亦商事裁判所ニテ裁判スヘキモノナリ蓋シ第六百三十四條ノ文意ハ甚タ廣ケレハナリ

(第六十九號) (論然レモ右番頭等被告人ニ非スハ原告人タルモハ其雇主ニ對スル訴訟ハ之ヲ商事裁判所ニ爲スヲ得可キ乎

第一說ニ於テハ然ラストセリ曰ク法典ニ載スル所ノ文ニハ此場合ヲ包含セズ又其此場合ヲ包含セサルハ緊要ノ事タリ何トナレハ則チ一千六百七十三年ノ王令(第十二篇第五條)ハ全ク廣汎ノ文意ヲ載セズレハナリ 此意味ニテ數多ノ決定アリタルモ皆

第二說ハ之ヲ然リトセリ(可)云ク法典ニ其明文ナキ者ハ必竟其道理ヲ

ル被告人ナル雇主ハ商賣ノ業ヲ爲シタリト云フ一般ノ原則ヨリ生ス可キ者タレハナリ蓋シ第六百三十四條ニ明記セル場合ト全一ナル理由ニシテ此ノ如キ訴訟ヲ裁判スルコトハ右場合ト全シク一種特別ナル知識ナケレハアル可ラス

一千八百六十五年三月二十日願訴局判決ダ
 十八
 丁等
 一
 千
 八
 百
 六
 十
 五
 年
 三
 月
 二
 十
 日
 願
 訴
 局
 判
 決
 ダ
 一
 千
 八
 百
 六
 十
 六
 卷
 第
 一
 部
 第
 二
 百
 六
 十
 八
 丁
 等

（論）又、番頭等ハ便宜ニ因リテハ民事裁判所ニ右訴訟ヲ爲スヲ得ヘキ乎則チ商事民事ノ兩法衙中ニテ番頭等ハ隨意ニ其一ヲ擇ムコトヲ得ル乎

茲ニ注意ス可キモノアリ非商人ヨリ商人ニ對シ訴訟ヲ爲スルハ右兩法衙中其一ヲ擇ムヲ得ルハ裁判ノ例規タルヲ是レナリ

第一説ハ之ヲ然ラストス曰ク番頭等ハ尋常非商人ノ如ク其若シ被告人タルキハ民事裁判所ニ非レハ訴テヘラル、ヲナキ（上文參看）ヲ根據

トシ民事裁判所ニモ訴フルヲ得ヘシト言フヲ得スト

第二説ハ之ヲ然リトス（可）曰ク如何ナル箇條ト雖モ通法ニ係ル此權利ヲ番頭等ヨリ奪取シタルモノアルヲ見サルカ故ニ決シテ其權方ナシト謂フ可ラス殊ニ別格ナル管轄ヲ脱シテ通常ノ管轄ニ歸スルキノ如キハ宜シク其權力アルヘキナリ

一千八百五十九年二月二十二日願訴局判決ダ
 一
 千
 八
 百
 五
 十
 九
 年
 二
 月
 二
 十
 二
 日
 願
 訴
 局
 判
 決
 ダ
 一
 千
 八
 百
 五
 十
 九
 卷
 第
 五
 十
 九
 卷

第一部第二百六十八丁一千八百六十九年三月九日チルレア
 ン控訴院判決ダ
 一
 千
 八
 百
 六
 十
 九
 年
 三
 月
 九
 日
 願
 訴
 局
 判
 決
 ダ
 一
 千
 八
 百
 六
 十
 九
 卷
 第
 二
 部
 第
 五
 十
 五
 丁

（第七十號）第二 力役者ノ事 力役者中ニハ職人頭即チ工場頭取ヲモ包括セサル可ラス但シ工場頭取ハ精神上ノ勞役タル監督ノ事ヲ掌トルト雖モ其職務トスル所ハ手藝ノ勞役ニ關スルヲ常トシ又其給料ハ職人ト全シク每週ニ受取ルヲ慣例トス給料拂方ノ慣例ハ役員ハ特權ト力役者ノ特權トモ差別ヲ設クルニ緊要ナルモノタルヲ下文ニ論スヘシ

力役者ハ手代ト全シク(第五百四十九條)特權ヲ有スルモノナリ而シテ其特權ハ又民法典第二千一百一條第四項ニ記載スル所ニ連繫スルモノナリト雖モ手代ヨリハ甚タシク減殺セラレ僅ニ一ヶ月分ノ給料ニ付ノミ之ヲ有スルトト定メラレタリ蓋シ法律ニ於テハ力役者ハ平生役員ヨリモ近接ナル時間概テ毎週ニ給料ヲ請取ルモノナリト雖モ役員ハ毎月ニ之ヲ請取ルモノナルトナリ而シテ力役者ノ地位ヨ於テハ遲滯セル給金ヲ長ク措キ久シク棄テ之ヲ堆積セシムルトナリ得サルモノナレハ其一ヶ月以上ノ給金ヲ雇主ニ貸置キタリトスルハ稍々不憚ナルトニシテ又分散者ノ債主ハ此ノ如キ給金ノ事ヲ其思想中ニ懷クノ理アル可ラサルナリ

又力役者ハ職工帳ヲ携帶スヘキ義務アリ此帳簿ニハ雇主之ヲ雇入レタル日附ト雇ヲ解キタル日附トヲ記載スヘキ義務アルモノナリ(一千八百五十四年六月二十二日ノ法後一千八百五十四年四月二十日ノ勅命)是レ一般警察上ノ制度ニシテ國內ノ安寧ヲ計リ雇主ノ爲メニ保証トナルモノニシテ又力役者ノ爲メニハ右帳簿ニ據テ其使役サレタル事ノ摸樣ハ判然スヘキヲ以テ信用ヲ得ヘキノ方法ナリ嘗テ此制ヲ廢止セシムルヲ請求シタル者アリタレモ此ハ是レ惡シキ力役者ノ利益ノ爲メトナルノミニシテ一旦之ヲ廢スルトアルモ其行狀ノ宜シカラサルトモ復タ容易ニ識認スル能ハサルニ至ルヘシ右ノ帳面ニハ力役者ニ取リテ甚タ都合能キトカ或ハ都合能カラサルトヲ記載スルヲ禁止シタルハ(一千八百五十四年ノ法律第八條)力役者其帳面ニ據リ自己ノ爲メナラサルトモ証明スル義務アリトスルハ立法者ノ欲セザリシ所ナレハナリ尤モ雇主ニテ右帳面ヲ觀察スルモ其力役者カ行狀ノ善惡ヲ知ルニ十分ナルヘク又其以前ニ雇レタル家ヲモ知ルトナリ得ヘ

ケレハ其家ニ就ヒテ問合チ爲スキハ判然スル所アヘルシ
 (第七十一號) 若シ其雇主トノ訴訟起リシキハ工事裁判所ト云ヘル特
 置ノ法衙ニ於ラ之ヲ裁判ス工事裁判所トハ治安裁判所ト相當スヘキ
 別ナル裁判所ニシテ其裁判役ハ半ハ雇主半ハ力役者ニテ双方必ス同
 數ナルヘシ或ル裁判所ニ於テハ其他ノ都合ニ因リ特ニ工場頭取ヲ
 此中ニ入ル、コアリ其數モ亦雇主ト力役者ト全シカラサル可ラス此
 事ニ付キ今日行ハル、所ノ法律ハ一千八百五十三年六月一日ノ法律
 ナリ 工事裁判所ハ一千八百六十年三月八日リ^ノ府ニ於テ始メテ設ケ
 擴張シ爾來數多^ク而シテ其雇主ナル裁判役ハ雇主ニテ之ヲ選舉シ力役者
 ナル裁判役ハ力役者ニテ之ヲ選舉スルモノトス
 工事裁判所ハ特別ナル勅命ヲ以テ指定シタル地ニ於テ之ヲ設ケ又其
 指定シタル工業場ニ非サレハ其管轄チ受ケサルモノトス而シテ之ヲ設

クルニハ其地ニ附屬スル商務會議所及ヒ參議院ノ意見ニ因ルヘシ
 其他、一般裁判所ナル者アリ一般裁判所トハ通常ノ裁判所ニシテ即チ
 爭論チ審判スルモノナリ此裁判所ハ小ナクモ毎月一回ハ開場シ審判
 チナスヘク而シテ少ナクモ雇主二名力役者二名及ヒ國王ヨリ命シタル
 議長若クハ副議長ノ出席スルヲ要ス而シテ金二百フラン^ノ迄ノ事件ニ付
 テハ始審裁判チ爲スモノトス又其金額以上ノ事ニ付テモ之ヲ裁判ス
 ルト雖モ其裁判ニ不服ナルトキハ商事裁判所ニ控訴スルヲ得ヘシ
 又特別裁判所ナル者アリ此ハ和解裁判所ニシテ少ナクモ每週一回ノ
 審判チ開ク雇主一名職人一名ノ出席ヲ要ス
 工事裁判所ノ設ケナキ地ニ於テハ力役者ト雇主トノ爭論ハ治安裁判
 所ニテ之ヲ裁判ス(一千八百三十八年五月二十五日ノ法律第六條第三
 項)力役者ヲ使用スル商人若シ之ヲ訴フルキハ該規則ニ照準スルモ異

議ナカルヘシト雖其反對ナル場合ニ於テハ(論)力役者ノ便宜ニ因リ其雇主ヲ商事裁判所ニ訴フヲ得ヘキ乎

第一説 然リ通法ニ於テ非商人タル者其望ミニ因リ常ニ商人ヲ商事裁判所ニ訴フルヲ得ヘシ一千八百三十八年ノ法律ハ此規則ヲ廢除シタルニ非ス一千八百五十一年二月二十日ボワチエー控訴院判決

第二説 否ラス(可)一千八百三十八年ノ法律ニ於テハ非商人ナル者通

法ニ於テ商人ニ對シ訴訟ヲ起サントスルハ民事裁判所及ヒ商事裁判所ノ中ニテ何レノ裁判所ニ之ヲ爲スモ其自由ナルヲ許シタリト雖也今論スル所ノ事件ニ付テハ裁判官ト訴訟人トチ近接セシメ且入費ヲ減少セシメンガ爲メ特別ナル管轄ノ事ヲ設ケタリ又此法律ハ力役者被告人タルキ民事裁判所ニテ裁判スル(通法)ヲ廢シタリトセハ其原告人タルキ商事裁判所ニテ裁判スル(特別管轄)ヲ廢シタルナラン

蓋シ第三款第五條ニ於テハ下ノ文ヲ掲ケテ明カニ二個ノ場合ヲ豫定シタリ云ク労働者ト之ヲ使用スル者ト云々雇主ト其力役者トノ双方ノ契約ニ關スル争訟云々又其箇條ニ附加シタルノ文アリ曰ク但シ工事裁判所ニ關スル法律及ヒ規則ニ牴觸スルヲナカルヘシト以テ立法者カ諸般ノ場合ヲ豫定シタルノ思想ヲ見ルニ足ルヘシ裁判例規ニ於テ此説ノ如ク決定シタル者ハ過半数ニ居レリ一千八百七十三年七月二日ナンシ一控訴院判決タロース判決類聚第七十四卷第二部第七十七丁

第二節 種々ノ關係者ニ利益配分ノ事
(第七十二號) 此配分ノ事ハ常ニ企業長即チ雇主ヨリ之ヲ爲スモノトス即チ左ノ如シ

第一 資本ニ應シテ利息ヲ拂フ其利息ニ一定ノ金額ニシテ百ニ付若干ト定メ之ヲ通常金主カ或ハ社員ナル資本者ニ拂フモノトス總ヘテ企業ニ付テハ不動資本ナルモノト流通資本ナルモノトニツアリ不

動資本トハ開設場所ニ備へ付ケタル器械、雜具、車、牛、馬等ノ如キ不動産ト爲シタルモノナリ又流通資本トハ商品賣買ニ付キ斷へス運轉スヘキニ定メラレタルモノニテ買入レヨリ賣出迄ノ時間ノ長キニ隨ヒ益數多ナルヲ要スヘキモノナリ

第二、力、役、者、ノ、勞、動、ハ、給、金、ヲ、以、テ、之、ヲ、辨、償、ス、此、事、ハ、下、文、ニ、論、ス、ヘ、シ
第三、企、業、者、ノ、勞、動、モ、亦、給、金、ヲ、以、テ、之、ヲ、辨、償、ス、但、シ、其、金、額、ハ、力、役、者、ノ、給、金、ヨリ、多、キ、モ、ノ、ナ、リ、其、故、ハ、企、業、者、ノ、勞、動、タ、ル、力、役、者、ニ、比、ス、レ、ハ、甚、ダ、重、大、ニ、シ、テ、且、疲、倦、ス、ヘ、キ、者、ナ、ル、上、ニ、精、神、上、莫、大、ノ、能、力、ア、ル、ヲ、要、シ、其、業、ニ、熟、練、ス、ル、時、間、モ、殊、ニ、長、ク、隨、ヒ、テ、入、費、モ、巨、額、ナ、ラ、サ、ル、能、ハ、カ、レ、ニ、由、ル、又、其、給、金、タ、ル、下、文、ニ、載、ス、ル、所、ノ、餘、贏、金、ト、住、々、混、同、ス、ル、ト、ア、リ、然、レ、モ、其、事、務、ノ、明、瞭、ナ、ラ、ン、ト、テ、欲、ス、ル、企、業、者、ハ、之、ヲ、ノ、判、然、ナ、ラ、シ、メ、サ、ル、可、ラ、ス、如、何、ト、ナ、レ、ハ、若、シ、企、業、者、ニ、於、テ、勞、動、ノ、辨、償、ト、自、己、ノ、資

本ノ利息ノ外ニ餘贏金ヲ得サルキハ其事業ヲ棄テ、他人ノ爲メニ使役セラル、ニ若クナク他人ノ爲メニ使役セラル、キハ下文ニ云フ如キ危険ナルトナカラン

第四、尋常利益ノ外ニ餘分ノ利ヲ得ルキハ企業者ノ餘贏金トナリテ其經過セシ危険ヲ償フモノトス凡ソ商業等ヲ營ムニ能ク注意シテ巧ミニ之カ措置ヲ爲スト雖モ或ハ誤謬ノ事アリ或ハ不慮ノトアリテ危険ナキ能ハサルモノナリ然ラハ即チ深ク將來ノ必需ヲ豫算シ相應ノ貯金ヲ備へサル可ラス故ニ夫ノ餘贏金トハ此ノ如キ損害ノ保險トナルヘキモノニテ如何ナル企業ニ於テモ永ク保全セントテ欲セハ右餘贏金ナル者ハ必スナカル可ラス何トナレハ則チ凡ソ一定ノ時間ニ餘贏金ヲ生セサルノ企業ハ僅少ナル損害ヲ被ムルキハ忽チ零落スヘシト云フヲ以テ定則ト爲ストテ得ヘケレハナリ

組合ヲ結ヒシキハ右餘贏金ナルモノハ組合人ノ間ニ配當金トシテ貸本ノ利息ノ外ニ之ヲ拂フヘキモノトス而シテ其金額ハ通常金主ニ於テハ引受ケサル所ノ危険ナル資本ト利息トニ付テノ損害ノ危険ヲ償フヘキモノナリ(會社篇參看)

(第七十三號) 給金ヲ定ムル事給金ノ高ハ諸物ノ價ノ如ク勞動ノ需要ト其供給トノ關係ニ因リテ定マルモノナリ抑モ給金ヲ減セシムヘキ勞動ノ供給ハ力役者ノ數ト其需要ノ數トニ因リ又給金ヲ高カラシムヘキ需要ハ力役者ヲ探求スル雇主ノ數ニ因ルモノナリ結局其需要ノ増加スルモノハ資本ノ豊饒ニ由ル先ツ諸企業ニ於テ資本饒多ナルキハ停業シテ損失ヲ被テント欲セサル以上ハ力役者ノ給金ヲ高ク拂ハサル可ラス是レ停業スルヨリ寧ロ其給金ヲ増スノ利益アルニ若カサレハナリ又國內一般ノ資本饒多ナルキハ企業ノ數モ増加スヘケレハ

隨フテ勞動ノ需要モ増スヘキニ因リ力役者ノ給金ハ高昂スヘシ又若シ資本一人ノ掌中ニ集合シ非常ノ巨額トナルコアルキハ需要ノ勢力ハ滋々大ナルヘシ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ資本者ハ常ニ最モ有用ニ之ヲ使用スヘケレハナリ

之ニ由テ是レヲ觀レハ資本ト勞動トノ間自然ニ相衝突スヘキモノナキヲ知ルヘシ故ニ力役者ハ一般社會若クハ其從事スル所ノ業務場ニ於テ資本ノ増加スルハ其利益ナリト知ルヘシ蓋シ貸本ハ勞動ト競争ヲ爲ス者ニ非ラス勞動即チ勞動ト競争ヲ爲スモノナリ

(第七十四號) 給金取極メノ方法 給金ハ必ス豫シメ之ヲ確定スヘク事業ノ盛衰ニ隨フテ變ス可ラス故ニ之ヲ取極ムルヤ一時間若干トスルモノアリ一日若干トスルモノアリ又月極メニスルモノアリ或ハ製産セシ物品一個ニ付キ若干トスルモノアリ其每品ニ付キ若干ト定ム

ル者之ヲ每品賃銀ノ勞動ト謂フ此ノ如キ給金取極メノ方法ハ貯蓄モ
 ナク日々ノ生計ニ苦シム力役者ニアリテハ實ニ止ムヲ得サルコトニテ
 力役者ナル者ハ或ハ暫時モ給金ヲ持ツ能ハサル者アリ或ハ休業時間
 ニ堪フル能ハサル者アリ或ハ久シク一錢ノ仕事モナク日ヲ暮ス如キ
 危険ヲ履ム能ハサルモノアリ又後日ニ及ンテハ諸利益ヲ受クヘキト
 アリト雖モ長ク無賃ニテ勞動ヲナスコト能ハサル者等アルコト由ルナリ
 然レモ幾分ノ制限ヲ立テ一定給金ヲ少シク減少シ企業上ノ利益ニ準
 シ其幾分ヲ得セシムル時ハ力役者ニ於テモ己レカ勞動ヲ以テ右利益
 配分ニ關與スルコトヲ得ヘキニ因リ勤勉盡力能ク事業ノ旺盛ヲ計ルヘ
 シ又雇主ハ力役者ノ盡力ニ因テ利益ヲ受クル所アルヘシ
 時間ニ因テ給金ヲ定ムルコトト產出物品ノ數ニ因テ之ヲ定ムルコトト
 二個ノ方法中其產出物品ノ數ニ因ル者ハ甚タ便利トス蓋シ力役者ハ

其時間ヲ有益ニ用ヒ多ク賃銀ヲ得ントスルハ經驗上明カナル所ニシ
 テ雇主モ常ニ數多ノ製産ヲ得又タ費用モ節減スヘキヲ以テ亦利益ヲ
 得ルコトモ隨フテ大ナリ而テ社會ハ右ノ一事ニ付利益ヲ受クル所アル
 ヘシ

力役者モ其了簡ニ因テハ企業者トナルコトヲ得ヘシ之ヲ力役ヲ免レタ
 リト云ヒ雇主ナル媒介者ヲ除却シタリト云ヒ又ハ資本ノ除却トモ云
 フ然レモ其企業者トナルコトハ力ノ及フ丈ノ結合ノ事ニ手ヲ廣ムルト
 雖モ毎ニ莫大ナル困難ノ事アリ唯之ヲ成就スルニ用ユヘキ一方法ハ
 貯金ヲ以テ財主トナルコト是レナリ財貨ヲ貯蓄スルコト難カラサルハ概
 乎貧賤ナル農業者(一年千二百フラン)ノ賃銀ヲ受ケ家内ノ者ト貧窮ニ
 生活スル者ト毎日六フラン(八フラン)乃至十フランノ賃銀ヲ受クルモ
 (二年ニハ千八百フラン)二千四百フラン乃至三千フラントナルヘシ得

ル所悉皆消費スル力役者トノ差別ヲ以テ之ヲ知ルヘシ而ノ貯金ヲ爲スニ至良ナル方法ノ中協力會社ナル者アリ協力會社ノ事ハ會社ノ篇ニ於テ述論スヘシ

(第七十五號) 力役者ト雇主ト給金ニ關シテ相談ヲ爲ス事 給金ヲ定ムルキ力役者ヨリ其高キ下クヘキニ程度アリ給金ノ尋常ナル最低度ハ力役者一家ヲ有シテ生活スルニ必用ナル丈ケノ高ナルヘシト雖モ何奈セン其中ニハ不良ナル競争アリテ聊カ得ル所アルヲ見レハ直チニ之ニ奔馳シ別シテ都會ノ工業ノ如キハ好シテ之ニ從事スルモノナレハ往々右ノ金額ヨリ減少スルコトアルヲ免レス又尋常ナル最高度ハ企業ヨリ製出スル物品ノ賣捌ケ口ヲ得ルニハ元方ノ入用ニ費ヤス所多額ナル可ラサルノ外尙ホ企業者ハ給金ト餘贏金トヲ得サル可ラサルヲ以テ此邊ヲ顧ミ其高キ取極ムヘシ如何トナレハ企業者ニ於テ給

金ト餘贏金トヲ得サルキハ寧ロ其製造場ヲ閉ツルノ愈レルニ若カサレハナリ以上舉クル所之ヲ尋常ノ限度トス然レモ時アリテ不景氣等ノ節ハ或ハ暫時之ヲ超過シ以テ時ノ到ルヲ待ツコトアルヘシ
給金取極ノ事ニ付キ相談ノ整ハサキルコトアルキハ雇主ト力役者ノ双方コテ用ユヘキ方法ハ言合(皆一致シテ給金ノ高キ定ムルヲ謂フ)及ヒ停業是レナリ雇主ハ製造場ヲ閉ツルヲ以テシ力役者ハ勞動ヲ拒絕スルヲ以テス此レ一千八百六十四年五月二十五日ノ法律ヲ以テ規定セラレタル所ナリ此法律ハ刑法典第四百十四條十五條十六條ヲ改正シシタル者ナリ(法典ニ就テ此事ニ係レル箇條ヲ參看スヘシ)
一千七百九十一年六月十七日及ヒ十月六日ノ法律ニ於テハ(第二篇第十九條第二十條)刑法典ノ尋常ナル規則ニ反シ仮令効果ナキモ既ニ協議シタルコトアルキハ以テ刑ニ處セリ共和第十一年第七月二十二日ノ

法律ハ通法ニ復シ言合又ハ停業ヲ執行シ若クハ之ヲ執行セント試ミタル時ニ非サレハ刑ニ處ス可ラストセリ一千八百十年ノ刑法典及ヒ一千八百四十九年ノ法律ニ於テモ亦然リ

一千八百六十四年ノ法律ニ至テハ右言合セノ事ハ犯罪ニ非ストセリ又停業ノ事モ各人隨意ニ決定一致シタルキハ自由勞動ノ正當ナルト見做シ其詭計暴行ノ所爲ニ出ツルニ非レハ之ヲ嚴罰ス可ラストセリ蓋シ其詭計暴行ノ所爲ニ出ルキハ是レ復々自由ノ正當ナル使用ニ非スシテ勞動ニ從事セント欲セル力役者ノ自由ヲ妨害スルモノダレハナリ或ル人ハ深ク進入シテ言合セノ原因ノ正不正ヲ探求スヘシト發言シタル者アリ是レ蓋シ自由ノ使用ハ其目的トスル所正シキ時ニ非サレハ正當ナラサルヲ以テ理論ニ於テハ排駁ス可ラサルモノナリト雖モ時ニ臨シテ相應ナル給金ノ高ヲ定ムルニ付テハ双方自由ニ相

談スルノ外他ニ明確ナル依據トスヘキモノナケレハ果シテ該論ヲ實行スルトセハ事横斷ニ涉ラサルヲ得サルヲ以テ實際ニ於テ之ヲ不可ナリト決定セリ又一千八百六十四年ノ法律第四條ニ於テハ此規則ヲ工業ニ從事スル職工ニ適用スヘキノミナラス農業ニ從事スル力役者ト雖モ土地所有主若クハ小作人ト給金ヲ取極ムル相談ノ事ニハ之ヲ適用スヘシトノ明文ヲ載セタリ

然レモ今日ニ於テ尙ホ數多ノ弊害アリ往々詭計強迫ノ事アルヲ免レスト雖モ之ヲ防遏スル甚タ難ク以テ刑網ヲ脱ルヲ甚タ多シトス今之ヲ防遏スルニ至良ノ方法ナル者ハ先ツ力役者ヲノ給金ノ高ニ付テ遵從セサルヲ得サル經濟上ノ己ム可ラサル道理ヲ知ラシメ又工業ニ付テ暫時間生スヘキ實際上ノ事情ニ明カナラシムルニ在リトス是レ即チ雇主ニ於テ目的トセサル可ラサル所ナリ又全ク惡事ヲ防遏ス可ラ

ズト雖此大ヒニ之ヲ減少スヘキ實際上有益ノ方法アリ此方法ハ掛合
 ナ爲セシ日ヨリ停業ノ日迄若干ノ猶豫ヲ爲スヲ双方ニテ必ス承知
 スヘキ事はレナリ(例ヘハ一月ノ猶豫)此猶豫アルキハ双方共ニ事情
 ナ詳明スルヲ得ヘシ此ノ如ク猶豫ヲ與フルヲハ賃仕事及ヒ物品貸
 與ノ事ニ付テ存スル者ト全様ニテ其賃仕事及ヒ物品貸與ノ事ニ付テ
 ハ若干日前豫メ知告スルニ非サレハ契約ヲ破却スルヲ得サルナリ
 右ノ規則ハ久カテスノ法律ニ記載セラレシ誠ニ希望スヘキ所ナリ
 既ニ嘗テ判決セラレタルアリ曰ク一千八百六十四年ノ法律ヲ以テ
 附與セラレタル自由アリト雖此停業ヲ廣告セシ日ヨリ停業ノ日迄ノ
 内ニテ慣習ノ時間(例ヘハ中八日ヲ隔テタル時間ノ如キ)嘗テ自由ニ
 取結ヒタル契約ヲ必ス遵守セサル可ラスト 一千八百六十九年一月三
 日サントチエンス工事
 裁判所判決タロース判決類聚第七十卷
 第三部第十六丁同様ナル九個ノ判決

第四章 無能力者商業ヲ爲スニ熟練セザル可ザル事

(第七十六號) 法典ニ於テハ無能力者ヲ二種ニ分テリ幼者(第二第三第
 六條)ト有夫ノ婦是レナリ(第四第五第七條)今此章ニ於テハ之ニ治産ノ
 禁ヲ受ケタル者及ヒ裁判所ヨリ命シタル輔佐人アル者ヲ加ヘテ論セ
 ザル可ラズ此事ハ幼者ノ事ノミニ係レル一節ノ附録ニ於テ記載ス可
 シ

第一節 後見ヲ免レタル幼者ノ事

此一節ハ二款アリ第一款ニハ幼者商業ヲ爲スニハ熟練セザル可ラ
 サル事ヲ記載シ第二款ニ至テハ幼者ニシテ商人タル者ノ能力ノ事
 ナ論述ス可シ

第一款 幼者商業ヲ爲スニハ熟練セザル可ラザル事

(第七十七號) 蓋シ商人ノ地位タルヤ甚々重大ナル者ニテ往日ハ之カ

爲メニ禁錮ニ處セラレシヨアリ又家資分散及ヒ倒産ノ不幸ニ陥ルル
 アルニ因リ豫メ之カ計畫ヲ爲スニ非サレバ猥リニ幼者ヲノ此地位ヲ
 得セシム可ラサルナリ古法ニ在テハ幼者ニ付テ十分ナル保護ノ事無
 シ一千六百七十三年ノ王命前ニ係ル法ニ付テマツセ
 第一千三百五十五ヲ參看スヘシベスレ一第百八十一
 一千六百七十三年ノ王命第六條ニ於テハ商賣ノ業ニ付テハ幼者モ丁
 年者ト看做サレタリト雖モ其商人ト爲ル可キ方法ノ如キハ確定セシ
 所無ク獨リ商工組合ニ入りテ頭取トナルニハ二十歳ヲ以テ之ガ限度
 トシタリト雖モ頭取組合無キ職業カ或ハ自由タリシ稀少ナル職業ニ
 付テハ此ノ如キ限度ナル者ナク而シテ又頭取組合ノ事廢セラレ、ニ及
 ヒテハ右ノ危険ハ一般ノ事トナリタリ
 民法典ニ於テハ幼者商人トナルニハ後見ヲ免ル、トシテ隱然必要トシ
 タルヲ以テ聊カ自由ヲ制限シタルヲ見ルナリ商法典編纂ノ時ニ際シ

幼者ノ商人トナルヲ許ス可キヤ否ヤノ議論アリシガ民法典ニ暗ニ之
 ヲ許シタル事アルニ照準シ遂ニ之ヲ許スト決定セリ蓋シ之ヲ許シ
 タルハ幼者父ノ商業ヲ繼續シ或ハ已レガ婦ノ商業ヲ引受ケ或ハ近日
 婚姻ヲ爲スノ目的ヲ以テ商人ノ地位ヲ占ムル等甚ダ正常ナル利益ア
 ルヲ以テナリ加之幼者一名ニテ商業ヲ營ムトハ或ハ衆人ノ信用ヲ受
 クルヲ得可ラザルヲ以テ丁年者ニ計リ之ト社ヲ結ンデ以テ共ニ商
 務ニ従事スルヲアルハ頻々見ル可キ所ナリクルラ一氏ノ演說(ロク)レ
 八然レモ危険ナル事ヲ防遏スル爲メ豫メ之ガ方法ヲ設ケタリ
 丁二條 男○女○ヲ○問○ハ○ス○滿○十○八○歳○以○上○ノ○後○見○ヲ○免○レ○シ○幼○者○ハ○民○法○典○第
 四○百○八○十○七○條○ニ○因○リ○商○業○ヲ○爲○サ○ン○ト○欲○ス○ト○雖○モ○左○ノ○二○件○ア○ル○ニ○非
 サ○レ○ハ○商○業○ヲ○爲○シ○始○ム○ル○ヲ○得○ス○且○其○商○業○ノ○爲○メ○取○結○ヒ○タ○ル○契○約
 ニ○付○丁○年○者○ナ○リ○ト○看○做○ス○可○ラ○ズ○

第一。父ノ許諾ヲ受ケタル事又父ノ死去シ或ハ治産ノ禁ヲ受ケ
或ハ失踪ノ時ハ母ノ許諾ヲ受ケル事又父母共ニ在ラサレ時ハ
親族會議ノ承諾ヲ受ケ且民事裁判所ノ允許ヲ得タル事

第二。父母ノ許諾ノ書又ハ親族會議ノ承諾ノ書ヲ幼者ノ住所ト
爲サントスル地ノ商事裁判所ニ貼附シ且其簿冊ニ登記スル事

之ニ由リ是ヲ觀レハ幼者商業ヲ營ムニハ四個ノ要件ナカル可ラズ
第一後見ヲ免ル、事第二滿十八歳ナル事第三許諾ノ事第四許諾セ
ラレタル旨ヲ廣告スル事是レナリ

〔第七十八號〕

第一 後見ヲ免レタル事(民法典第四百八十七條ヲ比較
ス可シ)後見ヲ免レタル事ハ通法ニ於テ十分ナル能力ヲ得可ヘキニ
付キ必要ナル者トス己レガ收入ヲ隨意ニ使用スルハ商業ニ在テ固
ヨリ無ル可ラザルノ權ナリト雖モ唯商業ヲナスノ許諾ヲ受ケタル

ノミニテハ以テ此權ヲ得可ラス(一千八百六十六年十一月四日參議院ニ於
テヘルリエー氏ノ論)必ズヤ親族ノ信任ニ因テ諸人ノ信任ヲ招致スル
コアルヲ要ス

結婚ニ因リ後見ヲ免レタル事ハ商業ヲ爲スニ甚タ十分ナル事タル可
シ(民法典第四百七十六條)マツセ第千三十七ベスレ一第百八〇配偶
者ノ死亡後ニ於テモ亦同シヘスレ一第百

八
豫メ後見ヲ免ル、コ無キハ許諾アリモ無効タル可ケレバ許諾セラ
レタル趣ヲ廣告スル如ク後見ヲ免レタル事モ亦之ヲ廣告スルヲ良シ
トス如何トナレハ若シ之ヲ廣告セサルモ他人ハ契約ヲ取結ブ前幼
者ニ向フテ其後見ヲ免レタル證據ヲ要求スヘキニ因リ隨テ事務遲延
ノ弊ヲ生ス可シ又契約者ヨリ幼者ニ命シ後見ヲ免レタル事ト許諾ノ
事トヲ簿冊ニ登記シ且之ヲ揭示セシムルコトヲ得可シ

未タ後見ヲ免カレサルニ許諾ノ証書ニ之ヲ免レタル由ヲ記載シタル
 モ以テ後見ヲ免レタリトスルヲ得ス是レ蓋シ論者カ幼者ノ此詐偽
 ナル告知ハ犯罪ナレハ其犯罪ニ付テ契約ヲ取消ス可ラストシテ以テ
 引援シタル所ナリ(民法典第一千三百十條) パルドッシー第五十條
 モ民法典第一千三百七條ニ幼者ヨリ其能力アルヲ述ヘタルノミニ
 テハ其取結ヒタル契約ヲ取消スノ妨ケトナルヲ無キ旨ヲ記載スル事
 ヲ引援シテ右ノ説ニ答ヘサル可ラス而シテ第一千三百七條ニ記シタル
 事ハ第一千三百十條ニ記シタル事ト互ニ相調和スル所アル可シ何ト
 ナレハ則チ唯其陳述ヲ爲シタルノミニテハ詐偽詭計トスルヲ得サ
 レハナリ加之此場合ニ於テハ親子共ニ過失アル可ク而シテ他人モ許諾
 ノ証書ニ據テ幼者タルヲ知ルトモハ唯之ニ對シテ後見ヲ免レタル
 証書ヲ請求セザリシヲ自責スルノ外無キナリ パルトッシー第六十
 一パリーリイ商法論第

三百四ベスレ一第二百六 但シ詐偽詭計ヲナシ以テ他ノ一方ヲシテ後
 十六アローセ第四十七 アローセ
 見ヲ免レタル事ヲ誤信セシムル所アリシハ格別ナリトス 第四十七
 (第七十九號) 第二 滿十八歳ナル事 幼者商業ヲ營ムニ滿十八歳ナ
 ラサル可ラサル事ハ第二ノ要件ニシテ第一要件トハ異ナルモノトス
 如何トナレハ幼者ハ十五歳ニテモ其父母ノ後見ヲ免ル、ヲ得可シ
 (民法典第四百七十七條)女子モ婚姻ニ因リ右同年ニ後見ヲ免ル、ヲ
 得可ケレハナリ

右年齢ニ至ラサル前ニ父母ヨリ許諾ヲ與フルト雖モ其許諾ハ無効タ
 ル可ク又其年齢ニ達シタル後ニ於テモ亦無用ニ歸ス可シ其故ハ其許
 諾ハ最初ヨリ無効タル者ナレハ後日ニ及ンテ効チ生ス可キモノニ非
 ザレバナリ又他人ニ於テ右許諾ノ事ノ廣告セラレタルヲ見ルモ其無
 効タルヲ知ラハ之ヲ信ス可シザル筈ナリ而シテ商業ヲ繼續スルチ父母

之ヲ知ルト雖氏之ヲ默許ト看做ス可キ得可ラズ何トナレハ許諾ノ事
ハ下文ニ載スル如ク公明ナラサル可ラザレバナリ

(第八十號) 第三 許諾ノ事 許諾ハ父之ヲ與フ可キモノトス

父死去シタルカ或ハ治産ノ禁ヲ受ケタルカ或ハ失踪ノキハ母ヨリ許
諾ヲ與フ可キモノトス公ケニ言渡サレタル通常失踪ノ時ハ別ニ異議
無シト雖氏推測ヲ以テ失踪ナリト認定シタル時間ニ在テハ如何シテ
可ナルカ余輩ハ以爲ラク母ノミニテ許諾ヲ與フルコトヲ得ヘシト如何
トナレハ母ハ元來父ノ威權ノ全部ヲ保有スルモノナレバナリ(民法典
第三百七十二條第一百四十八條)蓋シ此權タル父在ルキハ父之ヲ有ス
ルヲ以テ母之ヲ行フコトヲ得可ラサルノミ然レバ父己レガ意見ヲ表ス
ル能ハサルキハ母ニテ彼ノ全權ヲ行フコトヲ得可シ(民法典第一百四十
九條ニ記スル所ノ事ト類似スル者ナリ) ダローズ商人ノ部第三百十九
○バルドッシユ(第五十七)及

ヒバリー(第二百六十三)ニ從ヘハ母ニ親族會議ノ許諾ヲ受クルヲ要
ストセリ○アローゼ(第五十二)ニ從ヘハ此場合ニ於テハ幼者ニ許諾ヲ
與フ可ラ依テ唯父ト隔絶スル地ニ住居スル場合ト雖氏父ノ歸ヘルヲ
待ツキハ數多ノ時日ヲ費シ不都合ナルコトアル以上ハ亦母ニテ右許諾
ヲ爲スコトヲ得可キモノトス

(論)若シ生存ノ父(若クハ母)後見人タラザルキハ如何ト云フニ余輩ハ此
場合ニ於テモ又其生存者ヨリ許諾ヲ與フルコトヲ得可シト答ヘンノミ
何トナレハ此許諾ヲ與フルハ父ノ有スル所ナル威權上ノ所爲ニ出ツ
ルモノニテ後見ノ事ヨリスルモノニ非サレハナリ バリー(二百六十
四及ヒ第二二百六十
五)ダローズ商人ノ部第三百三十八アロー
ゼ第五十○反設モリニエ(第四百十五
父母ナキキハ親族會議ニ於テ右許諾ヲ與フルモノトス但シ此場合ニ
於テハ裁判所ノ認可ヲ要ス其掛リハ民事裁判所ナリトス是レ民法典
ニ之カ明文ヲ載セタル所ナリ蓋シ幼者其許諾ヲ受クルモ尙ホ未タ商